大学の授業とシラバスについて

この冊子はシラバス（syllabus）といい、有明教育芸術短期大学で行われるすべての授業の計画書です。

授業は、指導形態によって「講義」「演習」「実技」に分かれますが、それぞれの授業科目の内容や日程、進度、授業の評価方法やその授業に必要な文献などを、担当する教員が示したものです。

どのような授業が、どのような目的で、どのように進められていくのかが詳しく説明されています。

大学の授業は、教えられるだけの授業ではなく、自ら学び、考え、実行していく場所です。自分の興味のあることのみを好き勝手に学習するのではなく、学問の基本的な体系や考え方（概念）を学び、そこから専門的な知識や技能を修得し、さまざまな場面において応用できる力を養っていかなければ、専門家への道は拓かれません。

学生の皆さんにとって、このシラバスは、次の授業のために何を準備していけば良いのか、また、授業が終わった後、何をまとめておけばよいのかなどを考えるための、勉学の“友”となる一冊です。教員にとってもまた、どのように授業が進んでいるか、どこを改良すればさらにわかりやすいかなどを確認できる一冊です。

3 年間、大切に持って、いつも参照し、有効に活用してくださることを願っています。

有明教育芸術短期大学
子ども教育学科長

≪ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）≫

ディプロマ・ポリシーとは、学科の定めた教育上の目標に到達した結果、学位（ディプロマ）を与える方針を示したものです。本学に在籍し、以下に掲げる子ども教育学科の教育目標に示された知識や資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、学位を授与します。

【子ども教育学科】

- 教育と芸術を通じて人々の生活の質の向上を支援する人材の資質能力の基盤となる人間性・社会性。
- 専門教育科目の履修に必要な基礎学力。
- 子どもたちの考え方や感情を受け止め、理解し、それを踏まえて子どもたちに適切に働きかける能力。
- 幼児教育者の実際について職務を遂行していく能力。
- 音楽、運動、造形、ドラマ、ことば等を中心とする表現コミュニケーション能力。

≪カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）≫

本学では、本学の教育目的（学則第１条)、子ども教育学科の教育目標（学則第７条)、及び子ども教育学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、子ども教育学科の教育目標の実現を目指し、必要な授業科目を開設し、教育課程（カリキュラム）を体系的に編成しています。

【子ども教育学科】

- 教育と芸術を通じて人々の生活の質の向上を支援する人材の資質能力の基盤となる人間性・社会性の涵養。
- 専門教育科目の履修に必要な基礎学力の育成。
- 本学のカリキュラムの構成要素である「子ども理解」、「子ども教育の基礎理論」、「子ども教育の内容と方法」、「教科の基礎」の４領域の力の育成。
- 子どもたちの考え方や感情を受け止め、理解し、それを踏まえて子どもたちに適切に働きかける能力の育成。
- 幼児教育者の実際について職務を遂行していく能力の育成。
- 音楽、運動、造形、ドラマ、ことば等を中心とする表現コミュニケーション能力の育成。

シラバス一覧

【子ども教育学科】

●・・・ 必修科目　○…選択必修科目　△・・・選択科目

	区分	授業科目	開設学期／履修方法 1前	1後	2前	2後	3前	3後	備考	単位	開設学期	担当教員	
基礎教育科目	一般教養	憲法		●						2	1後	小林　康一	1
		教育人間学			●					2	2前	日暮　トモ子	2
		児童文学	○						1科目選択必修	2	1前	三澤　裕見子	3
		地域社会概論	○							2	1前	山本　直樹	4
		芸術文化論		○						2	1後	杵鞭　広美 ・ 有福　一昭	5
	言語	英語Ⅰ	●							1	1前	出口　友香理	6
		英語Ⅱ		●						1	1後	出口　友香理	7
	体育	運動と健康Ⅰ	●							1	1前	菊地　大介	8
		運動と健康Ⅱ		●						1	1後	菊地　大介	9
	クラスセミナー	学習と表現の技法	●							1	1通年	子ども教育学科 全教員	10
		学習と表現の技法			●					1	2通年	子ども教育学科 全教員	11
		学習と表現の技法					●			1	3通年	子ども教育学科 全教員	12

	区分	授業科目	開設学期／履修方法 1前	1後	2前	2後	3前	3後	備考	単位	開設学期	担当教員	
専門教育科目	子ども理解	子ども理解の方法					●			2	3前	赤坂　澄香	13
		保育の心理学Ⅰ			●					2	2前	赤坂　澄香	14
		保育の心理学Ⅱ				●				1	2後	赤坂　澄香	15
		子どもの保健Ⅰ	●							4	1前後	岩本　圭子	16
				●									17
		子どもの食と栄養			●					2	2前	奥島　美智子	18
		子どもの生活習慣				○			1科目選択必修	2	2後	赤坂　澄香	19
		人権と子ども				○				2	2後	日暮　トモ子	20
		発達と障害				○				2	2後	杵鞭　広美	21
	子ども教育の基礎理論	教職入門			●					2	2前	山本　直樹	22
		保育実践演習					●(保)			2	3前	木庭　みち子	23
		教職実践演習(幼・小)						●(幼)		2	3後	有福　一昭 ・ 山本　直樹 橘　和代	24
		教育の理念と歴史	●							2	1前	日暮　トモ子	25
		教育の心理	●							2	1前	髙橋　由利子	26
		教育の組織と運営						●		2	3後	日暮　トモ子	27
		保育原理Ⅰ(理念)	●							2	1前	日暮　トモ子	28
		保育原理Ⅱ(課程と方法)		●						2	1後	諸井　泰子	29
		社会福祉			●					2	2前	岡村　英雄	30
		子どもと家庭の福祉	●							2	1前	宮脇　文恵	31
		社会的養護		●						2	1後	佐藤　東	32
		子どもの保健Ⅱ			●					1	2前	岩本　圭子	33
		家庭支援論				●				2	2後	木庭　みち子	34
		相談援助						●		2	3後	井岡　由美子	35
	子ども教育の内容と方法	乳児保育				●				2	2後	岩本　圭子 ・ 木庭みち子	36
		障害児保育			●					2	2前	杵鞭　広美	37
		社会的養護内容			●					2	2前	佐藤　東	38
		教育方法Ⅰ(情報機器の操作)	●							2	1前	滝沢　清	39
		教育方法Ⅱ(理論と実践)		●						2	1後	山本　直樹	40
		保育教材研究A(うたと手遊び)	●							1	1前	木庭みち子 ・ 松田扶美子	41
		保育教材研究B(語りと人形)		●						1	1後	三澤裕見子 ・ 深澤　瑞穂	42
		保育内容総論				●				2	2後	木庭みち子 ・ 橘　和代	43
		保育内容(言葉)	●							2	1前	三澤　裕見子	44
		保育内容(環境)			●					2	2前	深澤　瑞穂	45
		保育内容(人間関係)	●							2	1前	赤坂　澄香	46
		保育内容(健康)		●						2	1後	鈴木　琴子	47
		保育内容(音楽表現)	○						2科目選択必修	1	1前	山田　麻美子	48
		保育内容(身体表現)		○						1	1後	久保　景子	49
		保育内容(ドラマ表現)	○							1	1前	山本　直樹	50
		保育内容(造形表現)		○						1	1後	深澤　瑞穂	51
		保育相談支援					●			1	3前	杵鞭　広美	52
		総合表現						●		2	3通年	山田　麻美子　他	53
		特別支援教育演習					△			2	3前	杵鞭　広美	54

●・・・ 必修科目　○…選択必修科目　△・・・選択科目

	区分	授業科目	開設学期／履修方法 1前	1後	2前	2後	3前	3後	備考	単位	開設学期	担当教員	
専門教育科目	子ども教育の内容と方法	道徳性の教育			●(小)					2	2前	日暮 トモ子	55
		特別活動の指導				●(小)				2	2後	山本 直樹	56
		生活指導				●(小)				2	2後	羽田 紘一	57
		国語科指導法				○(小)			小免取得希望者は6科目選択必修 ただし、音楽 図画工作 体育 から必ず2科目以上を選択	2	2後	三澤 裕見子	58
		社会科指導法				○(小)				2	2後	山本 直樹	59
		算数科指導法				○(小)				2	2後	滝沢 清	60
		理科指導法				○(小)				2	2後	鶴岡 義彦	61
		生活科指導法					○(小)			2	3前	山嵜 早苗	62
		家庭科指導法					○(小)			2	3前	伊藤 野里子	63
		音楽科指導法						○(小)		2	3後	三小田 美稲子	64
		図画工作科指導法						○(小)		2	3後	有福 一昭	65
		体育科指導法						○(小)		2	3後	菊地 大介	66
	教科の基礎	音楽Ⅰ(理論と基礎実技)	●							1	1前	山田麻美子 ・ 松田扶美子	68
				●						1	1後		69
		音楽Ⅱ(うたと楽器)			●					1	2前	山田麻美子 ・ 松田扶美子 他	70
						●				1	2後		71
		ピアノⅠ(ピアノの基礎)	●							1	1前	山田麻美子 ・ 諸井 泰子 中目ますみ	72
				●						1	1後		73
		ピアノⅡ(弾き歌いと伴奏)			●					1	2前	諸井 泰子 ・ 角田 玲奈 西脇 千花 ・ 福田 久美	74
						●				1	2後		75
		図画工作					●			1	3前	有福 一昭	76
								●		1	3後		77
		体育			●					1	2前	菊地 大介	78
						●				1	2後	菊地 大介	79
		国語(書写を含む)				○			1科目選択必修	2	2後	三澤 裕見子	80
		算数			○					2	2前	滝沢 清	81
		生活				○				2	2後	山嵜 早苗	82
		飼育栽培			○					2	2前	山嵜 早苗	83
		社会			△(小)				小免取得のための選択科目(必修科目ではない)	2	2前	山本 直樹	84
		理科				△(小)				2	2後	藤田 剛志	85
		家庭			△(小)					2	2前	伊藤 野里子	86
	実習	プレ実習		●						1	1通年	杵鞭 広美 ・ 深澤 瑞穂 橘 和代	87
		事前事後の指導(保育所・施設)Ⅰ				●(保)				2	2後	杵鞭 広美 ・ 木庭みち子 橘 和代	88
		事前事後の指導(保育所)Ⅱ					○(保)			1	3前	木庭みち子 ・ 橘 和代	89
		事前事後の指導(施設)Ⅲ					○(保)			1	3前	杵鞭 広美 ・ 橘 和代	90
		保育実習(保育所)Ⅰ					●(保)			2	3前	木庭みち子 ・ 橘 和代	91
		保育実習(施設)Ⅰ					●(保)			2	3前	杵鞭 広美 ・ 橘 和代	92
		保育実習(保育所)Ⅱ					○(保)			2	3前	木庭みち子 ・ 橘 和代	93
		保育実習(施設)Ⅲ					○(保)			2	3前	杵鞭 広美 ・ 橘 和代	94
		事前事後の指導(幼稚園)			●(幼)					1	2通年	深澤 瑞穂 ・ 橘 和代	95
		教育実習(幼稚園)			●(幼)					4	2前後	深澤 瑞穂 ・ 橘 和代	96
		事前事後の指導(小学校)					●(小)			1	3通年	有福 一昭	97
		教育実習(小学校)					●(小)			2	3前	有福 一昭	98
		ボランティア活動とキャリア教育					△			1	3前	山本 直樹 ・ 菊地 大介	99
	卒業研究	卒業研究					●			2	3通年	子ども教育学科 全教員	100
自由科目	レクリエーション・インストラクター資格関連科目	レクリエーション(理論)					●(レク)			2	3前	丸山 正	101
		レクリエーション(実技)					●(レク)			2	3前後	丸山 正	102
								●(レク)					103
	ベビーシッター資格関連科目	在宅保育論						●(ベビ)		2	3後	岩本 圭子 ・ 杵鞭 広美 日暮トモ子 ・ 諸井 泰子 木庭みち子	104

●(保)　：保育士資格取得の場合の必修科目。／ ○(保)：保育士資格取得の場合、Ⅱ・Ⅲいずれかを選択必修。

●(幼)　：幼稚園教員免許状(幼免)取得の場合の必修科目。

●(小)　：小学校教員免許状(小免)取得の場合の必修科目。／ ○(小):小免取得の場合の選択必修科目。／ △(小):小免取得の場合の選択科目。
小免取得のためには、●(幼)の履修が必須。

●(レク)　：レクリエーション・インストラクター資格取得の場合の必修科目。**資格取得のためには、●(幼)または、●(保)○(保)の履修が必須。**

●(ベビ)　：ベビーシッター資格取得の場合の必修科目。**資格取得のためには、●(保)○(保)の履修が必須。**

科目名	基礎教育科目 憲　法	担当教員名	小林　康一
開設学期：1年後期	履修形態：必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

現代においては、発展途上国はもちろん、日本を含めた先進国にも「貧困」「格差」といった問題がある。何故、このような問題が発生したのか、その原因と対策そしてあるべき状況とはいかなるものか。以上について「個人の尊厳」の理念を中心とする日本国憲法の学習を通じて理解させる。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式である。日本国憲法の理解の前提としてヨーロッパの近・現代、日本の明治時代より現在までの歴史の学習を通じて近代以降の統治構造・人的保障について検討していきたい。

【到達目標】

日常の社会現象・政治のあり方等を自らの見識の下で批判的に評価し、自らはこのようにあるべきであり、その為にはこうするべきだという主張が出来る能力を持てることを目標とする。また、日本国憲法をめぐる歴史についても自らの見解を持てるようにする。

【授業時間外学習】　毎授業時間中に指示するが、新聞、テレビニュースの政治、重要な法律制定などに関する記事には常に注意を払い読んでおくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション ―憲法とは何か―
第2回	近代立憲主義の発展 ―憲法の成立―
第3回	近代から現代へ ―憲法の発展―
第4回	日本憲法史Ⅰ ―大日本帝国憲法―
第5回	日本憲法史Ⅱ ―日本国憲法―
第6回	基本的人権総論 ―「個人の尊厳」の理念を中心として―
第7回	自由権Ⅰ ―思想・良心の自由、信仰の自由など―
第8回	自由権Ⅱ ―職業選択の自由、財産権の保障など―
第9回	社会権Ⅰ ―生存権など―
第10回	社会権Ⅱ ―勤労者の権利、労働基本権など―
第11回	国会 ―唯一の立憲機関の意味―
第12回	内閣 ―内閣総理大臣、国務大臣の地位・役割について―
第13回	裁判所 ―人権保障期間としての機能―
第14回	地方自治 ―「民主主義」の学校としての「地方自治」とは何か
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

原則として学期末試験(100%)のみにもとづいて評価する。

【テキスト】

縣幸雄他『法学を学ぶ』和広出版　2004

【参考書・参考資料等】

緒方章宏『憲法入門』2011

【連絡方法】

科目名	基礎教育科目 教育人間学	担当教員名	日暮 トモ子
開設学期：2年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

保育者を目指す学生にとって基礎となる科目である。人間にとっての教育の意味を考えながら、人間への関心を高め、人間を、さらに自分を見つめなおす試みを促す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。人間とは何かという問いを歴史的に考え、さらに、人間を教育的観点からとらえることの意味について考える。人間の発達・成長過程におけるつまずきや逸脱の意味などにも触れ、学生が自己を振り返る助けとなるようにする。

【到達目標】

・人間にとっての教育の意味を考え、その必要性を理解することができる。
・人間の発達・成長過程におけるつまずきや逸脱の意味を理解することができる。

【授業時期間外学習】

・授業内で復習のための小テストを数回行うので、ノート・配付資料等を参考に復習をしておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業概要および進め方の説明、人間らしさとは何か
第2回	Ⅰ．人間と教育：教育とは何かを考える方法 教育という言葉のなりたち、人はなぜ教育しようとするのか
第3回	Ⅰ．人間と教育：自然と文化と教育 ヒトという生物の生き方、人間の生存における自然と文化の関係
第4回	Ⅱ．現代人の社会生活と教育：共同体中心から個人中心の社会へ 社会生活の昔と今、自由と平等、孤独とアノミー
第5回	Ⅱ．現代人の社会生活と教育：現代の教育課題 自立的生存の能力、個性概念の捉え直し、人間関係をどうつくるか
第6回	Ⅲ．育ちの過程：文化の獲得と文化の型 社会化の過程、文化の型としつけ
第7回	Ⅲ．育ちの過程：悪と人間 子どもと悪、人間の弱さへの共感、宗教的人間観
第8回	Ⅲ．育ちの過程：反抗・逸脱の発達的意味 少年犯罪と少年法、青年期における反抗・逸脱、子ども期・青年期の発見
第9回	Ⅲ．育ちの過程：育ちの基礎としての身体 人間観における精神と身体、生の哲学、臨床への着目
第10回	Ⅲ．育ちの過程：教育と学習の関係 教えと学び、教師-生徒関係
第11回	Ⅲ．育ちの過程：何のために学ぶか ライフサイクル論、人生のつながり、学習の学習
第12回	Ⅳ．教育の功罪：支配原理としての教育 「教育」は善か、文化再生産、植民地支配
第13回	Ⅳ．教育の功罪：「教育」の名による虐待 教育と体罰、しつけと虐待
第14回	Ⅳ．教育の功罪：学校の逆機能 教育の一元化、学校化社会、学校による選別とふるい分け
第15回	授業のまとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（3割）・授業内の小テスト（3割）・学期末試験（4割）に基づき、総合的に評価します。

【テキスト】

特に指定しません。授業内で資料を配付します。

【参考書・参考資料等】

・原聡介編『教育と教育観』文教出版、1990年。河合隼雄 『子どもと悪』岩波書店、1997年。
・西平直『教育人間学のために』東京大学出版会、2005年。

【連絡方法】

科目名	基礎教育科目 児童文学	担当教員名	三澤　裕見子
開設学期：1年前期	履修形態：　選択必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

① 日本の児童文学の歴史を概観し、その成立過程を理解する。

② 日本の近代児童文学を切り開いた主要な作家と作品を取り上げて、考察および作品鑑賞をし、その果たした役割について理解する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式である。日本の児童文学史を基調とし、近代以降の主要な児童文学作家と作品を取り上げて解説、児童文学とは何かを考えていく。また、取り上げた主要作家の作品による童話、絵本、紙芝居の読み聞かせの実演によって、児童文学の楽しさ・面白さを味わい、児童文学の理解を深める。

【到達目標】

・日本の近代児童文学の歴史について理解することができる。

・浜田広介、小川未明、坪田譲治、宮澤賢治の主要な作品を鑑賞し、それぞれの作家のその時代に果たした役割及び特色を理解することができる。

【授業時間外学習】

・配布資料を次回までに読んでくること。・授業で取り上げる作家の文庫本を一冊、学期中に読破すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 文学とは何か。児童文学の定義。
第2回	日本の児童文学の歴史概観① 伝承文学～児童文学の源流
第3回	日本の児童文学の歴史概観② 近代児童文学の黎明期
第4回	作家論および作品鑑賞 浜田広介①『泣いたあかおに』『竜の目のなみだ』を中心に
第5回	作家論および作品鑑賞 浜田広介②
第6回	作家論および作品鑑賞 浜田広介③
第7回	作家論および作品鑑賞 小川未明①『赤いろうそくと人魚』『金の輪』を中心に
第8回	作家論および作品鑑賞 小川未明②
第9回	作家論および作品鑑賞 小川未明③
第10回	作家論および作品鑑賞 宮澤賢治①『けんじゅうこうえんりん』『グスコーブドリの伝記』を中心に
第11回	作家論および作品鑑賞 宮澤賢治②
第12回	作家論および作品鑑賞 宮澤賢治③
第13回	作家論および作品鑑賞 宮澤賢治④
第14回	作家論および作品鑑賞 坪田譲治『枝にかかった金輪』を中心に
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

① 平常点（2割）　②感想文などの提出物（2割）　③学期末試験（6割）の割合で評価する。

【テキスト】

『児童文学と紙芝居』武久出版（2013）。その他、授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

日本児童文学学会編『日本児童文学概論』東京書籍、1993／鳥越信著『近代日本児童文学史研究』おうふう、1994

桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集』岩波書店、2006

【連絡方法】

科目名	基礎教育科目 地域社会概論	担当教員名	山本 直樹
開設学期：1年前期	履修形態： 選択必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

現代の保育･教育を考える上で重要なキーワードである「地域社会」についてフィールドワークを通して体験的に理解を深めることを目的とする。特に本学が位置する豊洲・有明地区を例に、保育を深める人的・物的環境としての地域社会に目を向け、地域社会が直面する変動の諸相について理解を得ることを目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

前半は講義を中心に進めるが、地域の歴史や文化、環境等の特性と実情を捉えるため、後半はチームを構成し、学校を出てフィールドワークを実際に行う。授業時間外に学外での特別集中授業を展開するため、受講人数を30人以下に限定する。また、学外での授業の際に施設の入館料、および交通費の負担が必要である。

【到達目標】

豊洲・有明地区を例として人的・物的環境としての地域社会を保育に活かす方法について考える。
豊洲・有明地区を例とした地域社会が直面するについて課題について理解を深めることができる。
研究技法としてのフィールドワークについて理解する。

【授業時期間外学習】

身近な地域を意識し、保育に活用できそうな施設や場所を見つけた場合は常にメモをする。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス　進め方
第2回	地域社会入門
第3回	保育・教育における地域の関係と活用方法
第4回	身近な地域1　豊洲地区
第5回	身近な地域2　有明地区
第6回	フィールドワーク入門　調査の目的、手順、フィールドでの記録、まとめとしての記録
第7回	フィールドワーク1　準備
第8回	フィールドワーク1　東京臨海広域防災公園/リスーピア（パナソニックセンター）
第9回	フィールドワーク1　東京臨海広域防災公園/リスーピア（パナソニックセンター）
第10回	フィールドワーク1　まとめ・報告会
第11回	フィールドワーク2　準備　チームおよびフィールドワーク場所の決定
第12回	フィールドワーク2　豊洲・有明地区
第13回	フィールドワーク2　豊洲・有明地区
第14回	フィールドワーク2　豊洲・有明地区
第15回	フィールドワーク2　まとめ・報告会

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・調査の実施とまとめ記録（30%）・学期末レポート（40%）

【テキスト 】

特に指定しない。

【参考書・参考資料等】

近隣施設の入館料（1500円)、交通費（1500円）程度の負担をお願いする場合があります。

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	基礎教育科目	芸術文化論	担当教員名	杵鞭　広美 有福　一昭
開設学期：1年後期	履修形態： 選択必修		授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

芸術とさまざまな学問との関わりを理解し、多様な鑑賞活動や体験をとおして、人間と芸術を多面的に捉える視点を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

オムニバス形式で行う。音楽と美術を中心としたさまざまな芸術文化を学ぶ。

【到達目標】

芸術作品を鑑賞することにより、豊富な知識、感性、人間性を得る。
音楽、美術（映像、工芸、絵画)、文学等のさまざまなジャンルの芸術作品にふれる。

【授業時期間外学習】　国内のホール、劇場、美術館、博物館のイベント情報を入手し、さまざまなジャンルの芸術作品を鑑賞する。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション　　授業の進め方と評価について
第2回	芸術と文化　　人間と芸術とのかかわりにおける歴史的変遷
第3回	人間の感覚と芸術　　視覚、聴覚の心理学
第4回	色彩論
第5回	デザイン史
第6回	アートと空間
第7回	西洋美術史
第8回	美術作品の鑑賞論
第9回	音の世界　　音響学的要素と音楽的要素
第10回	音楽の世界　　音楽の知覚認知と音響心理
第11回	環境音楽と地域社会　　サウンドスケープ、サウンドエデュケーション
第12回	音楽ジャンルを探る　（バロック、古典からジャズ、ロックまで）
第13回	音楽作品の鑑賞論
第14回	特別講義
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

最終回に実施する筆記試験の成績（80%）　レポート等の課題提出状況（20%）

【テキスト 】

特に定めない　　資料を配布する

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、授業のなかで紹介する

【連絡方法】

科目名	基礎教育科目 英語Ⅰ	担当教員名	出口　友香理
開設学期：1年前期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位数：1単位

【授業のねらい】
グローバル化が進む今日、英語を使う場面が保育や教育現場でも増えてきている。本授業では、アウトプットを重視し中学校・高校で学んできた英語の総復習を行うことで、英語でコミュニケーションを図る意欲を高めるとともにコミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を身に付けることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
指定のテキストを使い個人で予習（単語調べ）・復習（リーディング）を進め、授業では予習した内容を確認し、ペアワークや少人数グループで英語を使った実践練習（発音練習・会話練習・アクティビティ）を中心に授業を進める。

【到達目標】
①日常生活で頻出する話題について英語で表現することができる
②基本的な英会話を聞きとり、内容を理解することができる
③重要な文法事項を理解し、基本的な英文の読み書きができる

【授業時期間外学習】
予習として単語調べ・確認、復習としてリーディング課題(各授業で指定する)に取り組み授業の理解度を深める。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス：授業の内容・進め方・評価の方法 Unit 1: You and me
第 2 回	Unit 2: A good job!
第 3 回	Unit 2: A good job!
第 4 回	Unit 3: Work hard, play hard!
第 5 回	Unit 3: Work hard, play hard!
第 6 回	Unit 4: Somewhere to live
第 7 回	Unit 4: Somewhere to live
第 8 回	Unit 5: Super me!
第 9 回	Unit 5: Super me!
第 10 回	Unit 6: Life’s ups and downs
第 11 回	Unit 6: Life’s ups and downs
第 12 回	Unit 7: Dates to remember ―課題 (Show and Tell)
第 13 回	Unit 7: Dates to remember ―課題発表①
第 14 回	Unit 7: Dates to remember ―課題発表②
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
学期末試験 (60%)、授業への参加態度 (10%)、Unit 単語テスト (15%)、課題 (15%) から総合的に評価する。

【テキスト 】
New Headway: Elementary Fourth Edition Student Book, Oxford University Press, 2011.

【参考書・参考資料等】
英語辞書を持参すること。

【連絡方法】　メール

科目名	基礎教育科目 英語Ⅱ	担当教員名	出口　友香理
開設学期：1年後期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位数：1単位

【授業のねらい】
グローバル化が進む今日、英語を使う場面が保育や教育現場でも増えてきている。本授業では、アウトプットを重視し中学校・高校で学んできた英語の総復習を行うことで、英語でコミュニケーションを図る意欲を高めるとともにコミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を身に付けることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
指定のテキストを使い個人で予習（単語調べ）・復習（リーディング）を進め、授業では予習した内容を確認し、ペアワークや少人数グループで英語を使った実践練習（発音練習・会話練習・アクティビティ）を中心に授業を進める。

【到達目標】
①日常生活で頻出する話題について英語で表現することができる
②基本的な英会話を聞きとり、内容を理解することができる
③重要な文法事項を理解し、基本的な英文の読み書きができる

【時間外学習】
予習として単語調べ・確認、復習としてリーディング課題(各授業で指定する)に取り組み授業の理解度を深める。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス：授業の内容・進め方・評価の方法 Unit 8: Eat in or out?
第2回	Unit 8: Eat in or out?
第3回	Unit 9: City living
第4回	Unit 9: City living
第5回	Unit 10: Where on earth are you?
第6回	Unit 10: Where on earth are you?
第7回	Unit 11: Going far
第8回	Unit 11: Going far
第9回	Unit 12: Never ever!
第10回	Unit 12: Never ever!
第11回	グループワーク：授業で学んだ英語を使って日本を紹介しよう！準備①
第12回	グループワーク：授業で学んだ英語を使って日本を紹介しよう！準備②
第13回	グループワーク発表①
第14回	グループワーク発表②
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
学期末試験 (60%)、授業への参加態度 (10%)、Unit 単語テスト(15%)、グループワーク発表 (15%) から総合的に評価する。

【テキスト 】
New Headway: Elementary Fourth Edition Student Book, Oxford University Press, 2011.

【参考書・参考資料等】
英語辞書を持参すること。

【連絡方法】メール

科目名	基礎教育科目 運動と健康Ⅰ	担当教員名	菊地 大介
開設学期：1年前期	履修形態： 必修	授業形態：実技・講義	単位数：2単位

【授業のねらい】
心と身体の健康をホリスティックにとらえ、様々な運動を介して多様な人間相互のつながりを形成し、自己を表現しながら時間と空間を創造し共有することから、自らの心と身体のあり方と健康とのつながりを理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実技を中心に必要に応じて講義を実施する。活動内容によって室内か屋外いずれかでの授業となる。
スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きおよび外履きを用意すること。
将来保育者や教師を目指す学生であることから、各々が活動に主体的に参加し省察をおこなう。

【到達目標】
生涯スポーツの観点を交えながら様々な運動をホリスティックに幅広くとらえ、参加者にふさわしい活動内容やルールのあり方を検討し、実践することができる。
指導案を作成し、参加者にふさわしい活動を計画・展開し、その教育的な意図を説明することができる。

【授業時期間外学習】
実技を中心に展開する活動内容を参加者に合わせて検討・構成し、指導案を作成する。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション アイスブレイキングと目標設定（講義）
第2回	Action　socialization　experience：グループ・ワーク①（講義）
第3回	身体活動とストレス（講義）
第4回	ゲーム及びボール運動（ゴール型①）
第5回	ゲーム及びボール運動（ベースボール型①）
第6回	ゲーム及びボール運動（ネット型②）
第7回	ゲーム及びボール運動（ベースボール型②）
第8回	ゲーム及びボール運動（ゴール型②）
第9回	Action　socialization　experience：グループ・ワーク②（講義）
第10回	様々な身体活動（基礎）①
第11回	様々な身体活動（基礎）②
第12回	様々な身体活動（基礎）③
第13回	様々な身体活動（基礎）④
第14回	様々な身体活動（基礎）⑤
第15回	まとめ（講義）

【評価方法・基準】
授業への意欲と参加態度（70%）、レポート（30%）から、総合的に評価する。

【テキスト 】
特に指定しないが、必要に応じてプリント資料等を配布する。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて授業の中で紹介する。

【連絡方法】

科目名	基礎教育科目 運動と健康Ⅱ	担当教員名	菊地 大介
開設学期：1年後期	履修形態： 必修	授業形態：実技・講義	単位数：2単位

【授業のねらい】
心と身体の健康をホリスティックにとらえ、様々な運動を介して多様な人間相互のつながりを形成し、自己を表現しながら時間と空間を創造し共有することから、自らの心と身体のあり方と健康とのつながりを理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実技を中心に、必要に応じて講義を実施する。活動内容によって室内か屋外いずれかでの授業となる。
スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きおよび外履きを用意すること。
将来保育者や教師を目指す学生であることから、各々が活動に主体的に参加し省察をおこなう。

【到達目標】
生涯スポーツの観点を交えながら様々な運動をホリスティックに幅広くとらえ、参加者を中心とした活動内容やルールのあり方を理解し、実践することができる。
指導案を作成し、主体的に活動を計画・展開し、その教育的な意図を説明することができる。

【授業時期間外学習】
実技を中心に展開する活動内容を参加者に合わせて検討・構成し、指導案を作成する。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション（講義）
第2回	ニュースポーツ①
第3回	Action　socialization　experience：グループ・ワーク（講義）
第4回	ニュースポーツ②
第5回	ホリスティックに捉える運動と健康（講義）
第6回	様々な用具を用いた活動
第7回	遊びと運動指導（講義）
第8回	リレー遊びとその応用
第9回	ニュースポーツ③
第10回	様々な身体活動（応用）①
第11回	様々な身体活動（応用）②
第12回	様々な身体活動（応用）③
第13回	様々な身体活動（応用）④
第14回	様々な身体活動（応用）⑤
第15回	まとめ（講義）

【評価方法・基準】
授業への意欲と参加態度（70%）、レポート（30%）から、総合的に評価する。

【テキスト 】
特に指定しないが、必要に応じてプリント資料等を配布する。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて授業の中で紹介する。

【連絡方法】

科目名	基礎教育科目 学習と表現の技法（1 年）	担当教員名	子ども教育学科 全教員
開設学期：1 年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位数：1 単位

【授業のねらい】
第 1 学年の学修の過程を支援し、大学での学びと生活について、基本的な知識と理解を得ることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
・この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。
・大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。
・他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を得る。

【到達目標】
・課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ
・自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。

【授業時期間外学習】
研究課題に関する資料の収集、レポートの作成

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス①
第 2 回	宿泊研修に向けて
第 3 回	宿泊研修のまとめ
第 4 回	就活ガイダンス
第 5 回	1・2 学年合同学習
第 6 回	課題研究①
第 7 回	ミニガイダンス① 課題研究②
第 8 回	研究発表に向けて①（3 年卒業論文中間発表会への参加）
第 9 回	ミニガイダンス②
第 10 回	課題研究③
第 11 回	課題研究④
第 12 回	課題研究⑤
第 13 回	就活セミナー
第 14 回	ミニガイダンス③ 課題研究⑥
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
課題への取り組み、発表内容より評価する。

【テキスト 】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】各自、掲示にて確認のこと。

科目名	基礎教育科目 学習と表現の技法（2 年）	担当教員名	子ども教育学科 全教員
開設学期：2 年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位数：1 単位

【授業のねらい】
第 2 学年の学修の過程を支援し、大学での学びと生活について、基本的な知識と理解を得ることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
・この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。
・大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。
・他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を得る。

【到達目標】
・課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ
・自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。

【授業時期間外学習】
研究課題に関する資料の収集、レポートの作成

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス①
第 2 回	課題研究①
第 3 回	就活ガイダンス
第 4 回	課題研究②
第 5 回	1・2 学年合同学習
第 6 回	課題研究③
第 7 回	ミニガイダンス① 課題研究④
第 8 回	研究発表に向けて①（3 年卒業論文中間発表会への参加）
第 9 回	ミニガイダンス②
第 10 回	課題研究⑤
第 11 回	課題研究⑥
第 12 回	課題研究⑦
第 13 回	就活セミナー
第 14 回	ミニガイダンス③ 課題研究⑧
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
課題への取り組み、発表内容より評価する。

【テキスト 】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】各自、掲示にて確認のこと。

科目名	基礎教育科目 学習と表現の技法（3 年）	担当教員名	子ども教育学科 全教員
開設学期　3 年前期	履修形態：　必修	授業形態：講義	単位数：1 単位

【授業のねらい】
第 3 学年の学修の過程を支援し、大学での学びと生活について、基本的な知識と理解を得ることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
・この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。
・大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。
・他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を得る。

【到達目標】
・課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ
・自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。

【授業時期間外学習】
研究課題に関する資料の収集、レポートの作成

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス①
第 2 回	就活ガイダンス①
第 3 回	課題研究①
第 4 回	課題研究②
第 5 回	課題研究③
第 6 回	就活ガイダンス②
第 7 回	ミニガイダンス① 課題研究④
第 8 回	中間まとめ
第 9 回	ミニガイダンス②
第 10 回	課題研究⑤
第 11 回	課題研究⑥
第 12 回	課題研究⑦
第 13 回	就職体験談
第 14 回	ミニガイダンス③卒業論文発表準備
第 15 回	総まとめ

【評価方法・基準】
課題への取り組み、発表内容より評価する。

【テキスト 】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】各自、掲示にて確認のこと。

科目名	専門教育科目 子ども理解の方法	担当教員名	赤坂 澄香
開設学期：3 年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位数：2 単位

【授業のねらい】

乳幼児期からの子どもの発達年代に即して、子どもの行動並びに内面を知る必要性を理解するとともに、子どもの多様な姿について識見を深める。子どもの理解を基盤として、保育・教育場面で子どもとどのように接すればよいか、具体的な方法について体験的に学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)

講義形式であるが、随時演習を取り入れる。心理学的、社会学的あるいは歴史的な子ども理解の一般的な方法を学ぶ。演習に際しては、他の科目で修得した保育・教育についての知識・技能を利用して考える習慣を身につける。

【到達目標】

具体的な事例を通して、乳幼児期からの子どもの多様性について、理解を深める方法を知り、活用することができる。
保育者・教員として子どもの成長に携わる者の持つべき実践的態度を身につける。

【授業時期間外学習】

授業に必要な資料や紹介した参考書をよく読むとともに、授業内容を復習しておくこと。

回 数	授 業 内 容
第 1 回	講義の進め方の説明 なぜ、子ども理解が必要なのか。その意義について検討する。
第 2 回	子ども理解の方法① 子ども理解に必要な情報の収集について理解する。
第 3 回	子ども理解の方法② 描画法「ＨＴＰテスト」の演習を行い、絵を用いた子ども理解の方法を体験的に学ぶ。
第 4 回	子ども理解の方法③ 描画法「スクイグル法」の演習を行い、絵を用いた子ども理解の方法を体験的に学ぶ。
第 5 回	子どもの発達の諸相① 乳幼児期・児童期・青年期の発達について理解する。
第 6 回	子どもの発達の諸相② 発達障碍のある幼児・児童・生徒についての理解を深める。
第 7 回	子どもの発達の諸相③ 発達について事例を通して考える。
第 8 回	家族の人間関係と子どもに与える影響 家族関係の理解を通して、子ども理解を深める。
第 9 回	親の養育態度と子どもの人格形成 子どものパーソナリティーの形成と発達に影響する親の姿勢態度を理解する。
第 10 回	保育者と乳幼児の関係性について 事例を通して、保育者の役割を検討する。
第 11 回	児童理解の実際① 事例に基づいて検討する。短縮事例法の演習を行う。
第 12 回	児童理解の実際② グループに分かれて話し合ったことを発表する。補足の講義をする。
第 13 回	子ども観と保育・授業の形態 子ども観の歴史的変遷を理解する。教師・保育者の関係と役割について理解を深める。
第 14 回	子どもの福祉を考える 虐待問題の理解を深める。子ども家庭支援センター等の子どもの福祉機関、制度を知る。
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

課題等提出物（30%）、学期末試験（70%）を総合して評価評定する。ただし、学期末試験において 60 点未満のものは、単位認定しない。

【テキスト 】

授業時にプリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育の心理学Ⅰ	担当教員名	赤坂　澄香
開設学期：2年前期	履修形態：　必修	授業形態:講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

将来、保育者を目指す学生にとって、重要不可欠である乳幼児の心身の発達についての基礎知識を学び、「子どもを見る目」を育てる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、個人・グループでの演習も交えながら進める。乳幼児期を中心としつつ、生涯発達に関する基礎的な知識を得られる内容を扱う。

【到達目標】

・基礎的な発達理論を理解することができる。
・乳児期から老年期までの生涯発達の様相を理解することができる。

【授業時間外学習】

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション　～発達とは何か？～
第2回	発達の要因
第3回	発達理論　フロイト
第4回	発達理論　ハヴィガーストとマズロー
第5回	胎児期と乳児期の発達過程
第6回	身体発達の基本原理
第7回	幼児期の発達過程１　ピアジェの発達理論
第8回	幼児期の発達過程２　ことばの機能の発達的変化
第9回	幼児期の発達過程３　認知機能の発達
第10回	児童期の発達過程１　道徳性の発達
第11回	児童期の発達過程２　学習のメカニズム
第12回	青年期の発達過程
第13回	成人期以降の発達過程
第14回	中年期・老年期の発達過程
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度(30%)、課題・小テスト(20%)、定期試験の成績(50%) に基づき、総合的に評価する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

本郷一夫　編著（2011）保育の心理学Ⅰ・Ⅱ　建帛社.
岡本依子　菅野幸恵　塚田ー城みちる（2011）エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学　新曜社.

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育の心理学Ⅱ	担当教員名	赤坂　澄香
開設学期：2 年後期	履修形態：　必修	授業形態:演習	単位数：1 単位

【授業のねらい】

心理学的知見を基盤とした客観的・科学的な発達理解の方法を学ぶ。それらの学習を踏まえ、保育や子育て支援の場での発達支援の実践方法を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。個人あるいはグループで観察法、質問紙法、検査法の実施、採点、解釈の演習を行う。さまざまな発達理解の方法を体験的に学習することで知識を深め、保育や子育て支援の場での発達支援の実践力を身につける。

【到達目標】

・行動観察法、質問紙法、検査法についての基礎的な知識を得る。
・さまざまな発達理解の方法を理解し、保育・子育て支援の実践的なスキルを身につける。

【授業時間外学習】

授業で扱った内容について、授業時に配布したプリントや参考書で復習して理解を深めておくこと。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	オリエンテーション 保育の心理学を学ぶ意味、子ども理解をゆがませるもの
第 2 回	子どものファンタジー 視聴覚教材を用いた演習課題
第 3 回	子どものファンタジー 視聴覚教材を用いた演習課題の解説
第 4 回	子どもの発達理解の方法 観察法①　観察の手法
第 5 回	子どもの発達理解の方法 観察法②　時間見本法の演習
第 6 回	子どもの発達理解の方法 質問紙法
第 7 回	子どもの発達理解の方法 知能検査①　ビネー式知能検査
第 8 回	子どもの発達理解の方法 知能検査②　ウェクスラー式知能検査
第 9 回	子どもの発達理解の方法 知能検査③　ウェクスラー式知能検査
第 10 回	子どもの発達理解の方法 知能検査④　グッドイナフ人物画知能検査
第 11 回	子どもの発達理解の方法 知能検査⑤　グッドイナフ人物画知能検査
第 12 回	子どもの発達理解の方法 発達検査①　発達検査の種類
第 13 回	子どもの発達理解の方法 発達検査②　発達検査の演習
第 14 回	発達と支援の実践
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）、課題・小テスト（40%）、定期試験（30%）から総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

鎌原雅彦ほか　編著（1998）心理学マニュアル　質問紙法　北大路書房.
中原潤ほか　編著（1997）心理学マニュアル　観察法　北大路書房.

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 子どもの保健Ⅰ	担当教員名	岩本 圭子
開設学期：1年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

この授業では、保育者として子どもの健康を守るために必要な知識を身につけることをねらいとしている。
内容として「子どもの健康と保健の意義」「子どもの心身の発育・発達」「子どもの健康状態を把握と保育」「子どもに多い疾病」などについて学習していく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。受講者を「将来の保育者」と位置づけ、授業を展開する。テキストのポイントを板書するほか、必要に応じてプリントを配布しながら授業を進めるので、全体の流れがわかるようなノート作りをすすめる。

【到達目標】

1．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
2．子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と健康について知識を得る。
3．子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解し、判断することができる。

【授業時期間外学習】

授業終了時に示すテキストの箇所を読んでおくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 子どもの健康と保健の意義　（1）保健活動
第2回	子どもの健康と保健の意義 （2）健康の概念と健康指標　　（3）地域における保健活動と児童虐待防止
第3回	生物としてのヒトの成り立ち
第4回	身体発育と保健
第5回	生理機能の発達と保健
第6回	運動機能の発達と保健
第7回	精神機能の発達と保健
第8回	子どもの健康状態の把握と保育
第9回	子どもに多い感染症①急性上気道炎、突発性発疹、急性灰白髄炎（ポリオ)、ジフテリアなど
第10回	子どもに多い感染症②インフルエンザ、百日咳、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、結核など
第11回	子どもに多い感染症③咽頭結膜熱・アデノウイルス感染症、日本脳炎、A群連鎖球菌感染症など
第12回	子どもに多い感染症④手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、とびひ、アタマジラミなど
第13回	先天異常①先天異常を学ぶ重要性、先天異常の原因
第14回	先天異常②遺伝と環境、染色体異常
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

筆記試験90%、授業への参加態度10%より、総合的に評価します。
授業参加時間が60分未満は欠席扱いとします。電車等の遅延証明書は1回まで考慮します。

【テキスト 】

加藤忠明・岩田力 編著『図表で学ぶ 子どもの保健Ⅰ』、健帛社、2013（¥2,400＋税）

【参考書・参考資料等】

高野陽・加藤則子・加藤忠明・松橋有子編著『新 保育ライブラリ 小児保健(新版)』、北大路書房、2011

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 子どもの保健Ⅰ	担当教員名	岩本 圭子
開設学期：1年後期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

この授業では、保育者として子どもの健康を守るために必要な知識を身につけることをねらいとしている。
内容として「子どもの慢性疾患」「子どもの疾病とその予防」「子どもの精神保健と心の健康」「子どもの安全管理と事故防止」「地域保健活動」などについて学習していく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。受講者を「将来の保育者」と位置づけ、授業を展開する。テキストのポイントを板書するほか、必要に応じてプリントを配布しながら授業を進めるので、全体の流れがわかるようなノート作りをすすめる。

【到達目標】

1．子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解し、判断できる。
2．子どもの精神保健とその課題等について理解できる。
3．保育における衛生管理と安全対策について理解できる。
4．施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解できる。

【授業時期間外学習】

授業終了時に示すテキストの箇所を読んでおくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス、 免疫とアレルギー①アレルギーとは、食物アレルギーについて
第2回	免疫とアレルギー②アトピー性皮膚炎について、気管支喘息について
第3回	子どもの慢性疾患
第4回	子どもの疾病とその予防 （1）日常みられる症状 ① 全身状態の観察、発熱、咳、くしゃみ、鼻汁、咽頭痛など
第5回	子どもの疾病とその予防 （1）日常みられる症状 ② 口内痛、リンパ節腫脹、頭痛、腹痛、吐き気、嘔吐、下痢など
第6回	子どもの疾病とその予防 （1）日常みられる症状 ③ 脱水症状、便秘、けいれん、意識障害、出血傾向、発疹など
第7回	子どもの疾病とその予防 （2）病児とその対応
第8回	子どもの疾病とその予防 （3）疾病予防、早期発見するために
第9回	子どもの生活環境と精神保健―子どもの心身症を中心に―
第10回	子どもの心の健康とその課題－発達障害を中心に－
第11回	保育環境整備と衛生管理 保育現場における事故の特徴と事故防止対策
第12回	子どものケガや事故への対応 保育現場における安全対策と危機管理
第13回	児童福祉施設の保健活動
第14回	母子保健対策と保育
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

筆記試験90%、授業への参加態度10%より、総合的に評価します。
授業参加時間が60分未満は欠席扱いとします。電車等の遅延証明書は1回まで考慮します。

【テキスト 】

加藤忠明・岩田力 編著『図表で学ぶ 子どもの保健Ⅰ』、健帛社、2013（¥2,400＋税）

【参考書・参考資料等】

高野陽・加藤則子・加藤忠明・松橋有子編著『新 保育ライブラリ 小児保健(新版)』、北大路書房、2011

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 子どもの食と栄養	担当教員名	奥島　美智子
開設学期：2 年前期	履修形態：　必修	授業形態:演習	単位数：2 単位

【授業のねらい】

正しい健康・栄養知識を学び、自分自身の食生活を見直し、子どもや保護者に対して食育ができる能力を習得させる。つまり、子どもに食を営む力や望ましい食生活を実践できる力を育成し、保護者に家庭の食生活改善に役立ててもらえるような食育能力を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。栄養に関する基本的知識と子どもの発達段階に応じた栄養的特徴と食生活のあり方を学ぶ。また、摂食問題への対応、疾病時や障害児への食事療法、胎児期(妊婦)の食事と体重管理、食育の基本などを学習する。

【到達目標】

・栄養に関する基本知識が習得できる。
・子どもの発達段階に応じた食生活のあり方が理解できる。
・幼児・学童に対する食育内容を学ぶことができる。

【授業時間外学習】

毎回の授業内容を復習し、専門用語の意味などをしっかり理解しておく。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	・講義の進め方と評価の方法 ・子どもの食生活の特徴と健康状態
第 2 回	・栄養に関する基本的知識① ・栄養素の種類と働き、主な供給源
第 3 回	・栄養に関する基本的知識② ・消化吸収過程、食事摂取基準
第 4 回	・子どもの発育・発達 ・発育特徴と栄養状態を評価する方法
第 5 回	・妊婦・授乳期の栄養 ・妊娠前・中・後期の食事管理と体重管理
第 6 回	・乳児期の栄養① ・乳汁栄養(母乳・人工乳栄養・混合栄養)
第 7 回	・乳児期の栄養② ・離乳食の進め方と目安、保護者への食育
第 8 回	・幼児期の栄養① ・食品構成に見合った献立の作成(お弁当作りのレポート提出)
第 9 回	・幼児期の栄養② ・間食の意義・与え方・適する食品、幼児の食育
第 10 回	・学童期(思春期)の栄養 ・学校給食の目的と役割、学童の食育
第 11 回	・特別に配慮を要する子どもの栄養 ・疾病や体調不良に応じた食事療法
第 12 回	・障害のある子どもの栄養 ・障害のある子どもへの関わり方(食事介助の仕方)
第 13 回	・児童福祉施設での食生活、食育の基本 ・保育所給食の栄養量と留意点、食育の教材例
第 14 回	・プレゼンテーション ・ペープサートを教材に用いた食育
第 15 回	・まとめ

【評価方法・基準】

レポート(20%)・プレゼン(15%)・テスト(60%)・受講態度(5%)に基づき、総合的に評価する

【テキスト】

「最新　子どもの食と栄養」飯塚美和子等編　学建書院　2016 年度

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 子どもの生活習慣	担当教員名	赤坂　澄香
開設学期：1年後期	履修形態：　選択必修	授業形態:講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

乳幼児期に基本的生活習慣を身につける重要性を理解し、睡眠・食事・排泄・清潔・衣類の着脱について、どのような援助や環境が必要であるかを理論と実践から学ぶ。また、家庭における生活習慣についての育児の実態と今日の子どもの生活習慣の課題を学び、将来、保育現場に立つ者としての家庭と連携する力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、随時演習を取り入れる。乳幼児期の基本的生活習慣についての概要や、幼稚園および保育所における適切な援助や環境のあり方・工夫を学ぶ。また、生活習慣を身につけるための教材製作を行い、実際に援助や環境の工夫について検討する。

【到達目標】

・子どもの生活習慣について、その意義や内容等を学ぶことを通して保育・教育への理解を深めることができる。
・子どもの生活習慣について、どのような援助や環境が必要であるかを理解し、自ら実践することができる。

【授業時間外学習】

授業時に配布した資料や参考書をよく読み、子どもの生活習慣に関する知識を深めておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス　子どもの生活習慣とは
第2回	乳幼児期のおける食事の習慣と適切な援助・環境 授乳・離乳食について
第3回	乳幼児期のおける食事の習慣と適切な援助・環境 スプーン・箸・器の使い方
第4回	乳幼児期のおける食事の習慣と適切な援助・環境 食事のマナー・正しい配膳ランチョンマット作り
第5回	乳幼児期のおける食事の習慣と適切な援助・環境 離乳食調理実習
第6回	乳幼児期のおける睡眠の習慣と適切な援助・環境 環境づくり、寝かしつけ
第7回	乳幼児期のおける排泄の習慣と適切な援助・環境 オムツ交換・おむつからパンツへ
第8回	乳幼児期のおける排泄の習慣と適切な援助・環境 トイレの使い方・環境の工夫
第9回	乳幼児期のおける衣類の習慣と適切な援助・環境 乳児の着替え、援助の仕方
第10回	乳幼児期のおける衣類の習慣と適切な援助・環境 衣類の着脱、援助の工夫
第11回	乳幼児期のおける清潔の習慣と適切な援助・環境 手洗い・うがい・鼻かみ
第12回	乳幼児期のおける清潔の習慣と適切な援助・環境 歯みがき・お片付け
第13回	生活習慣の身につけに役立つ保育教材づくり 製作活動
第14回	生活習慣の身につけに役立つ保育教材づくり グループディスカッション
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・試験（40%）・教材製作（30%）に基づき、総合的に評価する。

【テキスト】

授業時、プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

谷田貝公昭監修「生活の自立Hand Book」学研教育出版　2011

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 人権と子ども	担当教員名	日暮 トモ子
開設学期：2年後期	履修形態： 選択必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

人間として生きることの根本にかかわる権利として人権がある。人権の歴史と現実について理解するとともに、人権教育、同和教育の理念と方法について学ぶ。また、子どもの権利の固有の意味、及び侵害の現実を調べ、理解を深める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

人権と差別の問題についての一般的理解を深めるとともに、現代社会における人権問題の特質を知り、今後にどのような解決課題があるかを学ぶ。さらに、子どもの権利が阻害されている事態が発生している状況にどう対応するかを考える。基本は講義だが、学生の発表資料を教材に授業を進める。初回授業で発表順番を決定する。

【到達目標】

・人権の歴史、差別の問題についての理解を深めることができる。
・子どもの権利が侵害されている状況への対応について考察することができる。

【授業時期間外学習】

・発表者は資料を作成し授業前に提出すること。発表者以外は発表テーマについて参考書等で予習をすること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業内容及び進め方の説明、発表順番の決定
第2回	１．人権認識の歴史
第3回	２．差別事象 （１）人種差別
第4回	２．差別事象 （２）身分差別
第5回	２．差別事象 （３）性と人権
第6回	２．差別事象 （４）障害者の人権と差別
第7回	３．近代社会における差別 （１）法的差別と社会的差別
第8回	３．近代社会における差別 （２）自然的平等不平等と社会的平等不平等
第9回	３．近代社会における差別 （３）差別の再生産
第10回	４．子どもの権利侵害 （１）子どもの権利とは
第11回	４．子どもの権利侵害 （２）虐待と体罰、いじめ
第12回	４．子どもの権利侵害 （３）親権とは
第13回	４．子どもの権利侵害 （４）子どもの権利に対する法的対応
第14回	５．人権教育のあり方について
第15回	授業のまとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（2割）、授業内での発表（2割）、宿題（発表資料の作成）（2割）、学期末試験（4割）に基づき評価します。初回授業で発表順番を決定するため、履修希望者は初回授業に必ず出席してください。

【テキスト】

特に指定しません。授業の進行にしたがって資料等を示します。

【参考書・参考資料等】

・村井実 『人間の権利』講談社、1996年。・阿部照哉ほか『基本的人権の歴史』有斐閣 、1979年。
・黒川みどり『近代部落史-明治から現代まで』平凡社、2011年。・『世界マイノリティ事典』明石書店、1996年。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 発達と障害	担当教員名	杵鞭　広美
開設学期：2 年後期	履修形態： 選択必修	授業形態:講義	単位数：2 単位

【授業のねらい】

乳児期から青年期までの子どもの発達と認知的特徴について学ぶ。
特に、発達障害児が示すさまざまな行動と心理的関係から、個別の支援のあり方にについて考察する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式であるが、授業の後半では、各回のテーマにそってディスカッションを行う。
障害児のコミュニケーション支援に重点をおき、具体的な援助方法を発達的観点から考察する。

【到達目標】

この授業をとおして、障がいをもつ子どもの日常的な行動から、その心理的意味をとらえ、具体的な支援のありかたを探りつつ、実践できるようになることを目指す。

【授業時間外学習】

使用テキストの講読、関連図書や論文の講読、課題レポートの作成

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス 授業の概要と進め方、評価方法についての説明
第 2 回	発達の理論 代表的な発達理論
第 3 回	障害の概念と診断基準 障害のとらえ方、障害の診断基準（DSM, ICD 等）
第 4 回	子どもの発達に関するアセスメント　1 代表的な知能検査の概要とアセスメントの意義
第 5 回	子どもの発達に関するアセスメント　2 代表的な発達検査の概要とアセスメントの意義
第 6 回	障害児保育と特別支援教育 障がい児の保育および特別支援教育のシステム
第 7 回	知的障がい児への理解 知的障がい児の認知・行動的特性と心理、事例（ダウン症児）に基づく支援のあり方
第 8 回	自閉症児への理解　1 自閉症スペクトラムの分類、自閉症児の認知・行動的特性と心理
第 9 回	自閉症児への理解　2 さまざまな事例（アスペルガー症候群ほか）に基づく支援のあり方
第 10 回	学習障害（LD）児への理解 学習障害児の認知・行動的特性と心理，事例に基づく支援のあり方
第 11 回	注意欠陥/多動性障害(ADHD)児への理解 注意欠陥/多動性障害児の認知・行動的特性と心理、事例に基づく支援のあり方
第 12 回	言語障害児への理解 言語障害児の認知・行動的特性と心理、事例（緘黙、吃音ほか）に基づく支援のあり方
第 13 回	難聴児への理解　1 聴こえのしくみ、難聴児の認知・行動的特性と心理
第 14 回	難聴児への理解　2 聴覚の活用と発達、事例に基づく支援のあり方
第 15 回	総復習

【評価方法・基準】

①授業態度（30％）　②筆記試験の成績（70％）より評価する。

【テキスト】

小野次郎・上野一彦・藤田継道（編）．よくわかる発達障害　第2版，ミネルヴァ書房，2010

【参考書・参考資料等】

随時、授業の中で紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 教職入門	担当教員名	山本 直樹
開設学期：2年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

本講義では、現在の社会における教員・保育士という職業の特徴や社会的役割について理解を深める。我が国の教員免許制度（資格認定制度）、教員・保育士養成制度、その服務内容などの基本事項を理解する。教員・保育士を志す学生に対して、進路選択に資する情報を提供し、職業に対する具体的イメージを持つことができる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。教職は社会的公務である。その職務の性質と役割をどのように自覚し実行するか、教職者に求められる資質，倫理観とともに、教職・保育職に関する法的システムの趣旨を理解させる。教員・保育士のモラルが問われる昨今の事件等の実例を参考にして理解を深める。

【到達目標】

教職に対する具体的イメージを持つことができ、自分なりに適性を判断できる。
教員・保育士という職業の特徴や社会的役割について理解できる。

【授業時間外学習】

毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	講義の進め方の説明。　授業概要と進め方、評価方法を説明する。 なぜ、教員・保育士を目指したのか、志した意味を改めて考える。
第2回	「教師とは」「教師になるとは」。　子どもと共に成長する教師・保育士を目指すにあたり、その職にある者がどのように見られているのか、民間の職業との違いは何かを知る。
第3回	教員・保育士という身分と役割・責任 教員・保育士の職務内容については、法規に基づく決まりがあることを知る。
第4回	教員・保育士の養成①　1947年学校教育法、児童福祉法制定以前の学校・保育所の在り方と教員・保育士の養成の歴史を知るとともに、先達の業績を理解する。
第5回	教員・保育士の養成②　教師・保育士の専門性はどのようにして培われるのか。その根拠を知り、自覚を高める。
第6回	幼稚園・保育所における保育者の役割。　公教育としての幼稚園・保育所が求められる多様な機能、地域の子育て支援のセンター的役割を理解する。
第7回	学校における教師の役割。　教員は教科指導を行うものだと考えられているが、役割はそれだけなのか。現在求められていることを考察する。
第8回	教員・保育士としての任用。　教員・保育士の任用制度、任用後の昇任や転任などの人事制度について説明する。教員・保育士の職務・身分の保証、義務等を理解する。
第9回	幼稚園・保育所をめぐる諸問題。　少子化対策、子育て支援等、幼稚園・保育所を取り巻く環境は変わりつつある。認定こども園などの施策について理解を深める。
第10回	幼稚園・保育所と学校めぐる諸問題。　初等教育という同じ枠組みにある幼稚園と学校の接続、保育所と学校の接続は必ずしも円滑ではない。望ましい連携について考える。
第11回	教員の抱える諸問題。　教員のバーンアウト、指導力不足、理不尽な抗議をする保護者対応について理解を深め、対応できる力量について考える。
第12回	教員・保育士の研究と修養（研修）。　教員・保育士は、子ども・保護者地域社会の多様なニーズに応える必要がある。資質向上のための研修であることを理解する。
第13回	教員・保育士としての職業適性を考える。 自分の特徴を理解し、職業に役立てる方策を考える。
第14回	教員・保育士の職業倫理。　人間の成長発達を援助する“臨床家”としての倫理について考える。 また、自己申告制度など職員に対する評価制度の仕組みを理解する。
第15回	まとめ　教員・保育士への進路選択の再確認と今後の学び方を確認する。

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・小レポート（20%）・定期試験（50%）

【テキスト】

太田光洋他『乳幼児期から学童期への発達と教育』、保育出版会、2013　（2600円）

【参考書・参考資料等】

篠田信司『教職の意義と教員の職務』三省堂、2008

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 保育実践演習	担当教員名	木庭　みち子
開設学期：3年前期	履修形態：　保育士・必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

保育士を目指して、これまで学習してきた知識・技能等について、振り返り確認することを主たるねらいとする。さらにさらに保育士を目指すうえで、一人一人が何が自分の課題であるかを認識し学びを深めていく機会とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義・グループワーク、実習体験のふり返りする。あわせてゲストスピーカーを専門機関から招き、理解を深める。

【到達目標】

・保育政策の現状を理解し、その仕事の基本的理念や内容を理解し、その技能をの基礎を習得し実践力を培う。
・これまで蓄積してきた学びを振り返り、専門知識・技能・実践力を高める。

【授業時期間外学習】

・提示された課題について予習してくる。・提示されたテーマをもとに資料を収集し持参する

回　数	授 業 内 容
第1回	講義の進め方の説明・保育政策の現状と課題・児童憲章、子どもの権利条約について
第2回	保育指針の意義と考え方・保育所の独自性と、創意工夫を土台にした保育指針のあり方
第3回	保育士に求められる専門性と、人間性について(保育マインドの振り返り)
第4回	保育計画に基づく保育の展開(保育環境の作り方と工夫)
第5回	江東区における保育行政の現状と課題(障害児保育を中心に) (ゲストスピーカー)
第6回	講義を受けてグループワークによる討議と発表
第7回	障害児施設の現状と課題　(障害児・者施設のゲストスピーカーによる講義)
第8回	講義を受けてグループワークによる討議と発表
第9回	施設（児童養護・乳児院）の現状と課題(施設からのゲストスピーカーによる講義)
第10回	講義を受けてグループワークによる討議と発表
第11回	障害のある子どもの保育について(保育計画と保育内容)
第12回	保育実習のふり返りから、障害児保育の現状と課題をグループ討議と発表で深める
第13回	子ども家庭支援船センターの意義と役割(ゲストスピーカーによる講義)
第14回	保育所における家庭支援(虐待防止)・地域における関係機関との連携・協力
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

提出物（30%）　授業への参加態度（20%）　テスト（50%）とし総合して評価する。

【テキスト 】

特に指定しない

【参考書・参考資料等】

保育所保育指針解説書・厚生労働省編　フレーベル館

【連絡方法】

科目名	専門教育科目	教職実践演習（幼・小）	担当教員名	有福一昭・山本直樹 橘　和代
開設学期：3年後期	履修形態：　幼免・必修		授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

これまでに学習してきた教員としての知識・技能・実践的能力がどのように身についてきたのかについての最終確認を授業のねらいとする。さらに、教員を目指す上で、自分にとって何が課題であるのかを探り出し、習得している能力をさらに伸ばしていくことはもちろん、不足している知識・技能を再学習して身につけることを目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義、グループ討議、事例研究発表、模擬授業、現地調査等を取り入れて授業を展開する。なお、履修履歴の把握は学期末に実施し、シラバス作成の際に学校現場の意見聴取も行っている。受講者数を考慮してクラスの人数を少人数に分けて実施する。

【到達目標】

危機管理や保護者対応などの重要性を知り、現場に出る際の心構えをもつことができる。
これまでの学びをふりかえり、不足している知識・技能を身につけることができる。

【授業時間外学習】

毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション　教職実践演習とは
第2回	社会性・対人関係能力の基礎
第3回	保護者・地域との連携
第4回	保育内容の指導力
第5回	教科等の指導力
第6回	幼児の理解
第7回	児童の理解
第8回	【学外授業】近隣小学校 教育現場見学・調査
第9回	【学外授業】近隣幼稚園 保育現場見学・調査
第10回	幼稚園におけるクラス運営
第11回	小学校におけるクラス運営
第12回	模擬保育
第13回	保育職・教職における職務内容／子どもに対する責任（危機管理の内容を含む） （ゲストスピーカー：江東区教育委員会依頼予定）
第14回	模擬授業
第15回	まとめ（幼児指導要録、指導要録の取り扱いを含む）

【評価方法・基準】

授業への参加態度（40%）・各授業内演習課題（30%）・最終課題（30%）

【テキスト】

幼稚園教育要領解説、小学校学習指導要領解説

【参考書・参考資料等】

適宜、伝えます。

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 教育の理念と歴史	担当教員名	日暮 トモ子
開設学期：1年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

教師や保育者を目指す学生の基礎的科目である。今日の教育問題を考えるための手がかりとして、日本の教育システムを成り立たせている基本的な論理とその歴史について基礎的な知識を提供する。教育の目的や内容に関わる理論や思想の歴史を学ぶとともに、教育の機能や教育課程の基礎理論を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。教育の機能と役割、その概念の広がりを解説し、また、今日の学校化社会が抱える教育の諸問題に関する材料を提供し、教育とは何かを考える機会とする。教育の目的や内容に関する理論や思想の歴史を概説し、今日の教育に対する基本的な考え方を理解させる。授業の復習として、小テストを数回行う。

【到達目標】

・日本の教育システムを成り立たせている基本的論理と歴史について理解することができる。
・教育の役割・機能、教育課程の理論、教育法規体系について理解することができる。

【授業時期間外学習】

・授業内で復習のための小テストを数回行うので、ノート・配付資料等を参考に復習をしておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業概要や進め方の説明
第2回	Ⅰ．教育の目的 教育とは何かについて考える方法について
第3回	Ⅱ．教育の機能　－学習の助成としての教育－ Ⅲ．教育と発達　－野生児、遺伝と環境－
第4回	Ⅳ．教育と学校・家庭・社会 組織的教育と非組織的教育、学校と家庭および地域社会の関係
第5回	Ⅴ．教育と国家・制度・政策　その１ 教育制度・政策、教育法令体系
第6回	Ⅴ．教育と国家・制度・政策　その２ 教育課程の意義および編成、学習指導要領の変遷
第7回	Ⅵ．子ども観と教育 歴史的概念としての「子ども」・「教育」・「学校」
第8回	Ⅶ．西洋の教育思想と学校の歴史　その１ 前近代の状況
第9回	Ⅶ．西洋の教育思想と学校の歴史　その２ 近代公教育制度の成立と普及
第10回	Ⅶ．西洋の教育思想と学校の歴史　その３ 新教育運動の展開、運動の歴史的意味
第11回	Ⅷ．日本における教育改革の歴史　その１ 前近代の状況および学校教育制度の成立と普及
第12回	Ⅷ．日本における教育改革の歴史　その２ 大正新教育の展開
第13回	Ⅷ．日本における教育改革の歴史　その３ 国家主義教育と戦後教育改革
第14回	Ⅸ．学校化社会への批判と新たな学びへの試み 生涯学習社会に向けて
第15回	Ⅹ．まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（3割）・授業内の小テスト（3割）・学期末試験（4割）に基づき、総合的に評価します。

【テキスト 】

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社、2008 年。この他、授業内でプリントや資料を配付します。

【参考書・参考資料等】

・厚生労働省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2008年。
・文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍、2008年。　・原聡介編 『教職用語辞典』一藝社、2008年。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 教育の心理	担当教員名	髙橋 由利子
開設学期：1年前期	履修形態：必修	授業形態:講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

教員や保育士を目指す学生の専門科目である（区分：子ども教育の基礎理論）。

本講義では、教員や保育士に必要な教育心理学の基礎的な知識を提供し、講義・演習・実習を通して理解を深められるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式で進めるが、必要に応じて演習・実習を通してディスカッションし、理解を深められるようにする。

【到達目標】

・教育心理学の代表的な理論と歴史、その教育的意義を理解し、説明することができる。
・子どもの認知発達、学習、動機づけのしくみを理解し、子どもの成長発達を支える教育について考察できる。
・教育評価の意義とその統計的基礎を理解し、現在の特別支援教育との関係を理解することができる。

【授業時間外学習】

以下に指定するテキスト、配布資料を活用し、授業終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業の概要と進め方の説明
第2回	教育心理学概論 教育心理学の研究領域と研究法、歴史と意義
第3回	発達1 遺伝と環境　－成熟説と学習説
第4回	発達2 子どもの認知機能の発達
第5回	発達3 発達と教育の関係　－レディネス
第6回	学習理論1 学習のメカニズム　－条件づけ、観察学習、プログラム学習
第7回	学習理論2 記憶と忘却のメカニズム
第8回	動機づけ1 学ぶ意欲　－知的好奇心と達成意欲、学習性無力感
第9回	動機づけ2 動機づけを高める指導法と教授－学習過程
第10回	パーソナリティ理論 知能・パーソナリティの発達と個人差
第11回	教育・学習の評価 評価の意義と方法
第12回	特別支援教育1 特別支援教育の歴史
第13回	特別支援教育2 現在の特別支援教育
第14回	心の健康教育 ストレス・マネジメントとカウンセリング・マインド
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）、小レポート（20%）、定期試験（50%）に基づき、総合的に評価します。

【テキスト】

山崎史郎 編著（2010）教育心理学ルック・アラウンドーわかりたいあなたのための教育心理学－ おうふう.

【参考書・参考資料等】

随時授業内で紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

【連絡方法】　必要時は掲示します。

科目名	専門教育科目 教育の組織と運営	担当教員名	日暮 トモ子
開設学期：3 年後期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2 単位

【授業のねらい】

学校の組織・運営に関する基本的知識を学ぶとともに、教育の理念や目的がわが国の教育制度にどのように反映され、実現されてきたのかについて理解する。その理解に基づき、これからの学校の在り方や学校が直面している課題への対応の仕方について考える機会を提供する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。社会制度としての教育を支える法的行政的組織の基本、及び、学校教育ならびに社会教育の教育実践の組織について説明する。学校制度の基本的体系に関する歴史的及び国際比較的な知見を基礎にして、今日のわが国の学校制度が抱える課題への対応についての考察を促す。授業の復習として、小テストを数回行う。

【到達目標】

・日本の教育行政、教育法規のしくみについて理解することができる。
・日本の学校制度が抱える課題への対応について考察することができる。

【授業時期間外学習】

・授業内で復習のための小テストを数回行うので、ノート・配付資料等を参考に復習をしておくこと。

回 数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス 授業概要、授業の進め方の説明
第 2 回	Ⅰ．現代日本の教育改革の諸相
第 3 回	Ⅱ．教育制度の成立と展開 公教育の概念と機能、義務・無償・中立
第 4 回	Ⅲ．教育法規のしくみ 教育権・学習権、教育基本法
第 5 回	Ⅳ．学校制度の原理と機能　その１ 学校の役割、学校の組織と運営
第 6 回	Ⅳ．学校制度の原理と機能　その２ 特別支援学校及び私立学校の制度と役割
第 7 回	Ⅴ．教育行政の組織と機能 中央と地方の関係、教育委員会、地方分権改革
第 8 回	Ⅵ．教育課程・教科書と教育行政 教育課程行政のしくみ、学習指導要領の構成と変遷、教科書検定及び教科書採択
第 9 回	Ⅶ．教師と教育行政 養成・免許制度、任用と身分
第 10 回	Ⅷ．教育条件整備と教育行政 教育財政、条件整備のための法的制度的枠組み
第 11 回	Ⅸ．社会教育と保育制度
第 12 回	Ⅹ．学校制度改革の動向　その１ 体罰、いじめ・不登校、オルタナティブ教育、学校選択・通学区域の弾力化
第 13 回	Ⅹ．学校制度改革の動向　その２ 学校評価、学校評議員制度、学校運営協議会制度・コミュニティ・スクール
第 14 回	Ⅹ．学校制度改革の動向　その３ 諸外国の学校制度及び教育改革の動向
第 15 回	まとめ：現代学校制度の諸問題と教育改革のゆくえ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（2 割）・授業内の小テスト（2 割）・宿題（グループ発表資料）（2 割）・学期末試験（4 割）に基づき、総合的に評価します。

【テキスト】

特に指定しません。授業で資料等を提示します。

【参考書・参考資料等】

・小川正人・ 岩永 雅也『日本の教育改革』放送大学教育振興会、2015 年。
・市川須美子他編 『教育小六法 2016（平成 28 年版)』学陽書房、2016 年。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育原理Ⅰ（理念）	担当教員名	日暮 トモ子
開設学期：1年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

保育を学ぶ者にとっての基礎的科目として位置づく。高まる保育ニーズを背景として、保育制度や保育の現場は大きく変化しつつある。保育にかかわる基本的事項について学び、保育の意義について理解する。また、保育にかかわる仕事の重要性についての理解を深める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。保育を学ぶ者にとっての入門的授業である。保育思想、保育の目的、内容、方法、保育所保育のしくみなど、保育の原理と実践の基礎について、総合的な理解を得るようにする。また、諸外国の保育事情にも触れることで理解を深めるようにする。授業の復習のための小テストを数回行う。

【到達目標】

・保育の理念や目的、内容や方法など、保育に関する基本的な原理や実践の基礎を理解できる。
・保育の仕事を知り、また、その重要性について理解し、保育者としての将来像を描くことができる。

【授業時期間外学習】

・授業内で復習のための小テストを数回行うので、ノート・配付資料等を参考に復習をしておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業の内容と進め方などの説明
第2回	Ⅰ．保育の概念・意義と目的
第3回	Ⅱ．保育の場、子どもが育つ環境
第4回	Ⅲ．現代の保育制度
第5回	Ⅳ．諸外国の保育事情 欧米とアジアの保育制度・保育カリキュラム
第6回	Ⅴ．諸外国の保育の歴史 ルソー、ペスタロッチ、オーエン、フレーベルの教育・保育思想
第7回	Ⅵ．日本の保育の歴史　その１ 明治・大正期の保育
第8回	Ⅵ．日本の保育の歴史　その２ 戦中・戦後の保育
第9回	Ⅶ．乳幼児の発達特性と保育
第10回	Ⅷ．保育者の専門性と役割、保育者養成のしくみ
第11回	Ⅸ．教育課程・保育計画と指導計画
第12回	Ⅹ．保育方法の原理・原則
第13回	Ⅺ．保育形態 個別保育、集団保育、一斉保育、自由保育、統合保育
第14回	Ⅻ．保育評価（保育要録、幼児指導要録を含む）
第15回	まとめ：保育の課題と展望 保育ニーズの多様化、待機児童、幼保一元・一体化、保・幼・小の連携・接続

【評価方法・基準】

授業への参加態度（3割）・授業内の小テスト（3割）・学期末試験（4割）に基づき、総合的に評価します。

【テキスト】

・厚生労働省『保育所保育指針』および『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008年。
・文部科学省『幼稚園教育要領』および『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年。
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2014 年 、および、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年。

【参考書・参考資料等】

・上野恭裕編著『新現代保育原理』三晃書房、2009年。・谷田貝公昭監修『保育用語辞典』一藝社、2006年。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育原理Ⅱ（課程と方法）	担当教員名	諸井 泰子
開設学期：1年後期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

保育課程・教育課程と指導計画、指導計画の内容と展開、保育の評価などの基本を学び、保育における計画の意義を理解する。さらに、今日的視点として認定子ども園における保育の計画、小学校との連携、家庭や地域との連携、子育て支援について考える機会とし、保育者の職務･役割について理解を深める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づいて実践的、方法的な視点で保育の計画について解説し、保育課程・教育課程と指導計画を具体的に学ぶ機会とする。また、乳幼児の発達に即した指導計画の実際を理解するために、指導案の作成を通して指導計画の立案、実践、評価について学ぶ。

【到達目標】

・保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成の基本を理解することができる。
・指導案作成の実際を学び、計画の立案、実践、評価、改善について理解を深めることができる。
・保育における今日的課題に関心を持ち、保育現場の課題について理解を深めることができる。

【授業時期間外学習】

・授業終了時に提示する課題を作成すること。　・小テストを実施するので復習をしておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 保育所保育指針、幼稚園教育要領について
第2回	保育の計画１ 保育課程・教育課程と指導計画
第3回	保育の計画２ 保育課程・教育課程の編成と指導計画作成について
第4回	保育の計画３ 長期指導計画と短期指導計画について
第5回	保育の計画４ 指導計画の展開－保育の形態と保育の体制
第6回	指導計画作成上の配慮点１ 保育所における３歳未満児と３歳以上児の指導計画と展開　★前回までに内容の小テスト
第7回	指導計画作成上の配慮点２ 障害のある子どもへの配慮、乳児期から学童期への接続－小学校との連携
第8回	保育の評価 保育における評価の意義
第9回	認定子ども園における保育の計画 教育・保育要領における指導計画のあり方
第10回	保護者支援のあり方 保育所・幼稚園における地域の子育て支援について
第11回	指導計画作成の実際１ 短期指導計画の展開と評価－部分指導案作成の基本　★前回までに内容の小テスト
第12回	指導計画作成の実際２ 保育所における部分指導案の作成の基本
第13回	指導計画作成の実際３ 幼稚園における部分指導案の作成の基本
第14回	指導計画作成の実際４ 短期指導計画の展開と評価－部分指導案作成のまとめ
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業内の小テストおよび課題の提出（30%）と学期末試験（70%）に基づき、総合的に評価する。

【テキスト 】

特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　以上フレーベル館、2008

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 社会福祉	担当教員名	岡村 英雄
開設学期：2年前期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

子どもとその家族は、社会の中で生活している。そのため、保育士は、子どもに対する理解だけでなく、社会についての理解も求められる。本講義では、現代社会と社会における生活課題、その解決のために実施されている制度・サービスを理解し、社会福祉に関する基礎的な事項について理解し、援助を行うことができる基礎力を獲得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

原則的に、講義形式である。また、必要に応じて、視聴覚教材やそのフィードバックも含めて学ぶ。福祉専門職としての保育士の使命の自覚のもと、今日の現代社会のかかえる福祉課題について、高齢・障害・児童家庭・経済的困窮など属性別の理解ならびに地域における支援のあり方について、事例を交えて理解しながら社会福祉の基礎的な知識を獲

【到達目標】

社会福祉全般の理念や制度の体系について、その背景となっている社会の動向を踏まえて説明できる。社会保障等の関連制度については、自分自身にも関係してくるものと意識しながら、今後の制度改正にもついていくことができる。

【授業時期間外学習】

配布資料及びテキストの該当箇所を次回までに読んでくること。また、その際に専門用語などの意味を確認し、理解しておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	社会福祉とは（生活の問題／社会の問題／社会福祉の理念と概念） 社会福祉の概念について、現代社会の状況と併せて理解する
第2回	社会福祉の歴史（社会福祉の歴史的変遷） 社会福祉のこれまでの歩みを振り返り、福祉の考え方が変遷してきたか理解を深める
第3回	社会福祉の歴史（社会福祉の歴史的変遷） 社会福祉のこれまでの歩みを振り返り、どのように制度が整備されたのか理解を深める
第4回	社会福祉の法体系（社会福祉の制度と法体系） 社会福祉制度と法体系を理解する
第5回	社会保障の概要１（社会保障及び関連制度の概要） 国や自治体の役割を中心に社会保障制度の体系と内容を理解する
第6回	社会保障の概要２（社会保障及び関連制度の概要） 社会保険制度を含めた制度の状況を理解する
第7回	子ども家庭支援サービス（社会福祉の一分野としての児童家庭福祉／家庭支援と社会福祉） 子ども家庭に対する支援サービスについて理解する
第8回	障害児・者に対するサービス（社会福祉の一分野としての障害者福祉、社会福祉施設等） 障害児・者に対するサービスの概要を理解する
第9回	高齢者に対するサービス（社会福祉の一分野としての障害者福祉、社会福祉施設等） 高齢者に対するサービスの概要を理解する
第10回	社会福祉・社会保障の行財政（社会福祉行財政と実施機関／社会福祉の実施者） 社会福祉・社会保障における財政と実施機関・組織を理解する
第11回	社会福祉の専門援助技術（相談援助の意義と原則／相談援助の方法と技術） 社会福祉援助技術について、事例を踏まえながら支援のあり方を考える
第12回	多機関とのネットワーク、コミュニティソーシャルワーク 支援を行うにあたってのネットワークや地域福祉を意識した実践について考える
第13回	権利擁護と苦情解決（情報提供と第三者評価／利用者の権利擁護と苦情解決） 社会福祉制度の利用における権利擁護や苦情解決のしくみを理解する
第14回	子どもの貧困とは？ 子どもの貧困が子どもに与える影響やその背景について考える
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

レポート課題25%、授業参加態度(飲食・内職は不可・減点)15%、期末テスト60%

【テキスト 】

改訂１版　新保育士養成講座 第４巻 社会福祉／社会福祉と相談援助　全国社会福祉協議会　1,900円＋税

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 子どもと家庭の福祉	担当教員名	宮脇　文恵
開設学期：1年前期	履修形態：必修	授業形態:講義	単位数：2単位

【授業のねらい】児童家庭福祉の歴史的変遷を学び、現在の制度・政策について理解する。また、障害児とその家庭、そして、社会的養護を要する児童とその親への支援など、子どもとその親を地域ぐるみでどのように支援していくかを学ぶ。到達目標としては、児童と、児童を育成する家庭が置かれている現在の社会状況を踏まえて、地域において包括的に、望ましい児童家庭福祉実践を展開できる力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】原則的に、講義形式である。福祉専門職としての保育士の使命の自覚のもと、児童家庭福祉の意義とそれを支える知識を得ることを授業の狙いとする。国内外の児童福祉の歴史をたどるとともに、今日の課題を考察しながら、改めて児童家庭福祉の理念と実践的方法、また地域子育て支援のあり方を、視聴覚教材やそのフィードバックも含めて学ぶ。

【到達目標】・子どもの置かれている状況を理解し、子どもだけではなく親への支援の必要性を理解する。
・よりよい保育・教育を行うための福祉施策について理解する。
・現代社会と子ども・家庭との関係性を理解し、組織や地域社会に対して働きかけを行える力を身につける。

【授業時間外学習】授業内で出された課題に取り組み、普段から新聞やネットなどで子どもや子どもを取り巻く社会の状況に関心を持つ。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業の目的・概要・評価方法について紹介する。
第2回	現代社会と児童家庭福祉 児童とその家庭を取り巻く、現在の社会状況について学ぶ。
第3回	児童家庭福祉とは何か 児童家庭福祉の理念と、児童家庭福祉の対象は何か、学ぶ。児童家庭福祉を支える行財政と福祉制度について、日本と海外の制度を紹介する。
第4回	児童家庭福祉の歴史 児童家庭福祉の歴史的変遷について、学ぶ。
第5回	児童家庭福祉の制度・実施体系(1) ・児童家庭福祉の現在の制度とその法体系、行財政とその実施機関について学ぶ。
第6回	児童家庭福祉の制度・実施体系(2) ・児童福祉施設の種類とその役割、専門職・実施者について学ぶ
第7回	児童家庭福祉の現状と課題(1)～少子化、母子保健、健全育成～ 日本における少子化の現状と課題、についての影響、母子保健サービスの体系と児童の健全育成について、具体的な事例を通して学ぶ。
第8回	児童家庭福祉の現状と課題(2) 児童虐待の現状について学び、児童虐待防止とその予防について学ぶ。
第9回	児童家庭福祉の現状と課題(3)～社会的養護、一人親家庭への支援～ 社会的養護を必要とする子どもへの支援とひとり親家庭支援について、施設制度と、そのケアについて、そして、里親制度について、事例を取り上げて学ぶ。
第10回	児童家庭福祉の現状と課題(4)～障害児保育、少年非行～ 障害のある児童とその家族のおかれている現状について、福祉制度と家庭支援について学ぶ。
第11回	児童家庭福祉の現状と課題(5) 子どもの貧困の現状と、支援施策について、フォーマル・インフォーマルな取り組みについて学ぶ。
第12回	児童家庭福祉の現状と課題(6) 地域における子育て支援について、地域のネットワーキングを活用したあり方を学ぶ。
第13回	児童家庭福祉の現状と課題(7) 　世代間交流、インクルーシブ教育と子どもの発達支援について学ぶ。
第14回	児童家庭福祉の動向と展望 次世代育成支援と諸外国における児童家庭福祉の動向について、学ぶ。
第15回	まとめ　　これまでの授業で学んだことを総括する。

【評価方法・基準】平常点(授業開始後20分までを出席とし、退室は欠席と見なす)30%、課題提出率20%、授業参加態度(飲食・内職は不可・減点)20%、期末テスト30%

【テキスト】『新　保育士養成講座　第3巻　児童家庭福祉』全国社会福祉協議会出版部

【参考書・参考資料等】　授業において随時紹介する。

【連絡方法】メールによって連絡する。

科目名	専門教育科目 社会的養護	担当教員名	佐藤　東
開設学期：1年後期	履修形態：必修	授業形態:講義	単位数：2単位

【授業のねらい】社会的養護は、何らかの事情で家庭での養育が困難な子どもを国や社会が家庭に代わって養育する制度であり、里親等の「家庭養護」と乳児院や児童養護施設等の「施設養護」に大別される。今日の社会的養護は、大きな社会問題となり深刻化する児童虐待への対応など、児童家庭福祉において重要な役割を担っている。本科目においては、社会的養護の歴史、制度・体系、現状及び課題等の基礎的事項を学び理解を深め、児童家庭福祉を担う専門職「保育士等」として「社会的養護の基本」を修得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義形式である。①社会的養護の歴史、法制度等の変遷、②現在の社会的養護の体系と里親、児童養護施設等の養育・支援の基本、③社会的養護の動向と今日的課題等について学ぶ。また、授業では、随時、社会的養護の現況を取上げ演習的な講義を盛り込む。授業の最後には、課題提出・小テストなどを実施する。

【到達目標】①社会的養護の目的・意義・概念等を理解する。②社会的養護を構成する施設養護・家庭養護等の体系を理解する。③施設養護、家庭養護の援助、支援等の基本を理解する。④社会的養護の現状と課題の概要について理解する。

【授業時間外学習】
社会的養護に関連する新聞、テレビ等のメディア報道に関心をもち、「社会的養護」の講義に照らし報道内容の感想や課題等をまとめる（随時)。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス及び社会的養護の概要 ・シラバスの概要（目標・年間計画・その他)・社会的養護の概要（社会的養護とは)
第2回	社会的養護の歴史と制度体系 ・社会的養護の歴史・社会的養護の制度体系の変遷と現状
第3回	社会的養護の基本理念と原理・児童の権利擁護・第三者サービス評価 ・児童養護施設運営指針等の基本理念と原理・入所児童等の権利擁護・第三者サービス評価
第4回	施設養護の概要 ・施設養護の類型・施設類型別（児童養護施設等）の特徴、運営形態、職員体制等
第5回	家庭養護の概要 ・里親制度の概要（里親の種類・普及状況等)・養子縁組制度の概要・ＦＧＨの概要
第6回	社会的養護と児童相談所の役割 ・児童相談所の概要・施設入所の仕組みと児童相談所の役割等
第7回	中間のまとめ
第8回	施設養護（援助・支援）の基本① ・日常生活支援の基本、安全・安心な生活環境、食生活・食育、健康・衛生管理、学習支援等
第9回	施設養護（援助・支援）の基本② ・自立支援計画に基づく支援・保育士等の職種間連携及びチーム支援　・記録及び会議等
第10回	家庭養護（里親養護等) ・里親制度の現状と里親養育の基本
第11回	要保護児童の特徴と治療的な養育及びケア ・被虐待児童、発達障害児等の理解と治療的養育及びケア・心理士、精神科医等によるスーパービジョン等・職員のメンタルヘルス・児童相談所、専門医療機関等との連携
第12回	社会的養護における自立支援（年長児童等) ・退所後の生活状況・就労、進学支援等の基本・リービングケア及びアフターケア
第13回	社会的養護における家族支援 ・親保護者の状況と支援課題・親子の再統合等家族支援の基本
第14回	社会的養護の課題と展望 ・家庭養護の推進・施設運営及び職員の専門性の向上・施設の地域連携及び地域貢献等
第15回	まとめ

【評価方法・基準】学期末試験　50%・課題提出・小テスト　30%（随時実施)・受講態度　20%

【テキスト】①山縣文治・林浩康編「よくわかる社会的養護（第２版)」ミネルヴァ書房
②厚生労働省「社会的養護の現状について（参考資料)」平成２６年３月（印刷配布)

【参考書・参考資料等】
① 相澤仁・柏女霊峰・渋谷昌子史編「子どもの養育・支援の原理（社会的養護総論)」明石書店
② 相澤仁・奥山眞紀子編「生活の中の養育・支援の実際」明石書店
③ 庄司順一編「里親養育を知るための基礎知識（第２版)」明石書店

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 子どもの保健Ⅱ	担当教員名	岩本 圭子
開設学期：2年前期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
この授業では、保育者として子どもの健康を守るために必要な知識と技術を身につけることをねらいとしている。内容として「養護の方法」「発達評価」「異常症状とその対応」「事故防止と安全教育」「応急処置」などについて学習していく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。この授業は「子どもの保健Ⅰ」での学習を基礎として、子どもの保健の実際を学ぶことを主眼とする。身体計測及び生理機能の測定と評価、運動機能・精神機能の発達評価、乳幼児の養護、乳幼児の異常症状とその手当、乳幼児の事故とその応急処置について、演習を通して習得する。

【到達目標】
1．子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。
2．子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
3．子どもの疾病とその予防及び対応、救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。

【授業時期間外学習】
授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 子どもの発育を知ろう　（1）胎児の発育
第2回	子どもの発育を知ろう　（2）身体発育の測定とその評価
第3回	子どもの発達を知ろう　（1）運動機能・精神機能の発達とその評価
第4回	子どもの健康状態を知ろう　―生理機能の発達―
第5回	日常における養護の方法（1）抱き方・背負い方、（2）衣類の着脱、（3）排泄の世話
第6回	日常における養護の方法（4）歯の健康、（5）身体の清潔（清拭、沐浴、入浴など）
第7回	子どもの保育環境づくり
第8回	よくかかる病気について知ろう（1）病気についての基礎知識　（2）体調不良時の症状別対応
第9回	よくかかる病気について知ろう（3）よくかかる感染症　①起因病原体別感染症
第10回	よくかかる病気について知ろう（3）よくかかる感染症　②臓器別感染症　③季節別の流行疾患
第11回	よく起こる事故について知ろう　―事故防止と完全教育―
第12回	いざという時の応急処置について知ろう　―急病時と傷害時―
第13回	慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう
第14回	子どもの生活習慣について考えてみよう
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加態度（50%）、レポート・課題への取り組み（50%）で総合的に判断します。
授業参加時間が60分未満は欠席扱いとします。電車等の遅延証明書は1回まで考慮します。

【テキスト 】
榊原洋一監修、小林美由紀著『これならわかる！子どもの保健演習ノート』診断と治療社, 2012（定価¥2,000＋税）

【参考書・参考資料等】
随時、プリントを配布します。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 家庭支援論	担当教員名	木庭 みち子
開設学期：2年後期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】
子育て家庭をとりまく社会的状況の変化について理解する。保育士の子育て家庭に対する支援の必要性や、保育所保育における家庭支援のあり方についても学ぶ。また国の家庭支援政策の取り組みとその実際についても学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義形式である。時代の変化の中で、子育て家庭の機能の変化をとらえ基礎的な理解を深める。保育の専門性を生かした支援と保育所の役割についても事例を通して理解する。また国が行っている、家庭支援政策の取り組みの現状と課題についても、施設見学の課外授業を通して理解する。

【到達目標】
・家族の機能の変化、現代社会の中で子育て家庭の状況を知る。
・保育所や幼稚園その他の施設の専門性を生かした支援の方法を得る。
・事例に基づいた、討議をしその在り方の基礎を知る。

【授業時期間外学習】
教科書の予習と復習をする。課外学習に参加する。(交通費実費)

回　数	授 業 内 容
第1回	家庭支援論で学ぶ内容についての説明、家庭の意義と機能
第2回	家庭支援の必要性＜社会背景と家族＞
第3回	家庭支援の必要性　＜子育て、子育ちが難しい現代＞
第4回	課外授業　＜子ども家庭支援センター・児童館の体験見学＞
第5回	地域社会の変容と家庭支援　＜近代社会の出現から現代まで＞
第6回	地域社会の変容と家庭支援　＜子育てしやすい市域社会の形成＞
第7回	現代における家庭における人間関係　＜夫婦・親子・きょうだい・祖父母との変化＞
第8回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進＜少子化対策とその法規定＞
第9回	子育て支援施策　＜少子化対策から、子ども・子育て支援へ＞
第10回	子育て支援サービスの概要　＜次世代育成支援・児童福祉法に定める事業＞
第11回	保育所の家庭支援　＜保育の専門性を生かした支援・保育所入所児童の家庭＞
第12回	保育所の家庭支援　＜地域の子育て家庭への支援＞
第13回	保育所の子育て支援　＜関係機関との連携＞
第14回	子育て支援サービス（福祉）の課題
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
課題レポート提出（20%）・テスト（60%）・授業態度（20%）

【テキスト 】
現代の保育と家庭支援論・　井村圭壮・今井慶宗編著　・学文社

【参考書・参考資料等】
その他適時資料として提示する

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 **相談援助**	担当教員名	井岡 由美子
開設学期：3 年後期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：2 単位

【授業のねらい】

本授業では，相談援助の概要について理解し，基礎的知識を確認する。基礎知識をもとに相談援助の方法や技術，具体的展開方法を学び，保育園，幼稚園，小学校における相談援助の実践にむけて理解を深める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

相談援助の基礎的知識の講義を行ったうえで，相談援助の実技としてロールプレイなどの演習を行う。事例研究ではグループワークを行い，実践的な相談援助スキルの向上を図る。

【到達目標】

本授業では，これまでの講義その他の学習を踏まえ，相談援助の方法や技術，具体的展開方法を学び，保育園，幼稚園，小学校及び地域における相談援助の実践につなげる。

【授業時期間外学習】

前半は，授業終了前に，次回の授業内容に合わせ，既に終了している講義科目の復習となる課題を出します。後半は，演習や事例の内容に合わせた事前課題に取り組んでください。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	オリエンテーション：授業の進め方と授業内容の説明
第 2 回	相談援助とは
第 3 回	相談援助の原則と児童を対象とした相談援助の特徴
第 4 回	相談援助の方法①　伝統的方法
第 5 回	相談援助の方法②　ソーシャルワークと関連技法
第 6 回	相談援助のプロセス
第 7 回	面接の基礎①　面接にのぞむ態度と倫理
第 8 回	面接の基礎②　「観る」「聴く」
第 9 回	面接の基礎③　「わかる（理解する)」「まとめる」
第 10 回	相談援助の社会資源
第 11 回	事例研究①　「地域での相談援助」－1　地域での問題発見とその対応
第 12 回	事例研究②　「地域での相談援助」－2　問題の整理と課題抽出
第 13 回	事例研究③　「地域での相談援助」－3　相談受付とインテーク面接及びその記録
第 14 回	事例研究のまとめと振り返り
第 15 回	まとめ；授業の全体を振り返るとともに，実践に向け課題を整理する

【評価方法・基準】

授業態度（提出物含む）40%，期末試験 60%，を総合して評価する。

【テキスト 】

授業ごとにプリント，資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

「保育小六法」「社会福祉小六法」などを他の科目で購入している場合，第 2 回，第 11 回～には，持参することが望ましい。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 乳児保育	担当教員名	岩本　圭子 木庭みち子
開設学期：2 年後期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：2 単位

【授業のねらい】

この授業では、乳児および 1､2 歳児の発達や保育全般について、学生自身が乳児保育の実践という視点で、保育現場の実際を統合的に理解していくことをねらいとしている。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。３歳未満児の子どもの姿を理解し、個々の発達を促す生活と遊びについての知識を深めることを主眼とする。また、保育指導計画の作成や保育記録の必要性について、演習を通して学習する。

【到達目標】

１．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について理解できる。
２．乳児保育の現状と課題、また保護者や関係機関との連携について理解できる。
３．３歳未満児の発育・発達から、健やかな成長を支える生活と遊びについて理解できる。
４．乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等が作成できる。

【授業時期間外学習】

授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス 「乳児保育」とはなにか
第 2 回	乳児保育の一日 １）保育園の一日
第 3 回	乳児保育の一日 ２）乳児院の一日　３）家庭的保育の一日
第 4 回	乳児の発達と保育内容 １）６カ月未満　２）６カ月～１歳３カ月未満
第 5 回	乳児の発達と保育内容 ３）１歳３カ月～２歳未満　４）２歳
第 6 回	身体機能の発達と保育 １）粗大運動について
第 7 回	身体機能の発達と保育 ２）微細運動について
第 8 回	基本的生活習慣の獲得と保育 １）食べる
第 9 回	基本的生活習慣の獲得と保育 ２）排泄する　３）眠る
第 10 回	対人関係の発達と保育 １）ことばで人と関わる
第 11 回	対人関係の発達と保育 ２）人と関わる
第 12 回	乳児の養護環境と乳児保育の課題
第 13 回	乳児保育と保育課程 １）生活リズムと保育園の日課　２）記録・保育日誌・家庭との連絡　３）年間指導計画
第 14 回	乳児保育と保育課程 ４）月間指導計画　５）週案・日案　６）計画の評価と反省
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（40%）、レポート・課題への取り組み（60%）より、総合的に評価します。
授業参加時間が 60 分未満は欠席扱いとします。電車等の遅延証明書は 1 回まで考慮します。

【テキスト 】

松本園子 編著『乳児の生活と保育』、ななみ書房、2011（¥2,100＋税）

【参考書・参考資料等】

随時、資料を配付します。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 障害児保育	担当教員名	杵鞭　広美
開設学期：2 年前期	履修形態：　必修	授業形態:演習	単位数：2 単位

【授業のねらい】
障がいのとらえ方、さまざまな障がいの特性と支援の在り方を探る。
障がいをもつ子どものコミュニケーション力と集団生活での発達を支援する具体的内容と指導方法を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義および演習形式である。障害児保育の歴史、障がいの種類と療育、障がい児（者）に関する福祉、家族への支援、国際的動向などの基礎的事項を学ぶ。映像資料により、障害児保育の現場について知見を広げながら、個別的な保育支援計画の立案方法についても学ぶ。さらに、就学後の特別支援教育との関連にも触れ、今後の障害児保育のあり方について理解を深める。

【到達目標】
障害がある子どもの身体・運動機能、知的機能について理解し、保育園や幼稚園において適切な保育・療育を行うために必要な知識を得る。最終的に、子どもの個別保育支援計画の作成と評価ができるようになることを目指す。

【授業時間外学習】
使用テキストの講読、関連図書や論文の講読、グループ発表への準備、課題レポートの作成。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス 授業の概要と進め方、評価方法についての説明
第 2 回	障害児保育とは 障害児保育を実施している園の事例を紹介と障害児保育の基本的な理念について
第 3 回	障害児保育の現場 障害児保育のさまざまな形態とインクルージョンの理念について
第 4 回	「障害」とは（1） 「障害」の概念とその変遷について
第 5 回	「障害」とは（2） 障害の定義と分類について障害の原因、支援のあり方について
第 6 回	子どもの発達の遅れとアセスメント 乳幼児期において発達の遅れを示す子どもの診断方法について
第 7 回	子どものニーズにあわせた保育環境の整備 子どもの個人差とニーズにあわせた保育環境を整備するための人的・物的環境について
第 8 回	健常児への支援と障害児保育のあり方 障害児と健常児の仲間関係およびクラス集団を育てる保育について
第 9 回	保護者支援と障害児保育のあり方 障害児と健常児におけるそれぞれの立場の保護者への支援
第 10 回	専門家や専門機関との連携 障害児の発達を支援するさまざまな専門機関および専門職について
第 11 回	障害児への支援（1）身体障害児の事例から 障害児の保育における安全面、集団活動のなかで留意すべき事柄について
第 12 回	障害児への支援（2）知的障害児および発達障害児の事例から 障害がある子どもの保育における安全面、集団活動のなかで留意すべき事柄について
第 13 回	気になる子どもの行動とその支援（1） 保育場面において気になる子どもの行動や特徴について
第 14 回	気になる子どもの行動とその支援（2） 保育場面において気になる子どもへ具体的な援助方法について
第 15 回	総復習　これまでの授業のなかで講述した内容の確認

【評価方法・基準】
①授業態度（10%）　②レポート等の課題の提出状況（20%）　③筆記試験の成績（70%）より評価する。

【テキスト】
公益財団法人児童育成協会　西村重稀・水田敏郎（編），障害児保育．中央法規，2015.

【参考書・参考資料等】
随時、授業の中で紹介する。

【連絡方法】　各自、掲示を確認のこと

科目名	専門教育科目 社会的養護内容	担当教員名	佐藤　東
開設学期：2年前期	履修形態：必修	授業形態:演習	単位数：2単位

【授業のねらい】社会的養護を担う専門職（保育士等）に求められる、①「児童の権利擁護」及び「職業倫理」、②専門的支援技法として、「課題分析（アセスメント）手法」及び「児童自立支援計画作成手法」等、③日々の援助・支援の基本となる日常生活支援、治療的支援、年長児の自立支援、家庭支援等の実際、④児童相談所等との機関連携方法や地域支援等の実際を学び理解を深める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】講義形式、演習形式。日常生活支援、治療的支援、年長児への自立支援、家庭支援等の具体的な事例考察や自立支援計画の作成演習、ケース会議演習、被措置児童等虐待の事例検討等を通じて学びを深めていく。

【到達目標】概ね以下を目標とする。①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の職業倫理を理解する。②施設養護・家庭養護等の特性・現況を理解する。③課題分析（アセスメント）手法及び児童自立支援計画作成手法等を理解する。④日常生活支援、治療的支援、年長児の自立支援、家庭支援等の援助・支援の実際を理解する。⑤基本的なソーシャルワークの方法・技術を理解する。⑥児童相談所等との機関連携の実際を理解する。⑦社会的養護の課題と展望について理解する。

【授業時間外学習】地域（現住地・出身地等）の子ども家庭福祉、特に社会的養護に関連する相談機関（子ども家庭支援センター・福祉事務所・児童相談所等）及び児童福祉施設（乳児院・児童養護施設等）の現況を把握するとともに併せて課題についても考察する。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス等 ・シラバスの概要・社会的養護の現状
第2回	権利擁護の実際　　・被措置児童等虐待の状況 ・権利擁護のシステム（権利ノート・苦情解決システム）・被措置児童等虐待事例考察（演習）
第3回	保育士等の倫理と責務 ・職業倫理の意義と保育士等の倫理綱領及び保育士等の責務について事例考察（演習）
第4回	施設養護の特性と運営体制及び支援体制 ・施設機能と役割及び課題・運営形態と専門職等の役割・小規模ユニット運営の事例考察（演習）
第5回	家庭養護の特性と養育 ・家庭養護の機能と役割及び課題・里親体験発表会事例の考察（演習）
第6回	児童自立支援計画作成の実際 ・課題分析手法（アセスメント手法）と自立支援計画作成手法の演習
第7回	施設入所措置等と児童相談所の役割 ・児童相談所の機能と施設措置等決定の流れ・児相の援助指針と施設の自立支援計画の関係（演習）
第8回	児童養護施設等における日常生活支援の実際 ・日常生活支援、安全安心な生活環境、食生活、健康、衛生管理等の実際について事例考察（演習）
第9回	児童養護施設等における専門的支援・ケア ・保育士等による治療的養育の事例考察（演習）・職種間連携等による専門的なチーム支援
第10回	児童養護施設等における年長児童等の自立支援の実際 ・進学、就労支援の実際と課題の整理・リービングケア及びアフターケア計画の作成演習
第11回	保育士に求められる専門的な知識・技術 ・被虐待児童、発達障害児の支援ケア及び家族再構築支援等の実際と事例考察（演習）
第12回	児童養護施設等におけるソーシャルワークに関する知識・技術 ・ソーシャルワークの実際について基本的知識と技術を学び事例考察（演習）
第13回	施設運営管理とリスクマネジメント ・事故防止と安全安心対策、健康管理と感染症予防・防災計画と訓練等の事例考察（演習）
第14回	社会的養護の課題と展望 ・施設運営の質的向上（職員の専門性向上含む）及び地域貢献に向けた取組の事例考察（演習）
第15回	まとめ

【評価方法・基準】学期末試験　５０％・課題提出・小テスト　３０％（随時実施）・受講態度　２０％

【テキスト】① 小木曽宏ほか編「よくわかる社会的養護内容（第２版）」ミネルヴァ書房
② 厚生労働省「社会的養護の現状について（参考資料）」平成２６年３月

【参考書・参考資料等】
① 相澤仁・柏女霊峰・渋谷昌子史編「子どもの養育・支援の原理（社会的養護総論）」明石書店
② 相澤仁・奥山眞紀子編「生活の中の養育・支援の実際」明石書店
③ 庄司順一編「里親養育を知るための基礎知識（第２版）」明石書店

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 教育方法Ⅰ（情報機器の操作）	担当教員名	滝沢 清
開設学期：1年前期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

教師が、あるいはこの情報化社会に生きるすべての人が身につけるべき情報機器の操作について、コンピュータを中心とした演習をおこなう。コンピュータの原理の理解や、インターネットを含めた情報のやり取りで大切な情報モラルについても考える。なおこの科目は教育職員免許法の「情報機器の操作」に対応している。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式でおこない、主に教育の場で必要となる情報機器の操作の習得を目指す。情報化社会における学校教育において、教育をより有効に働かせるために情報の処理技術が求められている。事務処理のみならず、授業において、教師が、あるいは子どもがコンピュータを活用することを想定し、基本的な操作ができるようにする。

【到達目標】

コンピュータの基本操作ができ、基本的なコンピュータ用語がわかる。
コンピュータによる文書作成や集計、プレゼンテーションができる。
情報モラルを正しく身につけ、インターネットを安全にかつ有効に活用できる。

【授業時期間外学習】

授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	情報化社会とコンピュータ コンピュータの歴史と、情報化社会におけるコンピュータの位置づけ
第2回	ＯＳの役割とパソコンの基本的な操作 コンピュータの原理と基本的な概念、操作の理解と習得
第3回	インターネットとｅメール インターネットの仕組みと情報検索、ｅメール
第4回	テキストファイルの編集 すべての基本となるテキストファイルの効率的な作成方法、日本語入力、検索と置換
第5回	ワープロソフト1 文書作成の基本的な考え方
第6回	ワープロソフト2 ワープロソフトを使った文書作成
第7回	ワープロソフト3 ワープロソフトを使ったより複雑な文書の作成と、論理的で効率的な作り方
第8回	表計算ソフト 表計算ソフトの役割と表計算ソフトを使った簡単な集計
第9回	表計算ソフトによるデータ分析 表計算ソフトを使ったいろいろなデータ分析の仕方、表計算ソフトによるデータベース
第10回	プレゼンテーション 効果的なプレゼンテーションの方法
第11回	インターネットでの情報発信 インターネットにおけるHTMLファイルとCSSファイルの役割
第12回	HTMLとCSS HTMLファイルとCSSファイルの作成練習
第13回	子どもとコンピュータ 子どもにとってのコンピュータ利用のいろいろな方法
第14回	情報モラル 情報化社会を正しく生きるための方法
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（3割）・レポート（4割）・学期末試験（3割）に基づき、総合的に評価する。

【テキスト 】

書籍としての教科書は用いないが、必要なファイルを授業内に電子的な形で配付する。

【参考書・参考資料等】

情報関係は変化が激しいので、そのつど最新の情報を紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 教育方法Ⅱ（理論と実践）	担当教員名	山本 直樹
開設学期：1年後期	履修形態： 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

幼児、児童生徒の実態に合わせて教育内容を指導することの意義について理解する。その際適切な方法を選択する必要があるが、現在活用されている代表的な方法について、その変遷並びに具体的な実施方法を学ぶ。教育は児童生徒と教員の相互作用であることを理解し、その関係性について考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、演習を取り入れる。教育の理念・目的を実現するためには、それを実現するための方法が適切でなければならない。児童生徒をいかにして学習に動機づけるか。個々の実態に合わせた学習の進め方についての基礎を学ぶ。特に幼児期・児童期の教育に焦点を当てる。

【到達目標】

教育方法には、多くの理論・方法が考案され、実践されてきた経過と特徴を知る。
多くの理論・方法を授業内容に合わせて適切に生かす工夫を考えることができるようになる。

【授業時間外学習】

毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	講義の進め方の説明。「教育という営みと授業」について考える。教育の目指すものは何か。教育で育つものは何か。小学校から高校までの体験を通して考える。
第2回	「何を教えるか」「どう教えるか」①　教育内容を組織化した教育課程について考える。 教育課程の構想、類型、編成の手順について理解する。
第3回	「何を教えるか」「どう教えるか」②　現在の日本の教育内容の基準として示されている「学習指導要領」について理解する。合わせて「保育所保育指針」について理解する
第4回	教育理論・方法の変遷① 教育観の変遷と学習形態・学習指導法の類型に工夫がなされたことを理解する。
第5回	教育理論・方法の変遷② 現代の教育で用いられている代表的な方法について理解する。演習を取り入れる。
第6回	教育方法と学校・学級の経営① 学校という制度、学校の経営と教育方法の工夫
第7回	教育方法と学校・学級の経営②　学級という集団と教師の役割について考える。教師の仕事内容、リーダーシップの在り方について検討する。
第8回	授業の設計と評価①　教授―学習課程における教師の役割について検討する。授業設計の手順並びに学習指導案の意義について理解する。
第9回	授業の設計と評価②　学校における教育活動と評価の必要性を理解する。評価の種類・技法について演習をもとに理解を深める。
第10回	教材研究①　教材・学習材の活用 教材・学習材とは何か。教科書の果たす役割は何か。教具の種類と使い方を考える。
第11回	教材研究②　教育情報機器の活用 教育工学という考え方。教育機器の分類。教育機器としてのコンピュータの活用。視聴覚教材。
第12回	教材研究③　視聴覚教材の作成 これまでの学習成果を生かして教材を作成する。
第13回	教材研究④　視聴覚教材の基本的活用 グループで教材を活かした模擬学習を考案する。
第14回	教材研究⑤　視聴覚教材の応用的活用 教材を活かした模擬的な学習をグループごとにプレゼンテーションする。
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・小レポート（20%）・定期試験（50%）

【テキスト】

太田光洋他『子どもが育つ環境と保育の指導法』、保育出版会、2016　（2600円）

【参考書・参考資料等】

教育の方法と技術改訂版　多田俊文編　学芸図書
学習指導の方法と技術　西林克彦他編　新曜社

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 保育教材研究Ａ（うたと手遊び）	担当教員名	木庭　みち子 松田　扶美子
開設学期：1年前期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
子どもとのコミュニケーションの能力を習得するためにうたと手遊び・わらべうたの実際を学ぶ。
実習の技能を高める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式で行う。0歳から児童期までの子ども発達における音楽表現の実際につて理解する。
具体的実践的な授業をとおして、その技能を習得する。

【到達目標】
美しい声の出し方、よりしなやかなふるまいを習得し、その指導法について実践する能力を培う。
わらべうた遊びを学び、実習の技能を高める。

【授業時期間外学習】
授業の復習と振り返りをする、次の授業の課題と予習をする。

回　数	授 業 内 容
第1回	授業の内容と方法についての説明　うたってみようわらべうた
第2回	保育の中のわらべうたの意義と役割を学ぶ
第3回	うたってみようわらべうた・乳児編・　実践演習
第4回	保育の中でうたう材料・実践の方法
第5回	〔乳児の教材〕遊びうた・遊ばせ遊び
第6回	実践演習で学んだ内容をグループで復習し発表する
第7回	うたってみようわらべうた　幼児編・実践演習
第8回	音楽としてのわらべうた　・清潔にうたう・声の大きい小さい
第9回	音楽としてのわらべうた　・高い低い・音の認知
第10回	実践演習で学んだ内容をグループで復習し発表する
第11回	保育活動と手遊びをの関係とその意義について
第12回	子どもに人気のふれあいあそび
第13回	音楽と集団遊び・実践演習
第14回	実践演習の復習をし、グループで発表する
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
授業態度（30%）調査資料提出（20%）発表（50%）

【テキスト 】子どもに人気のふれあいあそび　NPO法人東京都公立保育園研究会　ひとなる書房
わらべうた　私たちの音楽　―保育園・幼稚園の実践―　コダーイ芸術教育研究所/編　明治図書

【参考書・参考資料等】
適時プリントで資料提示

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育教材研究Ｂ（語りと人形）	担当教員名	三澤裕見子 深澤　瑞穂
開設学期：1年後期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

① 読み聞かせの基礎となる語りの基本を身に付け、実際に活用できるようにする。②選定したお話の脚本を作成する。③脚本に基づいたエプロンシアターを製作し、実演することにより、その実際を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。前半では、語りの基礎を学ぶとともに、各自、提示されたお話の中からひとつ選び、エプロンシアター実演のための脚本を作成する。後半では、選定したお話の脚本に基づいたエプロンシアターを製作し、実演する。この学習を通して、保育者に必要な表現力、実践力を身に付けるための実際を学ぶ。

【到達目標】

① 読み聞かせの基礎となる語りの技能を身につけることができる。 ②お話から脚本を作成することができる。 ③エプロンシアターを製作する技能を習得し、さらに、エプロンシアター実演の技能を身につけることができる。

【授業時期間外学習】

提示した８つのお話を読んでおくこと。エプロンシアターの課題に向けて次の時間までに作業をしておくこと。

回　数	授 業 内 容
第１回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について
第２回	語り① よい語りとは何か。よい語りにするために必要な技術とは何か。
第３回	語り② お話の覚え方について解説と実演。
第４回	８つのお話の提示と選定 提示されたお話の中からひとつ選定し、内容を熟読・吟味する。
第５回	脚本作成① エプロンシアター実演用に、選定したお話の脚本を作成する。
第６回	脚本作成② 脚本を完成させ、素話として覚える。
第７回	エプロンシアターについての説明　　（第７回から第11回までは、１階美術室で行う。）
第８回	エプロンシアター製作①
第９回	エプロンシアター製作②
第10回	エプロンシアター製作③
第11回	エプロンシアター製作④
第12回	エプロンシアターの演じ方
第13回	エプロンシアターの実演① 前半グループ
第14回	エプロンシアターの実演② 後半グループ
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

① 授業への取り組む姿勢（2割）　②お話の脚本作り（3割）　③エプロンシアター製作と実演（5割）の割合で評価する。

【テキスト 】

特になし。必要に応じて資料を配付する。テキスト購入時に大学で指定のエプロンを購入しておくこと。フェルトなど雑貨は、個人購入のこと。

【参考書・参考資料等】

松岡享子『たのしいお話　お話を語る』日本エディタースクール出版部、2011年。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目	保育内容総論	担当教員名	木庭 みち子 橘　　和代
開設学期：2年後期	履修形態： 必修		授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

保育には、養護と教育という大きな柱がありこれを一体的に実践していくことが保育所保育の特徴である。
さらに保育所保育指針からその保育内容を総合的にとらえることを学ぶ。
保育を構造的にとらえ理解し、その中で保育課程・保育計画についても学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式をとりながら、具体的な事例をとしてグループワークも取り入れながら、子どもの発達に即した保育課程・保育計画のあり方についても学ぶ。

【到達目標】

保育内容の総合的な内容を理解する。
子どもの発達の理解を深め、保育計画を立案する能力を身につける。
保育所保育の特徴を歴史的経過をとらえ学び、その意義と役割を理解する。

【授業時期間外学習】

テキストの予習をする。保育所関連の情報収集を提起されたテーマに基づいて資料にする。

回　数	授 業 内 容
第1回	保育内容総論とは？ガイダンス　保育所保育の特徴について、子どもとの関係をとおして
第2回	保育の全体構造と保育内容の具体的展開　(年齢別保育と異年齢混合保育)
第3回	子どもの発達(乳児初期・乳児中期)と保育内容
第4回	子どもの発達(乳児後期・幼児前期)と保育内容
第5回	子どもの発達(幼児中期・幼児後期)と保育内容
第6回	子どもの遊びを中心とした保育の展開と計画・乳児のあそびと計画
第7回	子どもの遊びを中心とした保育の展開と計画・幼児のあそびと計画
第8回	環境を通して行う保育(人的環境と物的環境)
第9回	保育指針の歴史的経過とその変化について　1948年～1999年
第10回	保育指針の歴史的経過とその変化について　2000年～2015年
第11回	多様な保育の展開　・長時間保育・障害児保育・多文化共生保育
第12回	保育新システムの構造と内容について　保育所・認定こども園・地域型保育等
第13回	保育の現代的課題と保育内容(子どもへの支援と保護者への支援)
第14回	保育指針と5領域　(健康・人間関係・環境・言葉・表現)
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

レポート提出（10%）授業態度（10%）中間テスト（20%）テスト（60%）

【テキスト 】

改訂1版　新保育士養成講座　第11巻　保育内容総論　新保育士養成講座編集委員会編　全国社会福祉協議会

【参考書・参考資料等】

適時授業の中で紹介、資料提供する

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育内容（言葉）	担当教員名	三澤　裕見子
開設学期：1年前期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位数：2単位

【授業のねらい】

①　乳幼児の言葉の発達過程や特徴を理解する。

②　乳幼児の言葉を育てる保育者の言葉かけや援助のあり方を理解し、事例を通して具体的に検討する。

③　言葉の獲得を促す児童文化財の活用について理解を深め、その実際を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。乳幼児期の子どもの言葉の発達にふさわしい環境構成や援助について、具体的、実践的な学習をする。

【到達目標】

・乳幼児の言葉の発達過程と有効な援助の方法を理解することができる。

・児童文化財の活用の実際を理解し、実践することができる。

・紙芝居の歴史と特性について理解することができる。

【授業時間外学習】

・指定した教科書の範囲を事前に読んでおくこと。「言葉の発達」に関する参考文献を一冊、学期中に読破する。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「言葉」の位置づけと内容理解。併せて、小学校低学年国語科との関連について
第3回	言葉の機能や発声のメカニズム 言葉を獲得するための条件。人的物的環境の影響について
第4回	言葉の発達と援助（乳児期①） 言葉の準備期の発達過程
第5回	言葉の発達と援助（乳児期②） 一語、二語発話時期の言葉の発達過程
第6回	言葉の発達と援助（幼児期） 幼児期の言葉の発達過程
第7回	保育の中の言葉 事例研究
第8回	言葉の発達を促す児童文化財① 絵本、紙芝居について
第9回	言葉の発達を促す児童文化財② パネルシアター、エプロンシアター、ペープサートについて
第10回	絵本の読み聞かせ、紙芝居上演の実際
第11回	指導案作成について 活動のねらい、環境構成、実習生の援助等に特に留意して作成する。
第12回	手作り紙芝居制作① オリジナルのお話を作り、紙芝居化する。
第13回	手作り紙芝居制作② 脚本にそくした画面を制作する。
第14回	手作り紙芝居の実演
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

①手作り紙芝居の制作・実演(3割)　②試験（5割）③授業への参加態度（2割）の割合で評価する。

【テキスト】

改訂保育内容「言葉」『言葉とふれあい、言葉で育つ』、大越和孝他、東洋館出版社、2009

【参考書・参考資料等】　『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2008、『保育所保育指針』、フレーベル館、2008、『小学校学習指導要領』、国立印刷局、2008、乳幼児保育研究会編『発達がわかれば子どもが見える』、ぎょうせい、2009

【連絡方法】

科目名	専門教育科目	保育内容（環境）	担当教員名	深澤 瑞穂
開設学期：2年前期	履修形態： 必修		授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

子どもを取り巻く環境について、子どもが主体的に学ぶ方法について考え、具体的に教育・保育実践者として子どもの健やかな成長を育むための環境を本授業履修者が主体的に創造していく能力を培うことが本授業のねらいである。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

子ども一人一人の発達における環境とのかかわりの重要性について理解することをめざし、講義・演習形式で実施する。また進め方としては、子どもの成育環境に関する各トピックに対して望ましい物的、自然環境の構成と教育的・保育的支援のあり方の観点から、履修者に毎回発問する形式をとる。

【到達目標】

・子どもを取り巻く物的環境・自然環境・社会的環境の教育的意義をとらえ、子どもの健やかな成長を育む環境について関心をもち、教育・保育の中に生かす能力を身に付ける。
・履修者が辰巳の森の自然体験やまち歩きを通して、望ましい教育的、保育的な支援の方法を身に付ける。

【授業時期間外学習】

第１３回の演習で必要な公園実前調査を行う・ポスター製作の仕上げを宿題として行う。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 本授業の概要、幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域（環境）の関連部分の概要について確認
第2回	子どもの育ちを支える物的な環境 園内の物的環境との出会わせ方、子どもが興味や関心をもつための遊具・教材等についての検討
第3回	「絵本の読み聞かせ」演習 子どもの発達をとらえた絵本の選択とグループでの読み聞かせの演習を通しての検討
第4回	子どもの育ちを支える物的な環境 創造的な遊び
第5回	自然環境・社会環境　（地域を知る） 季節の変化と園生活についての検討・第５回自然探検の事前指導・屋外での安全を守るための検討
第6回	自然探検（辰巳の森公園・他）　ネイチャーゲーム 自然環境に触れ、自ら遊びを考えたり身近な自然や自然事象の変化を発見したりする体験学習
第7回	自然環境　好奇心や探究心を育む身近な自然や自然事象との関り 第５回の振り返り　　四季の変化を主体的に楽しむことができる感情を育むための検討
第8回	子どもの育ちを支える物的な環境 創造的な遊び《折り紙等を使って、作って遊ぶ楽しさを味わう》
第9回	子どもの育ちを支える園環境 －夢中になって遊ぶ子どもを育てるために－　教育ビデオの視聴を通しての遊び環境の検討
第10回	身近な動植物など生き物との出会い－生命の尊さ－ 生命の尊さに気づき、いたわり、大切にするための具体的な方策についての検討　第１１回の準備
第11回	社会的な環境―「まちワーク」演習①　標識と文字・生活情報と施設 まち歩きを体験し、子どもの社会生活における標識や文字、生活情報や文教施設等の環境について検討
第12回	「まちワーク」演習②　《教室・パソコン室》 子どもの生育環境に社会における物的・自然環境の検討及び作業（ポスターづくり）
第13回	「まちワーク」発表・自然環境と社会環境 「まちワーク」ポスターセッション、地域や社会の中の子どもに関する総括
第14回	知を育む環境―文字や数量と図形・さまざまな国旗― 実感を伴った文字や数量や図形・さまざまな国旗との出会い・遊びの中での学びの検討
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

平常点（学習姿勢、レポート、課題（含む「まちワーク」の提出等）50%、定期試験50%に基づき、総合的に評価

【テキスト】

『幼稚園教育要領』フレーベル館 2008/『保育園保育指針』フレーベル館 2008/小田豊 保育内容 環境　光生館

【参考書・参考資料等】　アイリーン・アダムスとまちワーク研究会 『まちワーク』、風土社、2000
森本信也・磯辺頼子編　幼児の体験活動に見る「科学の芽」2013 神長美津子編
子どもと楽しむ自然体験活動　光生館

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育内容（人間関係）	担当教員名	赤坂　澄香
開設学期：1年前期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位数：2単位

【授業のねらい】

幼稚園教育要領・保育所保育指針に準拠した領域としての「人間関係」のねらい・内容を学習し内容の取り扱いにおける実践力を身につける。具体的には、乳幼児の発達に応じた「人とかかわる力」を遊びや生活の中でどのように身につけていくのかを「子どもの学び」から理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義と演習の形態で授業を行う。乳幼児の「人とかかわる力」に関連した心身の発達を講義し、その乳幼児の姿をふまえた事例や指導計画から保育者の役割、園・家庭・地域における人間関係においての保育者の重要性について演習する。

【到達目標】

・領域「人間関係」のねらい・内容を理解することができる。
・子どもたちが遊びや生活の中で「人とかかわる力」をどのように身につけていくのかを理解し、「人とかかわる力」を育むための援助をすることができる。

【授業時間外学習】

次回の授業範囲を教科書・参考書を用いて予習しておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス
第2回	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」
第3回	乳児期の発達と領域「人間関係」
第4回	遊びの中の人とのかかわり
第5回	生活を通して育つ人とのかかわり
第6回	乳児期の発達と人とのかかわり　0・1歳児
第7回	乳児期の発達と人とのかかわり　2歳児
第8回	乳児期の発達と人とのかかわり　3歳児
第9回	乳児期の発達と人とのかかわり　4歳児
第10回	乳児期の発達と人とのかかわり　5歳児
第11回	人との関わりが難しい子どもへの支援１　　関わりにおける留意点
第12回	人との関わりが難しい子どもへの支援２　　事例検討
第13回	保育の中で育つ人とのかかわり　3歳未満児の保育と指導計画
第14回	保育の中で育つ人とのかかわり　3歳以上児の保育と指導計画
第15回	領域「人間関係」のまとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度(30%)、演習課題の提出と内容(30%)、定期試験の成績(40%) に基づき、総合的に評価する。

【テキスト】

「事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」無藤隆（監修）　萌文書林

【参考書・参考資料等】

「保育所保育指針」フレーベル館・「保育所保育指針解説書」フレーベル館
「幼稚園教育要領」フレーベル館・「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育内容（健康）	担当教員名	鈴木 琴子
開設学期：1年後期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基盤を作る時期であり、その能力を育むために必要な教育と指導を行うことは、保育の基本となる。「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために必要な理論、方法論を提供する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

パワーポイントのスライドや関連の映像を提示しながら講義形式で進める。保育者として必要な健康の概念、健康を守るためのシステムなどを基礎に、子どもを取り巻く現状、子どもと遊び、事故防止など具体的に理解を深かめる。

【到達目標】

・保育内容における健康の意義を理解できる。
・子どもの健康を守る方法について理解できる。
・現代の子どもの現状を理解し、その対応について理解している。

【授業時期間外学習】

・現代の子どもの現状について書かれた書籍・新聞記事等を普段から読んでおくこと。レポート課題としても必要となるので積極的に読んでおくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	保育内容（健康）とはなにを学ぶのか 保育所保育指針との関連から
第2回	健康とはなにか 健康を守るシステム
第3回	健康はなにか わが国の保健行政
第4回	健康を守る方法 社会保障制度
第5回	現代の子どもの現状 現代の子どもたちの体力、遊び方について
第6回	子どもと遊び１ 遊びと健康
第7回	子どもと遊び２ 子どもの日常の変化
第8回	子どもの発達 身体・運動の発達と生活習慣の形成
第9回	生活習慣の形成 健康観察の方法知ついて
第10回	子どもと安全１ 安全な環境のために
第11回	子どもと安全２ 事故の原因
第12回	子どもと安全３ 事故防止について
第13回	応急処置 ケガの手当について
第14回	感染予防の考え方 感染を予防する技術について
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（３割)、レポート（２割)、学期末試験（５割）を基に総合的に評価します。

【テキスト】

事例で学ぶ保育内容　健康　萌文書林　2010

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育内容（音楽表現）	担当教員名	山田 麻美子
開設学期：1年前期	履修形態： 選択必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
「感性と表現における乳幼児の発達」というテーマのもと、とりわけ音楽表現における乳幼児の音楽的コミュニケーションと感性の発達を意識し、養い高めていく方法を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。0歳から児童期までの子どもの発達における音楽表現の重要性について理解する。子どもの表現活動の特性をとらえ、それに基づき乳幼児期の子どもにふさわしい表現活動のための環境構成と援助について、具体的・実践的な学習をする。なお、授業環境の条件より1コマの定員は30名とする。

【到達目標】
領域「表現」の内容を把握する。リズム遊び・音遊び・身体の動きを伴った音楽遊びなどの活動を通して、音楽表現の基礎的な知識と指導法を理解することが出来る。

【授業時期間外学習】
毎時の授業の復習をしてくること。授業終了時に示す課題について、個人またはグループでの練習を行うこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション 授業の内容・方法についての説明。
第2回	領域「表現」の概観について学ぶ。音楽の三要素について、音について、音遊びについて学ぶ。
第3回	音楽と動き、音楽と表現について学習する。拍について学ぶ。
第4回	音楽の流れと動きについて学習する。拍子について学ぶ。
第5回	音楽の流れと動きについて学習する。拍・拍子・リズムについて学ぶ。
第6回	音楽の流れと動きについて学習する。リズムパターン・フレーズについて学ぶ。
第7回	音楽の流れと動きについて学習する。リズム遊び・手遊び・遊び歌について学ぶ。
第8回	音楽の流れと動きについて学習する。リズム遊び・手遊び・遊び歌・身体の動きを伴った音楽遊びについて学ぶ。
第9回	リズム遊び・手遊び・遊び歌・身体の動きを伴った音楽遊びに使用する楽器演奏法を学ぶ。
第10回	乳幼児期の発達段階と音楽的表現について学ぶ。音楽遊びのための簡単なピアノ伴奏法について学ぶ。
第11回	音楽表現における保育者の役割・音楽的環境について学ぶ。音楽遊び指導法・指導案作成について学ぶ。
第12回	音楽表現活動指導の実践。音楽表現活動指導・活動内容によるグループの決定。
第13回	音楽表現活動指導の実践。音楽表現活動指導・グループ活動の練習。
第14回	音楽表現活動指導の実践。音楽表現活動の実際・グループ活動の展開・模擬発表。
第15回	学習のまとめ・グループ発表。

【評価方法・基準】
個人・グループ発表によ評価70%・提出物による評価30%

【テキスト 】
授業内で必要に応じて資料を配布する。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて提供する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育内容（身体表現）	担当教員名	久保 景子
開設学期：1年後期	履修形態： 選択必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

この授業では、童謡などに合わせてダンスを行い、保育者に必要な身体表現の基礎的技能を身につけ、豊かな身体作りを目指すとともに、グループ活動を通して協力することの大切さを学ぶ。また、用具（フラフープ、ポンポン、手ぬぐいなど）や楽器（カスタネット）を用いながら動き、現場で行われる「運動会」や「お遊戯会」などの創作方法を学ぶ。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

実技形式である。配布したプリントから出された課題などの予習を行いそれらのダンスを通して身のこなしや動きを伴う身体表現の基礎を学ぶ。グループ毎に創作活動を行う。実施した内容をノートにまとめ、授業理解を深める。最後に実技テストを行う。授業を行う際は、必ず運動着・底の柔らかいシューズを着用すること。

【到達目標】

童謡などに合わせて踊ることにより、身体的、精神的な表現力を豊かにすることができる。
作品発表を行うことより、創作方法を身につけることができる。
グループ活動を通して、協調性を養うことができる。

【授業時期間外学習】

実施した内容をノートに記入（復習）し、指示された課題について予習を行う。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業の目的、方法などについて
第2回	触れ合い、コミュニケーション
第3回	乳幼児の動き
第4回	身体を意識する
第5回	手具の取り扱いについて
第6回	舞台表現について
第7回	作品づくりについて
第8回	創作① グルーピング、曲の選考
第9回	創作② 踊り、構成作り①
第10回	創作③ 踊り、構成作り②
第11回	創作④ 仕上げ
第12回	創作作品発表会
第13回	伝承遊び、リズム遊び
第14回	プレイソング総復習
第15回	手作りおもちゃ

【評価方法・基準】

授業への参加態度50%、実技30%、提出物（ノート含む）20%
遅刻3回で1回の欠席とします。

【テキスト 】

賀来（田中）良江、豊田泰代著『プレイソング2』、チャイルド本社、2005、ISBN:4-8054-0048-X

【参考書・参考資料等】

賀来良江著『プレイソング』、チャイルド本社、ISBN:4-8054-9255-4
各自用意するもの：ノート（1冊）、手ぬぐい（1枚）、すずらんテープ（1巻）

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育内容（ドラマ表現）	担当教員名	山本 直樹
開設学期：1年前期	履修形態： 選択必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

領域「表現」の体感的な理解のため、自分の経験をもとに、感じたことや考えたことを、自分のやり方で、楽しく、全身で表現するドラマの基本を体験し、感じる力、創造する力、自分を表現する力、単なる専門的・芸術的表現とは異なる保育者の”豊かな表現”を意識し、自分なりに工夫して行動する力と幼児を見る目を養う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

ワークショップ形式の演習授業である。服装は動きやすい格好を推奨。前半では、頭や身体を使うドラマ・ゲームや表現あそびを行いながら、短い物語づくりや即興劇に取り組む。後半ではグループで指導者の立場でゲームや遊び、ドラマ活動を展開する。

【到達目標】

領域「表現」の意義を理解し、他の人に説明することができる。
自己表現を楽しみ、遊びごころ（子どもの頃に遊んだ時の感覚）を思い出すことができる。
ドラマの基本を理解し、グループで創意工夫をしながら、活動に取り組むことができる。

【授業時間外学習】

毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション ルール（まじめに遊ぶ、アイコンタクト、人の話を聴く、チャレンジ精神）、グループ身体表現体験
第2回	ドラマへのウォームアップ１　コミュニケーション 緊張とリラックス、子どもの名前をどう覚えるか。
第3回	ドラマへのウォームアップ２　集中・感覚 集中力と五感を意識し、研ぎ澄ますためのプログラム。
第4回	ドラマへのウォームアップ３　身体・言葉 自分の身体を意識し、身体と言葉の結びつきを意識するためのプログラム。
第5回	ドラマであそぶ１　物の見立てから イメージを膨らませる。他者とイメージを共有し、自分以外の人物になってお互いに交流してみる。
第6回	ドラマであそぶ２　身体の見立てから イメージを膨らませる。他者とイメージを共有し、自分以外の人物になってお互いに交流してみる。
第7回	ドラマであそぶ３　言葉のイメージから イメージを膨らませる。他者とイメージを共有し、自分以外の人物になってお互いに交流してみる。
第8回	ドラマをつくる１　日常生活を題材に 自分の経験を想起する。経験を再構成しグループでストーリーをつくる。登場人物として演じる。
第9回	ドラマをつくる２　絵本や物語を題材に 絵本や物語を再構成しグループでストーリーをつくる。登場人物として演じてみる。
第10回	ドラマをつくる３　模擬指導のためのガイダンス 子どものためのドラマをつくるという課題の説明、グループ決め。
第11回	ドラマをつくる４　模擬指導案づくり
第12回	ドラマをつくる５　グループ練習
第13回	ドラマをつくる６　リハーサル
第14回	ドラマをつくる７　クラス内発表（模擬保育）
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・授業内の成果発表（30%）・学期末レポート（40%）

【テキスト】特に指定しない。

【参考書・参考資料等】

ブライアン・ウェイ著／岡田陽訳『ドラマによる表現教育』玉川大学出版部、1977
太宰久夫著『表現あそび』全国児童館連合会／今人舎、1999
花輪充著『遊びからはじまる学び　今、幼児の表現活動を問い直す』大学図書出版、2010

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 保育内容（造形表現）	担当教員名	深澤 瑞穂
開設学期：1年後期	履修形態： 選択必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
造形的表現活動における自己感覚、造形要素、表現材料、表現行為、造形思考などの在り様をつかみ、併せて幼児教育者に必要な基礎的実践力を習得する。
幼稚園教育要領と保育所保育指針の内容に理解を深め、保育における造形表現の意義を理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】各時間 28名を定員とする。
表現材料を用いて実際に造形活動（個人製作、共同製作）を行い、且つ配布資料等の内容から基本的知識などを習得する。アイデアスケッチやメモ用のノート、鉛筆の類は各自で用意し携帯する。粘土や絵の具など表現材料や用具を活発に扱うことにふさわしい服装、態度で臨む。

【到達目標】
造形表現に対してためらいや構えをなくし、むりなく表現活動を楽しむことができる。
子どもたちが経験する感情や学びを理解し、援助に必要な技能や環境づくりを身につけることができる。

【授業時期間外学習】
・折り紙・お面製作などの課題作品について仕上げ、期日に提出できるように宿題とする。

回 数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 素材との関わり　その１　（紙類）　素材の特性と活かし方
第2回	素材との関わり　その２　（紙類）　素材の特性とコミュニケーション（グループ製作）
第3回	素材との関わり　その３　素材の特性とコミュニケーション・・(グループ製作)
第4回	素材との関わり　その４　素材の特性とコミュニケーション・・(グループ発表)
第5回	素材との関わり　その５　素材と自己感覚（土類）
第6回	多様な表現方法　その１　折り紙の製作過程のノートづくり（4種類）
第7回	多様な表現方法　その２　折り紙の製作過程のノートづくり（計8種類）
第8回	表現行為（こする・ちぎる）とイメージ　（フロッタージュ）
第9回	秋の自然物を生かした造形　その１（オブジェづくり）
第10回	秋の自然物を生かした造形　その２　（プリンティング）
第11回	表現行為（ひっかく・ぬる）とイメージ（スクラッチ）
第12回	表現行為（ならべる・はじく）とイメージ
第13回	材料・用具と基礎技法　その１　貼り子のお面つくり（風船を使った土台づくり）
第14回	材料・用具と基礎技法　その２　貼り子のお面つくり（アクリル絵具を使った仕上げ）
第15回	作って遊べる作品づくり　まとめ

【評価方法・基準】レポート・作品・グループ制作…75%、授業態度（準備、片付け、協力）…25%、
遅刻3回で欠席扱い（授業開始後10分以内に着席）。5回以上欠席した場合は単位修得不可

【テキスト 】
「作ってあそべる製作ずかん」（今野道裕：学研）

【参考書・参考資料等】
「保育をひらく造形表現」（槇英子著：萌文書林）・幼児造形の研究―保育内容「造形表現」（辻泰秀著：萌文書林）

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育相談支援　＊	担当教員名	杵鞭　広美
開設学期：3年前期	履修形態：必修	授業形態：演習	単位数：1単位

【授業のねらい】

保育相談支援の意義と原則について理解し、保護者支援の基本を身につける。保育相談支援の内容や方法について理解するとともに、さまざまな保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について学び、理解を深める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。保育相談支援の意義や基本について理解した上で、その実際的専門的な援助技術の理論と方法、関係機関との連携の取り方等を学ぶ。また、保育相談支援の実際について、事例によりながら学び、内容や方法についての理解を深めていく。

【到達目標】

・保育相談支援の意義と原則について理解する。
・保育相談支援の内容や方法について理解する。
・保育相談支援の実際について、保育所等児童福祉施設における事例から学び、理解する。

【授業時間外学習】

使用テキストの講読、関連図書や論文の講読、グループ発表への準備、課題レポートの作成

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 保育相談支援を学ぶ意義，授業概要と進め方
第2回	保育相談支援の意義 保護者に対する保育相談支援の意義，保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
第3回	保育相談支援の基本① 保育相談支援を行うにあたっての原則
第4回	保育相談支援の基本② 保護者の養育力向上に役立つ支援
第5回	保育相談支援の基本③ 保護者との信頼関係を基本とした受容的関わりと守秘義務
第6回	保育相談支援の基本④ 地域資源の活用と関係機関との連携および協力
第7回	保育相談支援の実際① 保育に関する保護者に対する指導
第8回	保育相談支援の実際② 保護者支援の内容
第9回	保育相談支援の実際③ 保護者支援の方法と技術
第10回	保育相談支援の実際④ 保護者支援の計画，記録，評価，カンファレンス
第11回	児童福祉施設における保育相談支援① 保育所における保育相談支援について
第12回	児童福祉施設における保育相談支援② 保育所における特別な対応を要する家庭への支援について
第13回	児童福祉施設における保育相談支援③ 児童養護施設など要保護児童とその家庭に対する支援について
第14回	児童福祉施設における保育相談支援④ 障害児施設や母子生活支援施設などにおける保育相談支援について
第15回	総復習

【評価方法・基準】

授業態度（20%）、課題提出状況(20%)、期末試験の成績（60%）に基づき評価する。

【テキスト】

「相談援助 保育相談支援」　笠師・小橋　著　中山書店（2014）

【参考書・参考資料等】

授業の中で、適宜紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 総合表現	担当教員名	山田　麻美子　他
開設学期：3年通年	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

1年次、2年次で学習した表現科目を総合的に捉え直し、音楽、身体、造形、ドラマ、ことばによる表現コミュニケーション力の育成や、集団での子どもための創作舞台づくりと上演活動を通して、保育者に必要な表現技術の定着と子どもに対する指導の具体的方法を体験的に習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

それぞれの興味・関心に沿って創作チームを構成し、チームごとに表現技法に特色のある子どものための作品づくりを行う。スタッフワークなどを中心に行うチームも含めて、それぞれのチームが独立して作品を作り上げ、最終的に子どもを対象とした舞台発表を行う。卒業研究における検討材料（実践的な研究データ）の蓄積も兼ねた創作活動である。

【到達目標】

これまで培った表現に関する学習を総合的かつ応用的に活用する。
集団創作活動を通して、社会性・責任感、協働性、コミュニケーション力、問題解決能力等を獲得する。
子どものための舞台創作を通して、子どもの理解と子どもための表現指導法を理解する。

【授業時期間外学習】

担当する役割に応じて授業時間外に行わなければならないことを確実に遂行する。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス　実践的研究における活動記録の意義と作成の方法
第2回	保育における行事と保育者の役割
第3回	子どもを対象とした舞台発表の特徴
第4回	総合表現の実践的取り組み1　チームの構成、役割分担
第5回	総合表現の実践的取り組み2　作品の選定
第6回	総合表現の実践的取り組み3　本読み
第7回	総合表現の実践的取り組み4　半立ち稽古
第8回	総合表現の実践的取り組み5　立ち稽古
第9回	総合表現の実践的取り組み6　立ち稽古
第10回	総合表現の実践的取り組み7　立ち稽古
第11回	総合表現の実践的取り組み8　通し稽古
第12回	総合表現の実践的取り組み9　舞台稽古・最終リハーサル
第13回	総合表現の実践的取り組み10　舞台発表
第14回	総合表現の実践的取り組み11　ふりかえり
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（50%）・成果発表（20%）・発表後の最終レポート（30%）

【テキスト】

特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

特に指定しない。

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 特別支援教育演習	担当教員名	杵鞭　広美
開設学期：3 年前期	履修形態： 選択	授業形態：演習	単位：2 単位

【授業のねらい】

特別支援教育の制度と専門的な指導法を理解することにより、将来、特別支援の対象となる子どもと保護者を支援できる実践力を身につけることを目的とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

１．　特別支援教育の現状を事例から学び、具体的な支援・教育のありかたについてディスカッションを行う。
２．　障害児のアセスメントの実施法、個別指導プログラム、代表的な指導法について演習をとおして学ぶ。

【到達目標】

障害児にたいする専門的な指導法について理解する。
特別支援教育制度の現状と課題に対し、解決の方策を探る力を得る。

【授業時期間外学習】

特別支援教育に関連する①新聞記事の検索、②最新の関連書籍の講読

回　数	授 業 内 容
第 1 回	オリエンテーション　　授業の進め方と評価について
第 2 回	学校制度と特別支援教育　視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児、肢体不自由児の教育
第 3 回	特別支援学校、特別支援学級、通級における支援の実際
第 4 回	特別支援教育の教育課程
第 5 回	自立活動
第 6 回	特別支援教育の個別指導計画
第 7 回	特別支援学校のセンター的役割、特別支援教育コーディネーター・
第 8 回	障害児のアセスメントの実際
第 9 回	障害児の指導法
第 10 回	地域における発達センターの役割
第 11 回	障害児とその家族の地域生活
第 12 回	障害児・者の権利擁護
第 13 回	障害児の発達相談
第 14 回	障害児の発達臨床
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

最終回に実施する筆記試験の成績（80%）　　レポート等の課題提出状況（20%）

【テキスト 】

なし　　各回に資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、授業のなかで紹介する

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 **道徳性の教育**	担当教員名	日暮 トモ子
開設学期：2 年前期	履修形態： 小免・必修	授業形態：講義	単位：2 単位

【授業のねらい】

道徳及び道徳性の概念や研究成果を知り、道徳教育の理念と歴史を理解する。あわせて、子どもの道徳的資質の発達過程の特徴を理解する。現代の学校教育における道徳教育の目的、学習内容を学習指導要領に即して理解し、道徳性の教育の必要性について学ぶとともに、実践力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、演習を取り入れる。人間社会における道徳及び道徳教育の歴史を振り返りながら、現代社会を生きるための道徳的資質について検討する。また、学校における道徳教育にみられる特有の難しさを克服するために、どのような工夫をしたらよいかを考える。

【到達目標】

・道徳と道徳教育の目的と内容を学習指導要領に即して理解する。
・道徳教育の根幹にある倫理感覚を高め、自分自身の道徳的実践力を身につける。

【授業時期間外学習】

・提示された資料を次時までに必ず読んでくること。収集を指示された資料は必ず持参すること。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス：授業概要と進め方並びに評価方法の説明 道徳を必要とするのはなぜか。小学校時代の道徳教育で記憶していることは何か。
第 2 回	道徳と道徳性：なぜ学校で道徳教育を行うのか。 道徳と道徳性の概念。「道徳は教えられるか」という疑問にどう答えるか。
第 3 回	近代社会・現代社会と道徳　　近代社会・現代社会とは。現代社会における、産業・科学・技術の発展と必要とされる道徳とは何か。家庭と地域における道徳教育。
第 4 回	学校における道徳教育の歴史（戦前編） 戦前の修身教育と国定教科書
第 5 回	学校における道徳教育の歴史（戦後編） 修身の禁止と「道徳の時間」の特設。道徳教育を巡る最近の動き。
第 6 回	道徳教育の心理学的基礎　　心理学的に見た人間像、道徳性のメカニズム、人間形成の過程と道徳性の発達、心の理論と道徳性、道徳教育実践の心理
第 7 回	道徳性の発達理論 フロイト、ピアジェ、コールバーグ、バンデューラ等の理論の概要
第 8 回	学校における道徳教育① 学習指導要領をとおして、道徳教育の目標と内容を知る。
第 9 回	学校における道徳教育② 道徳教育の場と構造　学校全体で行う道徳教育
第 10 回	「道徳の時間」で何ができるか 小学校学習指導要領の内容
第 11 回	道徳教育の授業① 道徳教育の方法、道徳教育用教材について
第 12 回	道徳教育の授業② 授業例の検討、道徳教育の評価の考え方について
第 13 回	指導案作成の試み① 道徳教育の指導案とはどのようなものか。指導案作成演習。
第 14 回	指導案作成の試み② 作成した指導案の発表と検討
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

提出物（3 割）・授業への参加態度（3 割）・定期試験（4 割）に基づき、総合して評価する。定期試験 60 点未満の者は単位認定しない。

【テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説　道徳編（平成 20 年 8 月）』東洋館出版社、2008 年。

【参考書・参考資料等】

・小寺正一・藤永芳純編『三訂版　道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009 年。
・松下良平編著『新・教職課程シリーズ　道徳教育論』一藝社、2014 年。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 特別活動の指導	担当教員名	山本 直樹
開設学期：2年後期	履修形態： 小免・必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

今日の学校教育で行っている学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の各領域についてのそれぞれを説明することができる。自主的自発的活動に対する教師の指導のあり方や評価の方法について自分なりの考え方を持つことができる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の各領域についての解説を行い、生徒の自主的自発的活動に対する教師の指導のあり方や評価の方法について論じていく。授業時に配付する資料に基づき、主にグループ活動によって展開する。なお、受講生全員の同意で、交通費や入場料、材料費等実費を自己負担する学外授業を行う場合がある。

【到達目標】

小学校学習指導要領における特別活動の目標と内容について理解する。
指導案の作成を通して、児童の実態に合わせた特別活動の指導のあり方について考える。
特別活動における領域ごとの特質を理解し、それらの人間形成的な意義を自分なりに説明することができる。

【授業時間外学習】

毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス
第2回	望ましい集団活動とは
第3回	特別活動の目標
第4回	学級活動1 児童の集団行動の特質
第5回	学級活動2 学級活動の意義
第6回	学級活動の指導計画作成
第7回	児童会活動
第8回	クラブ活動
第9回	児童会活動とクラブ活動の指導計画作成
第10回	学校行事1 儀式的行事と勤労生産・奉仕的行事
第11回	学校行事2 健康安全・体育的行事と遠足・集団宿泊的行事
第12回	学校行事3 学芸的行事
第13回	学校行事の指導計画作成
第14回	特別活動の評価
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・授業内の小テスト（30%）・学期末レポート（40%）

【テキスト】

『小学校学習指導要領解説　特別活動編』、東洋館出版社

【参考書・参考資料等】

佐々木昭　『特別活動の研究』、学文社、1998
鯨井俊彦　『特別活動の展開』、明星大学出版部、2002

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 生活指導	担当教員名	羽田 紘一
開設学期：2年後期	履修形態： 小免・必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】

現在の学校教育は多様な生活指導上の課題を抱えており、教師は様々な問題に適切に対応する資質を求められている。その指導には、児童生徒が将来、自分らしい生き方をするための指導も含まれる。この授業では学校教育における生活指導並びに進路指導の意義と指導のあり方を学ぶことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが演習を含む。学校教育における生活指導（進路指導を含む）の位置づけと意義を学びながら、今日の学校・教員が担う役割について理解し、実践する意欲と態度を養う。講義だけでなく演習（グループワーク、ディスカッション等）を多用する。提示された課題を実行し、積極的に授業に参加することを望む。

【到達目標】

1．現在の社会状況が児童生徒並びに学校教育に及ぼす影響について、正確な認識を身につける。
2．生活指導に必要な知識・方法を身に付け、各自が実践的な工夫を試みる態度を養う。
3．児童生徒がよりよく生きようとする意欲を育てる関わりができる教師としての素養を養う。

【授業時期間外学習】

次回の授業範囲について予習をしてくるとともに、指示された資料を収集し持参すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	講義の進め方の説明：授業概要と進め方、評価方法の説明、受講上の諸注意。 生徒指導の意義と原理並びに生徒指導の現在の課題を取り上げる。
第2回	教育課程と生徒指導 学校教育における生徒指導の位置づけと教科等における生徒指導の意義について検討する。
第3回	児童生徒の心理と児童生徒理解① 児童生徒の基本。児童期の心理と発達。
第4回	児童生徒の心理と児童生徒理解② 青年期の心理と発達。児童生徒理解の資料とその収集。
第5回	学校における生徒指導体制。 生徒指導体制の基本的な考え方。生徒指導の組織と生徒指導主事の役割等。
第6回	生徒指導の進め方：児童生徒全体への指導 組織的対応と教職員の役割。守秘義務と説明責任。学級担任・ホームルーム担任による指導等。
第7回	生徒指導の進め方：個別の問題を抱える児童生徒への指導①【グループワークの発表】 早期発見と効果的な指導。【課題】発達に関わる課題、喫煙・飲酒・薬物案用、少年非行。
第8回	生徒指導の進め方：個別の問題を抱える児童生徒への指導②【グループワークの発表】 【課題】暴力行為、いじめ、インターネット・携帯電話に関わる課題。
第9回	生徒指導の進め方：個別の問題を抱える児童生徒への指導③【グループワークの発表】 【課題】性に関する課題、命の教育と自殺の防止、児童虐待への対応。
第10回	生徒指導の進め方：個別の問題を抱える児童生徒への指導④【グループワークの発表】 【課題】家出、不登校、中途退学。
第11回	進路に関する指導 キャリア教育と進路指導。キャリア教育で育成する力。キャリア教育の目標。
第12回	教育相談 教育相談の意義と進め方。スクール・カウンセラー・専門機関との連携。
第13回	生徒指導に関する法制度等 校則、懲戒と体罰、出席停止、青少年の保護育成に関す法令等、非行少年の処遇等。
第14回	学校と家庭・地域・関係機関との連携による生徒指導 地域社会における生徒指導、学校を中心とする家庭・地域・関係機関との連携活動。
第15回	まとめ

【評価方法・基準】提出物（30%）、グループワークの活動状況（30%）、試験（40%）を総合して評価する。ただし、期末試験60点未満（100点満点）の者は単位認定しない。
4回以上欠席した者は、失格とする。期末試験に遅刻した者は失格とする。

【テキスト 】

生徒指導提要　文部科学省(平成22年3月)　教育出版

【参考書・参考資料等】

「わかりやすい生徒指導論」　稲垣應顕編著　文化書房博文社
「新・教育課程シリーズ　生徒指導・進路指導」　林尚示編著　一藝社

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 国語科指導法	担当教員名	三澤　裕見子
開設学期：2年後期	履修形態：　小免・選択必修	授業形態:演習	単位数：2単位

【授業のねらい】

小学校国語科の目標と内容を踏まえた上で、国語科の授業を構築するための基本的な学習指導過程、教材研究の方法を理解する。そして、学習指導案が作成できるようにし、実際の授業を構想できるようにすることが目標である。作成した学習指導案によって模擬授業も行う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。小学校国語科の目標と内容の基礎的事項を認識するとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」並びに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」などの領域ごとの指導計画、教科書の使い方、評価の方法を実際的、具体的な事例を用いて学習する。

【到達目標】

・教育実習において必要な国語科指導の基礎知識について、具体例を通して理解することができる。
・教壇に立った際に役立つ国語科の指導法を身につける。
・指導案を作成することができる。

【授業時間外学習】

・配布資料を次回までに読んでくること。・授業終了時に示す課題について調べておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス ・国語科教育の意義・目標　　・国語科教育の歴史概観
第2回	小学校学習指導要領に基づいた各学年の目標と内容について ～第1学年から第6学年まで～
第3回	小学校国語　観点別学習状況の評価規準と判定基準について 国語科の評価の観点及び趣旨、学年別の評価規準と判定基準
第4回	学習指導案作成の実際① 作成の方法・板書計画・発問の仕方、　「一つの花」を教材にすすめる。
第5回	学習指導案作成の実際② 教材『一つの花』の作品分析
第6回	学習指導案作成の実際③ 教材『一つの花』の作品分析
第7回	学習指導案作成の実際④ 低学年対象「かたかなのひろば」
第8回	模擬授業の実際と分析 低学年対象
第9回	学習指導案作成の実際⑤ 中学年対象「ごんぎつね」
第10回	学習指導案作成の実際⑥ 中学年対象「ごんぎつね」
第11回	模擬授業の実際と分析 中学年対象
第12回	学習指導案作成の実際⑦ 高学年対象「百年後のふるさとを守る」
第13回	学習指導案作成の実際⑧ 高学年対象「百年後のふるさとを守る」
第14回	模擬授業の実際と分析 高学年対象
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

①授業への参加態度(2割)　②レポート(3割)　③指導案作成(3割)　④模擬授業(2割)の割合で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】　『小学校学習指導要領解説　国語編』、東洋館出版社、2010
『小学校学習指導要領』、東京書籍、2010　　『新訂　国語科教育学の基礎』、渓水社、2010
『小学校　国語科教育研究』、学芸図書、2007　　『小学校　国語科授業研究』、教育出版、2007

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 社会科指導法	担当教員名	山本 直樹
開設学期：2年後期	履修形態： 小免・選択必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

小学校教科の一つ社会科の目標・内容・方法・評価に関する理論と方法について講義・演習を行い、社会科授業構成能力を高めることをめざす。さらに学習指導案作成の力量を形成することもめざしている。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

授業は講義形式を主とするが演習課題に対する発表・討議・模擬授業などの学習形態を適宜取り入れ、実際に学習指導案の作成も行う。

なお、受講生全員の同意で、交通費や入場料等実費を自己負担する学外授業を行う場合がある。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な理論と方法を理解する。

小学校社会科の模擬授業を実施し、自分なりに反省をし、次年度の実習に臨むことができる。

【授業時間外学習】

毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	「社会科」とは何か
第2回	戦後新しい教科として生まれた「社会科」
第3回	社会科教育の歴史と主要な論争
第4回	社会科の授業構成
第5回	社会科の年間指導計画
第6回	社会科における教育評価
第7回	社会科指導法の実際Ⅰ 地域単元　３年生対象
第8回	社会科指導法の実際Ⅱ 地域単元　４年生対象
第9回	社会科指導法の実際Ⅲ 産業単元　５年生対象
第10回	社会科指導法の実際Ⅳ 歴史単元・政治単元　６年生対象
第11回	学習指導案の作成Ⅰ 作成の方法
第12回	学習指導案の作成Ⅱ 指導案の作成
第13回	模擬授業と分析Ⅰ 中学年対象の模擬授業
第14回	模擬授業と分析Ⅱ 高学年対象の模擬授業
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・指導案と模擬授業の実施（30%）・学期末レポート（40%）

【テキスト】

『小学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版社。他、授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

適宜紹介する。

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 算数科指導法	担当教員名	滝沢 清
開設学期：2 年後期	履修形態： 小免・選択必修	授業形態：演習	単位：2 単位

【授業のねらい】

具体的な事例に即して、子どもに算数をどう指導すればよいのかを考える。数理的な手法や考えは、生きていく上で必須である。学校では、新しいことを学ぶ喜びと同時に学ぶ困難さがあるので、楽しい教材の提示とステップを踏んで学べる手だてを絶えず考えなければならない。さらに算数と生活や社会との関連も意識する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式で進める。小学校算数科の目標と内容を知り、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の領域構成に従って、その指導法を考える。学習上の多いつまずき例を用いてその原因の分析や教材開発を試みながら、指導法の具体化を図っていく。また指導計画の立て方や評価方法の工夫についてもふれる。

【到達目標】

算数科の目標と内容がわかる。
学習指導の流れと評価方法がわかる。

【授業時期間外学習】

授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	はじめに この授業の進め方と算数指導における基本的な考え方
第 2 回	算数科の目標 歴史的な流れの中での現在の目標、世界の中での日本の算数教育、指導方法の特徴
第 3 回	「数と計算」1 具体的な問題とその指導法
第 4 回	「数と計算」2 つまずきやすい問題とその効果的な指導法
第 5 回	「量と測定」1 具体的な問題とその指導法
第 6 回	「量と測定」2 つまずきやすい問題とその効果的な指導法
第 7 回	「図形」1 具体的な問題とその指導法
第 8 回	「図形」2 つまずきやすい問題とその効果的な指導法
第 9 回	「数量関係」1 具体的な問題とその指導法
第 10 回	「数量関係」2 つまずきやすい問題とその効果的な指導法
第 11 回	算数的活動 算数的活動を充実させる授業のありかた
第 12 回	授業スタイル 板書、情報機器の利用、ノートのとり方
第 13 回	指導計画の立て方と評価１ 望ましい指導計画の立て方と評価のめやす
第 14 回	指導計画の立て方と評価２ 学習指導案の作成
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（3 割）・レポート（4 割）・学期末試験（3 割）に基づき、総合的に評価する。

【テキスト 】

特に指定しない。必要に応じて授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

『小学校学習指導要領解説　算数編』東洋館出版、2008 年、257 円

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 理科指導法	担当教員名	鶴岡 義彦
開設学期：2年後期	履修形態： 小免・選択必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

小学校理科の目標、内容、方法など、現代の小学校理科教育の基礎的・基本的な内容を理解させるとともに、理科授業作りの基礎基本を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

理科教育の目的・目標、内容、方法、そして、現代的な特色などを取上げ、検討する。その際、講義と演習を交え、できるだけ討論や発表の機会を設けたい。

【到達目標】

1. 日本の理科教育の特色を、諸外国と比較して指摘できる。
2. 理科教育課程（カリキュラム）の水平・垂直次元の枠組み（スコープとシーケンス）を理解する。
3. 理科学習指導案の構成要素を理解し、基礎基本を踏まえた指導案を作成できる。

【授業時期間外学習】

1．授業開始前に、「小学校学習指導要領解説 理科編」の第１章総説を読んでおくこと。
2．７回目と14回目に小テストを行うので、各回の復習を怠らないこと。

回 数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス ―本授業に関するガイダンス―
第2回	理科教育の価値・目的・目標と現行学習指導要領の特色 ―理科教育全体の目的と小学校理科の役割―
第3回	理科教育課程の構成とその特色 ―諸外国との比較を交えて―
第4回	小学校理科の内容① －Ａ：物質・エネルギー、Ｂ：生命・地球－
第5回	小学校理科の内容② －自然科学を超える要素：実社会・実生活との関連付け、キャリア教育の要素など－
第6回	小学校理科の内容③ ―科学的探究の技能―
第7回	第６回までに関する小テスト（30分程度） 及び　理科学習指導案の構成要素―単元の考察を中心として―
第8回	理科学習指導案の作成　A① ―力学系単元の指導のポイントと留意点―
第9回	理科学習指導案の作成　A② ―力学系単元の指導案の作成実習－
第10回	理科学習指導案の作成　B① ―植物系単元の指導のポイントと留意点―
第11回	理科学習指導案の作成　B② ―植物系単元の指導案の作成実習―
第12回	理科教育の最近の話題を考える① ―理科教育における言葉の重要性―
第13回	理科教育の最近の話題を考える② ―理科教育と環境教育、それらの関係と差異―
第14回	第７回以降に関する小テスト（30分程度）及び理科学習指導案作成事例の発表と振り返り （第8.9回、第10.11回の授業を基にして作成した指導案のいくつかを事例とする）
第15回	まとめ（本授業の総まとめ・討論）

【評価方法・基準】

小テスト：40%、学習指導案の作成：40%、日常の発表など授業への参加度：20%。1/3を超える欠席は失格。

【テキスト 】

・文部科学省編『小学校学習指導要領解説（理科編)』大日本図書, 2008, 65円

【参考書・参考資料等】

・理科教育研究会編『新学習指導要領に応える理科教育』東洋館出版社, 2009, 2200円
・鶴岡監修・千葉市教育センター編『Q&A方式でよくわかる小学校教師のための理科基礎知識』大日本図書, 2012, 933円

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 生活科指導法	担当教員名	山嵜　早苗
開設学期：3 年前期	履修形態：　小免・選択必修	授業形態:演習	単位数：2 単位

【授業のねらい】
生活科の教科としての特徴や魅力を実践的に体験する中で理解できるようにする。子どもの実態や地域の様子、教師の願いなどを総合してどんな単元を組むかを考え、24 か月の指導計画や学習指導案が作れるようにする。また子どもの見取りや評価の在り方についても考えることができるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。子どもの生活環境に即した単元構成を試み、授業計画の立て方を指導し、生活科にふさわしい総合学習の計画と運営ができるようにする。授業の実践例を参考にしながら自然探索の方法や地域学習教材の開発などができる力を養う。

【到達目標】
・生活科の教科としての特徴がわかり、子どもたちの生活環境に合った指導案を作成することができる。

【授業時間外学習】
授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	自然を探索する活動　生活科の教科目標の構成について
第 2 回	春の自然を食べる　生活科の内容構成について
第 3 回	春の自然料理のまとめ　振り返り表現する活動について
第 4 回	地域を探索する活動　町探検など地域探検学習の準備と活動について
第 5 回	有明の地域発見　地域の人々・自然・社会を一体化した学びへ
第 6 回	伝え合い交流する場の工夫　自然素材の遊びや雄雄し寄りから学ぶ伝承遊び
第 7 回	気付きを基に考えさせる活動　気付きを高めさせるための多様な学習活動と形態
第 8 回	生活者としての子どもにどんな力を育てるのか　単元構成と学習材について
第 9 回	年間計画を立てよう　2 年間の生活科を見通した 24 か月の年間指導計画を考える
第 10 回	単元指導計画を作ろう　各自が設定した地域・子どもへの指導案の作成を構想する
第 11 回	単元指導計画の作成①　ＣＰ室で指導案の作成をする
第 12 回	単元指導計画の作成②　ＣＰ室で指導案の作成をする
第 13 回	指導案の提案①　みんなで検討し課題を見つけ修正する
第 14 回	指導案の提案②　みんなで検討し課題を見つけ修正する
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加態度（3 割）・授業の中での活動状況（3 割）・学期末試験（4 割）に基づき、総合的に評価する。

【テキスト】
『小学校学習指導要領解説　生活編』日本文教出版　2008　（飼育栽培・生活と共通）

【参考書・参考資料等】
調理費 200 円程度

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 家庭科指導法	担当教員名	伊藤 野里子
開設学期：3 年前期	履修形態： 小免・選択必修	授業形態：演習	単位：2 単位

【授業のねらい】
小学校教諭の免許取得のための科目である。
家庭科教育の意義について考え、小学校家庭科の指導に必要とされる基本的な知識や技能を身につけるとともに、実践的な授業構成の力を養うことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である（講義、調理と被服実習を含む)。「家庭科」の変遷や現状を解説し、家庭科教育の意義について考える機会とする。小学校家庭科の授業を実践するための指導方法について解説し、理解を深めさせる。講義や実習による指導事項の学習、指導例分析、学習指導案の作成や模擬授業を通して授業づくりの力をつける。

【到達目標】
家庭科教育の意義について理解し、自己の考えを含めて説明することができる。
小学校家庭科の目標と内容、指導計画、授業構成のための学習指導法や教材研究及び評価について理解できる。
小学校家庭科の特質を生かした指導計画を立てることができる。(指導案の作成・模擬授業の実施)

【授業時期間外学習】
授業終了時に出すテーマについてレポートを作成すること。発表のための情報収集や準備作業を行うこと。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	家庭科教育の意義――家庭科で何をどのように学ぶのか
第 2 回	小学校家庭科の目標と内容
第 3 回	小学校家庭科における生活課題の発見と問題解決学習
第 4 回	小学校家庭科における実践的・体験的な活動
第 5 回	小学校家庭科の指導計画　　年間指導計画・題材の指導計画・単位時間の指導計画
第 6 回	学習指導案と模擬授業の目的と方法
第 7 回	「家庭生活と家族」の授業　　授業の構成と指導の要点
第 8 回	「食生活」の授業①　　授業の構成と指導の要点
第 9 回	「食生活」の授業②　　調理実習の指導の要点
第 10 回	「衣生活・住生活」の授業①　　授業の構成と指導の要点
第 11 回	「衣生活・住生活」の授業②　　被服実習の指導の要点
第 12 回	「消費生活と環境」の授業　　授業の構成と指導の要点
第 13 回	小学校家庭科の評価
第 14 回	指導計画の発表（学習指導案の発表と部分的な模擬授業）
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】授業への取組状況 20%、レポート・製作物 20%、発表・学習指導案 30%、定期試験 30%に基づき、総合的に評価する。

【テキスト 】文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』東洋館出版社　2008　(90 円＋税)
授業時の配布プリント

【参考書・参考資料等】
堀内かおる『家庭科教育を学ぶ人のために』世界思想社　2013　(2000 円＋税)
池﨑喜美恵『教科指導法シリーズ　小学校指導法　家庭』玉川大学出版部　2013　(2000 円＋税)

【連絡方法】授業時に伝えます。

科目名	専門教育科目 音楽科指導法	担当教員名	三小田 美稲子
開設学期：3 年後期	履修形態： 小免・選択必修	授業形態：演習	単位：2 単位

【授業のねらい】
小学校における音楽科教育の基礎知識や概念を学ぶ。発表・模擬授業といった演習中心の授業である。小学校の音楽教育で大切なことは何か、自ら考え行動できる力を身に付けることを目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
表現と鑑賞の各活動を体験しながら、知識を獲得し、指導法について考える。
　また、授業計画の立て方や指導案の書き方について学ぶ。発表・模擬授業などの演習中心の授業となる。

【到達目標】
①小学校音楽科の授業内容を知り、教材研究ができるようになる。
②授業の評価と評価の方法を理解し、模擬研究を行うことができる。

【授業時期間外学習】
授業後に提示する課題についてのレポートを作成すること、模擬授業の準備をし、教材研究をしておくこと

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス　授業の内容と進め方
第 2 回	音楽科の目標と指導内容
第 3 回	表現（歌唱）領域の内容と指導方法
第 4 回	表現（歌唱）領域の内容と指導方法　指導上のポイント　共通教材
第 5 回	表現（器楽）領域の内容と指導方法
第 6 回	表現（器楽）領域の内容と指導方法　指導上のポイント
第 7 回	表現（音楽づくり）領域の内容と指導方法
第 8 回	表現（音楽づくり）領域の内容と指導方法　指導上のポイント
第 9 回	日本の音楽の指導方法
第 10 回	鑑賞領域の内容と指導方法
第 11 回	鑑賞領域の内容と指導方法　日本の音楽・諸民族の音楽
第 12 回	学習指導案の作成　題材と評価
第 13 回	学習指導案の作成　評価と指導の計画
第 14 回	音楽科の授業の目的とカリキュラム
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加態度（3 割）・グループや個人で作成した作品などの提出物（4 割）・指導案（3 割）に基づき、総合的に評価する。

【テキスト 】
小学校学習指導要領解説

【参考書・参考資料等】
学校音楽教育実践シリーズ（音楽之友社）

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 図画工作科指導法	担当教員名	有福　一昭
開設学期：3年後期	履修形態：　小免・選択必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

「小学校学習指導要領」に示されている目標や内容をふまえ、実践指導方法について理解を深める。この教科の各学年の学習内容を理解し、いくつかの題材演習を通して、授業を組み立てるための諸準備や学習者の関心や意欲を高める指導法、効果的な展開計画や評価方法、学習指導案作成方法等を考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

小学校図画工作科の目標と内容を理解し、児童の造形への興味や関心、教授や授業の特性等を教科書等から理解する。また、指導者として必要な感性や表現力、造形の知識や技能を体得する。特に安全に配慮すべき事項に関しては、実際の材料・用具、工具を用い着実な指導技術指導を身につける。

【到達目標】

「小学校学習指導要領解説・図画工作編」における指導計画の作成と内容の取扱い、特に材料や用具、事故防止については、実際の活動を通して把握することできる.

【授業時期間外学習】

指定した小学校図が工作教科書の該当ページを読み取ってくること。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	表現材料の特性と(紙)と用具の取扱い、および指導上の留意点(低学年)
第3回	表現材料の特性と(紙)と用具の取扱い、および指導上の留意点(中学年)
第4回	表現材料の特性と(紙)と用具の取扱い、および指導上の留意点(高学年)
第5回	表現材料の特性と(自然材、木材)と用具の取扱い、および指導上の留意点(低学年)
第6回	表現材料の特性と(自然材、木材)と用具の取扱い、および指導上の留意点(中学年)
第7回	表現材料の特性と(自然材、木材)と用具の取扱い、および指導上の留意点(高学年)
第8回	安全指導(はさみ、小刀、カッターナイフ等の扱い)と題材研究
第9回	安全指導(鋸、錐等木工用具)と題材研究
第10回	安全指導(電動工具)と題材研究
第11回	表現材料の特性(身辺材)と題材研究(低学年)
第12回	表現材料の特性(身辺材)と題材研究(中学年)
第13回	表現材料の特性(身辺材)と題材研究(高学年)
第14回	表現材料の特性(粘土)と題材研究(低・中学年)
第15回	表現材料の特性(粘土)と題材研究(高学年)

【評価方法・基準】

レポート・作品・定期試験･･･75%、授業態度(準備、片付け、協力等)･･･25%、
５回以上欠席は、単位修得不可。

【テキスト 】

小学校学習指導要領解説図画工作科編、小学校図画工作科教科書(１～6年)

【参考書・参考資料等】

適宜配布、紹介する。教材費を徴収することがある。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 体育科指導法	担当教員名	菊地　大介
開設学期：3 年後期	履修形態：　小免・選択必修	授業形態：演習	単位：2 単位

【授業のねらい】
小学校体育科教育の目標と内容を理解し、体育の指導とその展開のために求められる基礎的な能力を養う。
模擬授業等を通して、基礎的な体育の指導技術を中心とした実践的能力を身につけることを目的とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義を織り交ぜながら、演習形式を多く取り入れて実施する。
学年ごとの教育目標や内容を理解しながら学習指導案を作成し、模擬授業を通して参加者同士による評価や振り返り活動を重ねながら体育科指導に求められる学びを深める。

【到達目標】
体育科教育の目的を踏まえ指導内容を検討し、教材を工夫して学習指導案を作成することができる。
模擬授業を通して授業の計画・評価の手法を学び、より良い体育科の授業を構築することができる。

【授業時期間外学習】
学習指導要領等を参考にしながら、学年ごとの指導案を作成し演習の準備に取り組むこと。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	オリエンテーション 小学校体育科の目標と指導内容
第 2 回	体育科の内容と構成・単元計画、指導案作成に向けての要点
第 3 回	体つくり運動の内容と授業づくり
第 4 回	器械・器具を使っての運動遊びの内容と授業づくり
第 5 回	走・跳の運動遊び、走・跳の運動の内容と授業づくり
第 6 回	ゲームの内容と授業づくり
第 7 回	ボール運動の内容と授業づくり①
第 8 回	ボール運動の内容と授業づくり②
第 9 回	現リズム遊び、表現運動の内容と授業づくり
第 10 回	保健の内容と授業づくり
第 11 回	水遊び、水泳の内容と授業づくり
第 12 回	学習指導案の作成・演習①
第 13 回	学習指導案の作成・演習②
第 14 回	学習指導案の作成・演習③
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への意欲と参加態度（50%）、指導案（20%）、模擬授業（30%）から総合的に評価。

【テキスト 】
小学校学習指導要領解説　体育編、東洋館出版社、2008、118 円＋税

【参考書・参考資料等】
学校にはなぜ体育の時間があるのか？－これからの学校体育への一考－、白旗和也、文溪堂、2013、2,000＋税

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 音楽Ⅰ(理論と基礎実技)前期	担当教員名	山田　麻美子 松田　扶美子
開設学期：1年前期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

幼児教育、初等教育現場で必要な音楽的技術・技能および豊かな感性と表現力を身につけ、現場での実践力を習得するための方法論を獲得させる。常に現場を意識し、よりよい指導者としての音楽的実力、感性を身につけさせるために、現場に対応できる読譜力、歌唱、器楽演奏を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。音楽の基礎的知識に基づき、読譜、記譜、演奏、創作に関する初歩的技術を子どもの発達や遊び・表現に関連させて学習させる。そのための楽典基礎、歌唱、器楽奏法、作編曲、指揮法、伴奏法について実践的に学習させ、音楽創作活動を取り入れて表現能力を身につけさせる。

【到達目標】

・音楽の基礎理論について理解し、楽譜を読むことができる。
・鍵盤ハーモニカや小物打楽器など、簡単な器楽演奏や合奏をすることができる。
・発声の基礎を修得し、正しい発声による歌唱や合唱をすることができる。

【授業時期間外学習】

授業内容の復習及び次回授業の予習をしておくこと。授業で出された課題等の練習を自宅または本学練習室で行うこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業の概要、授業の進め方、評価方法について
第2回	音楽の基礎を身につける・1 理論と声楽の基礎知識　「譜表(譜表・音名・音階)」「発声と呼吸法」
第3回	音楽の基礎を身につける・2 理論と器楽の基礎知識　「譜表(臨時記号)」「楽器の名称と基本的奏法・1」
第4回	音楽の基礎を身につける・3 理論と声楽の基礎知識　「音価(音符と休符)」「歌唱の基礎（ボイストレーニング)」
第5回	音楽の基礎を身につける・4 理論と器楽の基礎知識　「音価(付点音符と付点休符)」「楽器の名称と基本的奏法・2」
第6回	音楽の基礎を身につける・5 理論と声楽の基礎知識　「拍子と拍子記号」「歌唱の基礎（ボイストレーニング)」「合唱の基礎」
第7回	音楽の基礎を身につける・6 理論と器楽の基礎知識　「拍子とリズム」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏・1」
第8回	音楽理論を技能に活かす・1 理論と声楽の基本的技能　「調性と調子記号(ハ長調)」「歌唱の基礎（ボイストレーニング)」
第9回	音楽理論を技能に活かす・2 理論と器楽の基本的技能　「調性と調子記号(ヘ・ト長調)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏・2」
第10回	音楽理論を技能に活かす・3 理論と器楽の基本的技能　「調性と調子記号(変ロ・ニ長調)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏・3」
第11回	音楽理論を技能に活かす・4 理論と器楽の基本的技能　「調性の理解(コードネーム)」「合奏編曲の基礎と演奏」
第12回	音楽理論を技能に活かす・5 理論と声楽の応用的技能　「調性の理解(コードネームベース伴奏付・1)」「新曲視唱」
第13回	音楽理論を技能に活かす・6 理論と器楽の応用的技能　「調性の理解(コードネームベース伴奏付・2)」「合奏のまとめ」
第14回	まとめ・1　理論の復習
第15回	まとめ・2　器楽と声楽の復習

【評価方法・基準】

学期末試験(40%)、授業内における個人及びグループ発表(30%)、課題の提出(30%)により評価する。

【テキスト 】諸井泰子「保育と音楽」武久出版　(2013)
「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1、Vol.2」吉田梓監修　東亜音楽社　(1997)

【参考書・参考資料等】

授業の進行にしたがって資料等を配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 音楽Ⅰ(理論と基礎実技)後期	担当教員名	山田　麻美子 松田　扶美子
開設学期：1年後期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
幼児教育、初等教育現場で必要な音楽的技術・技能および豊かな感性と表現力を身につけ、現場での実践力を習得するための方法論を獲得させる。常に現場を意識し、よりよい指導者としての音楽的実力、感性を身につけさせるために、現場に対応できる読譜力、歌唱、器楽演奏を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。音楽の基礎的知識に基づき、読譜、記譜、演奏、創作に関する初歩的技術を子どもの発達や遊び・表現に関連させて学習させる。そのための楽典基礎、歌唱、器楽奏法、作編曲、指揮法、伴奏法について実践的に学習させ、音楽創作活動を取り入れて表現能力を身につけさせる。

【到達目標】
・音楽の基礎理論の理解を深め、さらに新しい理論の知識を修得することができる。
・鍵盤ハーモニ及び小物打楽器、歌唱などの表現力を高めることができる。
・理論および器楽演奏・歌唱の基礎実技を生かした総合的な音楽創作活動を実践することができる。

【授業時期間外学習】
授業内容の復習及び次回授業の予習をしてくること。授業で出された課題等の練習を自宅または本学練習室で行うこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	音楽理論の基礎を修得する・1 理論の復習「音名と音階、音符と休符」「音楽遊びの体験１」
第2回	音楽理論の基礎を修得する・2 理論の復習「拍子とリズムパターン」「音楽遊びの体験２」
第3回	音楽理論の基礎を修得する・3 理論の復習「調性と音階・１」「音楽遊びの体験３」
第4回	音楽理論の基礎を修得する・4 理論の復習「調性と音階・２」「音楽遊びの体験４」
第5回	音楽理論の基礎を修得する5 理論の復習「和音の機能と童謡の伴奏付け・１」「童謡による音楽遊び１」
第6回	音楽理論の基礎を修得する・6 理論の復習「和音の機能と童謡の伴奏付け・２」「童謡による音楽遊び２」
第7回	音楽理論の基礎を修得する・7 理論のまとめ　「和音の機能と童謡の伴奏付け・３」「童謡による音楽遊び３」
第8回	音楽理論の基礎を修得する・8 理論のまとめ　　「童謡による音楽遊び４」
第9回	理論を応用し表現する・1 保育における音楽指導に基礎「指揮法の基礎」
第10回	理論を応用し表現する・2 保育における音楽指導の基礎　「音楽遊びを作る(グループ･ワーク)・１」
第11回	理論を応用し表現する・3 保育における音楽指導の基礎「合唱と指揮」「音楽遊びをつくる(グループ・ワーク)・２」
第12回	理論を応用し表現する・4 保育における音楽指導の基礎「合奏と指揮」「音楽遊びを作る(グループワーク)・３」
第13回	理論を応用し表現する・5 模擬授業の実践　「音楽遊びのグループ発表・評価と課題のまとめ１」(ホール練習)
第14回	まとめ 模擬授業の実践　「音楽遊びのグループ発表・評価と課題のまとめ２」(ホール練習)
第15回	まとめ　「子どもたちとともに」ホール発表

【評価方法・基準】
学期末試験(40%)、授業内における個人またはグループ発表(30%)、課題の提出と発表(30%)により評価する。

【テキスト 】「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1、Vol.2」吉田梓監修 東亜音楽社 (1997)
「保育と音楽～表現者としての保育者養成～」諸井泰子　武久出版(2013)

【参考書・参考資料等】授業の進行にしたがって資料等配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 音楽Ⅱ（うたと楽器） 前期	担当教員名	山田　麻美子 松田　扶美子　他
開設学期：2年前期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

音楽Ⅰにおいて修得した保育、幼児教育、初等教育現場で必要な音楽的技術・技能をさらに応用できる力の獲得を目指す。常に現場を意識し、子どもの表現を受け止めることのできる豊かな感性・表現力を身につけるとともに、実習に対応できる音楽技術、技能、総合的音楽表現力の獲得を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。音楽Ⅰで修得した音楽的技術を子どもの発達に即した遊び、表現に関連させて学習する。そのための歌唱、器楽奏法、作編曲法、指揮法、伴奏法の技術、技能の一層の向上をはかり、現場での実践力を身につけるために音楽創作活動、音楽表現活動、身体表現活動などを取り入れた総合的な表現能力を身につける。

【到達目標】

・音楽の基礎理論及び基礎的な技術、技能をもとに、さらに新しい知識、技術、技能を修得することができる。
・歌唱及び器楽の基礎実技を生かし、実習を意識し、現場で必要な音楽創作活動、音楽表現活動、身体表現活動を取り入れた総合的な音楽活動を実践することができる。

【授業時期間外学習】

授業内容の復習及び次回授業の予習をしてくること。授業提示された課題等を行うこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 授業の概要、授業の進め方、評価方法について
第2回	保育における子どもの歌「童謡１」
第3回	保育における器楽演奏法１、ボイストレーニング
第4回	保育における子どもの歌「童謡２」
第5回	保育における器楽演奏法２、ボイストレーニング
第6回	保育における子どもの歌「童謡３」
第7回	合奏編曲と音楽遊び実践１(グループ活動)、ボイストレーニング
第8回	歌唱と音楽遊び実践１(グループ活動)
第9回	合奏編曲と音楽遊び実践２(グループ活動)、ボイストレーニング
第10回	歌唱と音楽遊び実践２(グループ活動)、指揮の基本
第11回	合奏編曲と音楽遊び実践３(グループ活動)、合奏と指揮
第12回	歌唱と音楽遊び実践３(グループ活動)、合唱と指揮
第13回	合奏と音楽遊びグループ活動発表、評価と課題のまとめ
第14回	歌唱と音楽遊びグループ活動発表、評価と課題のまとめ
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

学期末試験(40%)、授業内における発表(30%)、課題の練習及び提出状況(30%)により評価する。

【テキスト 】

「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.１、２」吉田梓監修 東亜音楽社(1997)

【参考書・参考資料等】

授業の進行にしたがって資料配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 音楽Ⅱ（うたと楽器）　後期	担当教員名	山田　麻美子 松田　扶美子　他
開設学期：2年後期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

音楽Ⅰにおいて修得した保育、幼児教育、初等教育現場で必要な音楽的技術・技能をさらに応用できる力の獲得を目指す。常に現場を意識し、子どもの表現を受け止めることのできる豊かな感性・表現力を身につけるとともに、実習に対応できる音楽技術、技能、総合的音楽表現力の獲得を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。音楽Ⅰで修得した音楽的技術を子どもの発達に即したや遊び・表現に関連させて学習する。そのための歌唱、器楽奏法、作編曲法、指揮法、伴奏法の技術、技能の一層の向上をはかり、現場での実践力を身につけるために音楽創作活動、音楽表現活動、身体表現活動、造形表現活動などを取り入れた総合的な表現能力を身につける。

【到達目標】

・音楽の基礎理論及び基礎的な技術、技能をもとに、さらに新しい知識、技術、技能を修得することができる。
・歌唱及び器楽の基礎実技を生かし、実習を意識し、現場で必要な音楽創作活動、音楽表現活動、身体表現活動造形表現活動を取り入れた総合的な音楽活動を実践・展開することができる。

【授業時期間外学習】

授業内容の復習及び次回授業の予習をしてくること。授業で提示された課題等を行うこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 音楽劇グループ活動発表「子どもたちとともに」のためのグループ分けと役割分担
第2回	音楽劇発表活動について 音楽劇の題材・資料研究、子ども理解の方法１
第3回	音楽劇発表活動について 舞台表現研究、歌唱・合奏の研究、子ども理解の方法２
第4回	音楽劇発表活動について 身体表現研究、造形表現研究、衣装・舞台装置作成について
第5回	グループ活動１ 台本作成・配役及び担当の決定
第6回	グループ活動２ 台本読み合わせと台詞練習
第7回	グループ活動３ 歌唱及び合奏練習１
第8回	グループ活動４ 歌唱及び合奏練習２
第9回	グループ活動５ 身体表現練習・造形表現作成
第10回	グループ活動６ 音楽劇による総合表現練習１
第11回	グループ活動７ 音楽劇による総合表現練習２
第12回	発表練習１(ホール練習)
第13回	発表練習２(ホール練習)
第14回	「子どもたちとともに」ホール発表
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

学期末試験(40%)、授業内における発表(30%)、課題の練習及び提出状況(30%)により評価する。

【テキスト 】

「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.１、２」吉田梓監修 東亜音楽社(1997)

【参考書・参考資料等】

授業の進行にしたがって資料配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 ピアノⅠ（ピアノの基礎）前期	担当教員名	山田麻美子・諸井泰子 中目ますみ
開設学期：1年前期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

ピアノ奏法の基礎を学ぶ。保育・初等教育の現場で必要なピアノ及び音楽の基礎知識を身につけ、楽譜から必要なことを読み取る力、美しい音でピアノを演奏する力を養い、音楽性豊かに教育現場で活用できる能力の獲得を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。ピアノ奏法の基礎を学ぶと同時に、保育・教育の現場に求められる力としての歌唱教材伴奏法の修得による応用力、表現力を身につける。学生のピアノ経験別によるグレード制を取り入れ、グループによる自主練習並びに個人レッスンの２つの形態で授業を進める。

【到達目標】

・ピアノ奏法の基礎を身につけ、基本的な読譜ができる。初心者の前期到達目標はバイエル 78 番とする。
・実習現場で必要とされる生活の歌などの童謡の伴奏ができる。
・能力に応じた簡単なピアノの楽曲演奏ができる。

【授業時期間外学習】

自宅または本学で課題曲の練習をしてくること。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス ピアノの授業の進め方、グレード制の説明、授業準備・レッスン記録についての説明
第 2 回	基礎奏法の学習 1 読譜練習 1 、運指法、ピアノの練習方法について
第 3 回	基礎奏法の学習 2 読譜練習 2 、運指法、ピアノ楽曲紹介、模範演奏
第 4 回	基礎奏法の学習 3 読譜練習 3 、運指法、ピアノ楽曲々目選択と練習 1
第 5 回	基礎奏法の学習 4 読譜練習 4 、運指法、ピアノ楽曲練習 2
第 6 回	基礎奏法の学習 5 読譜練習 5 、運指法、ピアノ楽曲練習 3
第 7 回	基礎奏法の学習 6 読譜練習 6 、運指法、ピアノ楽曲練習 4
第 8 回	基礎奏法の学習 7 読譜練習 7 、運指法、ピアノ楽曲練習 5 、童謡(生活の歌)紹介、模範演奏
第 9 回	基礎奏法の学習 8 読譜練習 8 、運指法、ピアノ楽曲練習 6 、童謡(生活の歌)曲目選択
第 10 回	基礎奏法の学習 9 読譜練習 9 、運指法、ピアノ楽曲練習 7 、童謡(生活の歌)伴奏練習 1
第 11 回	基礎奏法の学習 10 読譜練習 10、運指法、ピアノ楽曲練習 8 、童謡(生活の歌)伴奏練習 2
第 12 回	基礎奏法の学習 11 読譜練習 11、運指法、ピアノ楽曲練習 9 、童謡(生活の歌)伴奏練習 3
第 13 回	基礎奏法の学習 12 読譜練習 12、運指法、ピアノ楽曲練習 10、童謡(生活の歌)伴奏練習 4
第 14 回	ピアノ楽曲、童謡伴奏のまとめ
第 15 回	まとめ　　評価と課題のまとめ

【評価方法・基準】

演奏試験の評価(60%)、課題への取り組み(30%)、記録の提出(10%)により評価を行う。

【テキスト 】

「バイエルピアノ教本」全音楽譜出版社、「ブルグミュラー25 の練習曲」全音楽譜出版社、「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社

【参考書・参考資料等】

授業の中で適宜資料を配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 ピアノⅠ（ピアノの基礎）後期	担当教員名	山田麻美子・諸井泰子 中目ますみ
開設学期：1年後期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
ピアノ奏法の基礎を学ぶ。保育・初等教育の現場で必要なピアノ及び音楽の基礎知識を身につけ、楽譜から必要なことを読み取る力、美しい音でピアノを演奏する力を養い、音楽性豊かに教育現場で活用できる能力の獲得を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。ピアノ奏法の基礎を学ぶと同時に、保育・教育の現場に求められる力としての歌唱教材伴奏法の修得、応用力、表現力を身につける。学生のピアノ経験別によるグレード制を取り入れ、グループによる自主練習並びに個人レッスンの２つの形態で授業を進める。

【到達目標】
・ピアノ奏法の基礎を身につけ、基本的な読譜ができる。初心者の後期到達目標はバイエル終了またはブルグミュラー前半曲とする。　・実習現場で必要とされる童謡の伴奏ができる。
・能力に応じたピアノの楽曲演奏ができる。

【授業時期間外学習】
自宅または本学で課題曲の練習をしてくること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス ピアノ曲の学習について学ぶ、童謡伴奏法について学ぶ
第2回	基礎の復習１ ピアノ楽曲紹介、模範演奏
第3回	基礎の復習２ ピアノ楽曲々目選択、練習１
第4回	童謡伴奏法１ かんたん伴奏法を学ぶ、ピアノ楽曲練習２
第5回	童謡伴奏法２ 和音伴奏法を学ぶ、ピアノ楽曲練習３
第6回	童謡伴奏法３ 分散和音伴奏法を学ぶ、ピアノ楽曲練習４
第7回	童謡伴奏応用１ 秋の童謡の練習１、ピアノ楽曲練習６
第8回	童謡伴奏応用２ 秋の童謡の練習２、ピアノ楽曲練習７
第9回	童謡伴奏応用３ 冬の童謡の練習１、ピアノ楽曲練習８
第10回	童謡伴奏応用４ 冬の童謡の練習２、ピアノ楽曲練習９
第11回	ピアノ楽曲読譜の完成 曲想のつけ方について学ぶ
第12回	ピアノ楽曲の完成 美しい音での演奏について学ぶ、暗譜について学ぶ
第13回	童謡伴奏の完成 歌いやすい伴奏について学ぶ
第14回	ピアノ楽曲・童謡伴奏の仕上げとまとめ
第15回	まとめ　　評価と課題のまとめ

【評価方法・基準】
演奏試験の評価(60%)、課題への取り組み(30%)、記録の提出(10%)により評価を行う。

【テキスト 】
「バイエルピアノ教本」全音楽譜出版社、「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社
「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社

【参考書・参考資料等】
授業の中で適宜資料を配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 ピアノⅡ（弾き歌いと伴奏）前期	担当教員名	諸井泰子・角田玲奈 西脇千花・福田久美
開設学期：2年前期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
音楽Ⅱ(うたと楽器)及びピアノⅠ(ピアノの基礎)で身につけた歌唱力、ピアノ演奏力をさらに高め、応用力、実践力、表現力を向上させる。ソルフェージュ力、弾き歌い演奏力、即興演奏の知識と技術、美しい伴奏法などの力を身につけ、保育・教育の現場で活用できる能力を養う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。個人レッスン、集団授業の形式で授業を進める。童謡や唱歌の弾き歌い、ソルフェージュ力、ピアノ伴奏法、ピアノ即興演奏法などの技術を身につけ、歌唱・楽器演奏全般のレパートリーを広げる。また、歌唱とピアノのアンサンブル経験により、応用力、実践力を身につけ、美しい音楽の表現について学ぶ。

【到達目標】
・実習を意識し、童謡、唱歌の伴奏ができる。
・実習を意識し、童謡、唱歌の弾き歌いができる。　　・ソルフェージュの力をつける。
・初見、移調、即興演奏、アンサンブルの経験を通して実践力・表現力を身につける。

【授業時期間外学習】
課題の復習・予習を自宅や本学練習室を利用して練習してくること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス　　授業の進め方、内容についての説明
第2回	童謡・唱歌のレパートリーを増やす　和音伴奏法・コード伴奏法の復習
第3回	弾き歌い曲目選択　伴奏曲目選択　弾き歌い１　伴奏法１
第4回	和音記号について学ぶ　弾き歌い２　伴奏法２
第5回	ソルフェージュチェック１　弾き歌い３　伴奏法３
第6回	和音伴奏による伴奏づけと即興演奏法１　弾き歌い４　伴奏法４
第7回	和音伴奏による伴奏づけと即興演奏法２　弾き歌い５　伴奏法５
第8回	和音伴奏による伴奏づけと即興演奏法３　弾き歌い６　伴奏法６
第9回	初見視唱・初見演奏１
第10回	初見視唱・初見演奏２
第11回	歌唱とピアノ伴奏によるアンサンブル１
第12回	歌唱とピアノ伴奏によるアンサンブル２
第13回	弾き歌いのまとめ
第14回	即興演奏のまとめ
第15回	まとめ　発表・評価と課題のまとめ

【評価方法・基準】
演奏発表(60%)、課題の進度状況・課題の提出(40%)により評価する。

【テキスト 】「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2　吉田梓監修 東亜音楽社、「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社、「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」加藤照恵・本廣明美 著 ドレミ楽譜出版社

【参考書・参考資料等】
授業の進行にしたがって資料を配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 ピアノⅡ（弾き歌いと伴奏）後期	担当教員名	諸井泰子・角田玲奈 西脇千花・福田久美
開設学期：2年後期	履修形態： 必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
音楽Ⅱ(うたと楽器)及びピアノⅠ(ピアノの基礎)で身につけた歌唱力、ピアノ演奏力をさらに高め、応用力、実践力、表現力を向上させる。ソルフェージュ力、弾き歌い演奏力、即興演奏の知識と技術、美しい伴奏法などの力を身につけ、実習や保育・教育の現場で活用できる能力を養う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。個人レッスン、集団授業の形式で授業を進める。童謡や唱歌の弾き歌い、ソルフェージュ力、ピアノ伴奏法、ピアノ即興演奏法などの技術を身につけ、歌唱・楽器演奏全般のレパートリーを広げる。また、アンサンブルなどの経験により、応用力、実践力を身につけ、美しい音楽の表現について学ぶ。

【到達目標】
・実習を意識し、童謡、唱歌の伴奏ができる。
・実習を意識し、童謡、唱歌の弾き歌いができる。　　・ソルフェージュの力をつける。
・初見、移調、即興演奏、アンサンブルの経験を通して実践力・表現力を身につける。

【授業時期間外学習】
課題の復習・予習を自宅や本学練習室を利用して練習してくること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ソルフェージュチェック２・初見視唱３・初見演奏３
第2回	移調練習１・移調による歌唱と伴奏１(Cdur)
第3回	童謡・唱歌・小学校共通教材と伴奏について
第4回	移調練習２・移調による歌唱と伴奏２(Gdur)
第5回	かんたんなロマン派作品の演奏１
第6回	移調練習３・移調による歌唱と伴奏３(Fdur)
第7回	かんたんなロマン派作品の演奏２
第8回	モティーフによる即興演奏法１
第9回	かんたんなロマン派作品の演奏３
第10回	モティーフによる即興演奏法２
第11回	発表の企画・曲目選択・練習計画立案
第12回	発表の練習１
第13回	発表の練習２
第14回	発表の練習３
第15回	まとめ　演奏発表・講評・感想

【評価方法・基準】
演奏発表(60%)、課題の進度状況・課題の提出(40%)により評価する。

【テキスト 】「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2　吉田梓監修 東亜音楽社、「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社、「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」加藤照恵・本廣明美 著 ドレミ楽譜出版社

【参考書・参考資料等】
授業の進行にしたがって資料を配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 図画工作　前期	担当教員名	有福　一昭
開設学期：3年前期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

実際の造形表現活動を通して、基礎技能や材料・用具に関する知識、制作環境のあり方等保育者として必要な感性や表現力を養う。

「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の内容の理解を深め、保育における造形表現の意義を把握する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

子どもの発達や遊び、興味や関心に関連した造形表現のあり様を演習形式で学ぶ。粘土や絵の具等の造形表現材料や用具を活発に扱うことにふさわしい服装、態度で臨む。アイデアスケッチやメモ用のノート、鉛筆のたぐいは各自で用意し携帯する。

【到達目標】

子どもたちの生活経験や発達に応じ、さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、用具を選択したり整えたりして、表現する過程を大切にする支援や指導のあり方を学ぶことができる。

【授業時期間外学習】

指定した教科書の該当ページの内容を読み取ってくること。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	絵画表現用具と表現の多様性(鉛筆)
第3回	絵画表現用具と表現の多様性(クレパス)
第4回	絵画表現用具と表現の多様性(水彩絵の具)
第5回	表現材料と表現の多様性(紙)
第6回	表現材料と表現の多様性(身辺材)
第7回	造形要素(平面)の分割と再構成　アイデアと試作
第8回	造形要素(平面)の分割と再構成　制作と鑑賞
第9回	造形要素(立体)の分割と再構成　アイデアと試作
第10回	造形要素(立体)の分割と再構成　制作と鑑賞
第11回	形の変化とイメージの変化
第12回	位置の変化とイメージの変化
第13回	絵本の制作と鑑賞
第14回	位置の変化とイメージの変化
第15回	カードの制作と鑑賞

【評価方法・基準】

レポート・作品・定期試験･･･75%、授業態度(準備、片付け、協力等)･･･25%、５回以上欠席は単位修得不可

【テキスト 】

授業時に資料配布

【参考書・参考資料等】

授業時に適宜、紹介する

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 図画工作　後期	担当教員名	有福　一昭
開設学期：3年後期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】

実際の造形表現活動を通して、基礎技能や材料・用具に関する知識、制作環境のあり方等保育者として必要な感性や表現力を養う。

「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の内容の理解を深め、保育における造形表現の意義を把握する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

子どもの発達や遊び、興味や関心に関連した造形表現のあり様を演習形式で学ぶ。粘土や絵の具等の造形表現材料や用具を活発に扱うことにふさわしい服装、態度で臨む。アイデアスケッチやメモ用のノート、鉛筆のたぐいは各自で用意し携帯する。

【到達目標】

子どもたちの生活経験や発達に応じ、さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、用具を選択したり整えたりして、表現する過程を大切にする支援や指導のあり方を学ぶことができる。

【授業時期間外学習】

指定した教科書の該当ページの内容を読み取ってくること。

回　数	授 業 内 容
第1回	技法とイメージの多様性(水彩絵の具・手の動き)
第2回	技法とイメージの多様性(水彩絵の具・用具の多様性)
第3回	平面構成の計画と制作
第4回	空間構成の計画と制作
第5回	紙の折りと立体表現
第6回	紙の切り込みと立体表現
第7回	紙のテープから　変わる形とイメージ
第8回	紙のテープから　紙バネ
第9回	紙のテープから　織り
第10回	紙のテープから　空間構成
第11回	身辺材料と造形の可能性
第12回	身辺材料による空間構成
第13回	リンク構造　構造の理解とイメージの多様性
第14回	リンク構造　制作
第15回	リンク構造　発表と鑑賞

【評価方法・基準】

レポート・作品・定期試験･･･75%、授業態度(準備、片付け、協力等)･･･25%、５回以上欠席は単位修得不可

【テキスト 】

授業時に資料配布

【参考書・参考資料等】

授業時に適宜、紹介する

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 体育　前期	担当教員名	菊地 大介
開設学期：2 年前期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1 単位

【授業のねらい】
「生活そのものを教育へ」という幼児期の教育の方向性に着目し、多様な身体活動と中枢神経系の発達、感覚の育ちを理解し、心と身体の発達過程を踏まえながら保育者に求められる実践的能力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実技を中心とした体験型の学習が主になるが、活動の理論や意義を理解するために講義を織り交ぜながら学習を進める。学生による指導実践演習と、毎回の学習内容をまとめた子ども体育ノートを作成し理解を深める。

【到達目標】
様々な運動材を用いた活動の特性や展開方法を理解し、実践することができる。
遊びの教育的意義を理解し、文化実践活動を深める為の環境を整えることの意義と価値を理解する。

【授業時期間外学習】
毎回の授業内容を整理して子ども体育ノートにまとめ、理解を深める。
演習で実施する指導案を作成する。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	オリエンテーション 保育における生活と運動、遊びの定義と意義について
第 2 回	子どもの運動指導へ向けて アイスブレイキング・ゲーム、イニシアチブ・ゲーム、ボール遊び(1)
第 3 回	ボール遊び(2) 子ども体育実践演習グループ分け
第 4 回	リズム遊びと発達 子ども体育実践演習開始（以降、毎回実施）
第 5 回	マット遊び(1)、なわを使った活動
第 6 回	マット遊び(2)、様々な鬼ごっこ(1)
第 7 回	様々な鬼ごっこ(2)：個から集団へ
第 8 回	遊具を使った遊び
第 9 回	原始反射の統合と発達
第 10 回	用具を使った遊び
第 11 回	表現遊び
第 12 回	表現遊び：創作
第 13 回	表現遊び：発表
第 14 回	子どもの運動発達と生活
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加姿勢と実践演習による平常点（70%）、子ども体育ノートの内容（30%）から、総合的に評価する。

【テキスト 】
幼児期における運動発達と運動遊びの指導－遊びのなかで子どもは育つ－杉原隆／河邉貴子（編著）
ミネルヴァ書房、2014、2,400 円＋税

【参考書・参考資料等】
子ども体育ノートを自らのテキストとして作成し、その他必要に応じて資料を紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 体育　後期	担当教員名	菊地 大介
開設学期：2年後期	履修形態：　必修	授業形態：演習	単位：1単位

【授業のねらい】
「生活そのものを教育へ」という幼児期の教育の方向性に着目し、多様な身体活動と中枢神経系の発達、感覚の育ちを理解し、心と身体の発達過程を踏まえながら子どもに寄り添うための実践的能力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実技を中心とした体験型の学習が主になるが、活動の理論や意義を理解するために講義を織り交ぜながら学習を進める。学生による指導実践演習と、毎回の学習内容をまとめた子ども体育ノートを作成し理解を深める。

【到達目標】
様々な運動材を用いた活動の特性や展開方法を理解し、実践することができる。
遊びの教育的意義を理解し、文化実践活動を深める為の環境を整えることの意義と価値を理解する。

【授業時期間外学習】
毎回の授業内容を整理して子ども体育ノートにまとめ、理解を深める。
演習で実施する指導案を作成する。

回　数	授 業 内 容
第1回	オリエンテーション 子ども体育実践演習グループ分け
第2回	表現遊び 子ども体育実践演習開始（以降、毎回実施）
第3回	表現遊び：創作
第4回	表現遊び：発表
第5回	遊具を使った遊び
第6回	保育における生活と遊び
第7回	民族舞踊を用いたリズム遊び
第8回	運動会種目①
第9回	運動会種目②
第10回	民謡を用いた表現活動①
第11回	民謡を用いた表現活動②
第12回	伝承遊び①
第13回	伝承遊び②
第14回	乳幼児期の運動発達
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加姿勢と実践演習による平常点（70%）、子ども体育ノートの内容（30%）から、総合的に評価する。

【テキスト 】
幼児期における運動発達と運動遊びの指導－遊びのなかで子どもは育つ－杉原隆／河邉貴子（編著）
ミネルヴァ書房、2014、2,400円＋税

【参考書・参考資料等】
子ども体育ノートを自らのテキストとして作成し、その他必要に応じて資料を紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 国語（書写を含む）	担当教員名	三澤　裕見子
開設学期：2年後期	履修形態： 選択必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

①小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基本的な知識及び技能を習得し、身につける。

②国語を適切に表現し正確に理解する力を養う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である。小学校教科としての国語科の教科内容に対応する専門的知識を得るとともに、言語生活の基本である国語について関心を広げ、国語・国字についての研究的態度と研究の力を養う。

国字については、仮名、漢字の書写、筆順等に関する知識技能も含まれる。

【到達目標】

・国語を適切に表現し、正確に理解することができる。

・日本語についての基本的な知識及び技能を習得し、実践的に活用することができる。

【授業時間外学習】

・毎回授業の初めに『小学漢字1006字の正しい書き方』からの書き取りをするので、復習をしておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス シラバスに基づき、授業の進め方、到達目標、評価方法・基準等についての説明
第2回	「国語教育」と「国語科教育」の区別について 司馬遼太郎「なによりも国語」の文章を例に、解説する
第3回	日本の文字について ①　文字の伝来　②漢字について　③国字について　④万葉仮名について
第4回	日本の文字について ひらがな、片仮名、ローマ字について　ひらがな・漢字の筆順について　漢字部首について
第5回	表記・用字について 仮名遣い、送り仮名、同音異義語・同訓異義語・類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句
第6回	表現技術について① ・敬語について。・副詞の呼応について。・文体の統一について。・主語と述語について
第7回	表現技術について② ・原稿用紙の使い方について　・文章の構成について
第8回	文章表現について ・短文を書いて文章表現の練習
第9回	小論文の実作 課題に基づき、1000字程度の小論文の実作。
第10回	「書くこと」「読むこと」の表現法①　小学校低学年 課題作品を読解する。よく読みとり、感想文を書く。
第11回	「書くこと」「読むこと」の表現法②　小学校中学年 課題作品を読解する。よく読み取り、感想文を書く。
第12回	「書くこと」「読むこと」」の表現法③　小学校高学年 課題作品を読解する。よく読み取り、感想文を書く。
第13回	文字・書写① 硬筆（姿勢、ペンの持ち方等の基本から）
第14回	文字・書写② 毛筆（姿勢、筆の持ち方の基本から）
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

①　授業への参加態度（4割）　②小論文や感想文の課題提出（6割）の割合で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】　『小学校学習指導要領』国立印刷局、2008

山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、2008

有沢俊太郎『国語教育実践学の研究』、風間書房、2008　『小学漢字　1006字の正しい書き方』、旺文社、2008

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 算数	担当教員名	滝沢 清
開設学期：2年前期	履修形態：選択 必修	授業形態：講義	単位：2単位

【授業のねらい】
現在、小学校で算数がどういう内容で指導されているのかを知るとともに、それを支える数学的な原理、裏付けを考える。この科目は、教育職員免許法の「教科に関する科目」に相当し、後の「算数科指導法」をより効果的に学ぶための基礎にもなっている。ここでは主に数と量、そして図形を中心に考える。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
小学校での算数の内容を理解するためには、実際に使われている教科書を意識することはもちろんだが、数学的により深い知識がどうしても必要である。といっても抽象的な話だけでは理解は深まらないので、問題を解く、問題を作る、あるいは教材を作るといった「作業」を取り入れる予定である。

【到達目標】
整数の表し方（十進位取り記数法）や計算、そしてその意味がわかる。
連続量の意味が分かる。分数と小数の違いとその関係がわかる。
いろいろな図形について、その性質がわかる。

【授業時期間外学習】
授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	はじめに この授業の進め方と算数の基礎となる数学について
第2回	数について 数とは何か、また数概念をどうやって獲得したか
第3回	個数と順番 自然数の持つ２つの側面である集合数と順序数について
第4回	数えること・記数法 自然数の表記の仕方についての歴史的考察
第5回	n進法 十進位取り記数法と一般のn進法
第6回	たし算・ひき算 たし算・ひき算の意味と計算
第7回	かけ算 かけ算の意味と計算
第8回	わり算 わり算の意味と計算
第9回	連続量1 分数の原理とその計算
第10回	連続量2 小数の原理とその計算
第11回	連続量3 分数と小数についての関係など
第12回	平面図形 いろいろな平面図形の性質
第13回	空間図形 いろいろな空間図形の性質
第14回	数量関係 関数や資料の整理
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加態度（3割）・授業内の小テスト（3割）・学期末試験（4割）に基づき、総合的に評価する。

【テキスト 】
特に指定しない。必要に応じて授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】
小林道正『数とは何か？』ベレ出版、2012年、1,620円

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 生活	担当教員名	山嵜　早苗
開設学期：2年後期	履修形態：　選択必修	授業形態：講義	単位数：2単位

【授業のねらい】
「生活」という概念を教育の理論史、実践史の中から歴史的に学び、生活を貫く科学や文化を理解する。そして、生活科学や生活文化そのものをどう理解し、総合的な教科としての生活科を教えるために必要な教養や思想をどう身に付けていったらよいのかを考える。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
小学校教科である生活科の創設の経緯や生活科をめぐる論議を学び、生活を総合原理とする総合学習の意義を理解する。また、現代において部分的に分断されがちな人間の生活をトータルな視点でとらえようとする知的探求の態度を養う。基本は講義であるが、ゲストによる文化体験など演習的な側面を含む。

【到達目標】
・「生活」という概念が歴史的な流れの中でどのように形成されてきたのかを理解することができる。
・「生活教育」の思想や実践の歴史を理解し、生活科の総合学習としての意義を理解することができる。

【授業時間外学習】
授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること

回　数	授 業 内 容
第1回	自分の生活や子どもの生活をめぐるさまざまな問題について
第2回	「生活」と「生命」の関係概念について
第3回	生活を歴史的にとらえる考え方①　縄文文化と北方文化・アイヌ文化
第4回	生活を歴史的にとらえる考え方②　アイヌ民族の文化体験
第5回	生活を歴史的にとらえる考え方③　弥生文化と海洋文化・琉球文化
第6回	生活を歴史的にとらえる考え方④　日本の伝統的な文化　外国人が見た庶民の暮らし
第7回	生活科学を学ぶ①　近代以前の「こつ・かん」と近代以降の「わかち・伝え」
第8回	生活科学を学ぶ②　生活学　生活者としての概念
第9回	生活にねざす教育①　教育界における生活教育　ペスタロッチ　大正期の新教育運動
第10回	生活にねざす教育②　戦後の新教育運動と経験主義　デューイの教育理論への批判
第11回	生活にねざす教育③　民間教育運動の大きな流れと「生活教育50年史」
第12回	生活科をめぐって①　「生活科」構想の背景と誕生
第13回	生活科をめぐって②　生活科の現状と課題　「生活」をどうとらえどう伝えていくか
第14回	諸外国の生活科に相当する学習について
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加態度（3割）・授業内での発表（3割）・学期末試験（4割）に基づき、総合的に判断する。

【テキスト】
毎時、授業のテーマに即した資料を配布する。

【参考書・参考資料等】
『アイヌ民族：歴史と現在』（全員に貸与）

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 飼育栽培	担当教員名	山嵜　早苗
開設学期：2年前期	履修形態：　選択必修	授業形態：演習	単位数：2単位

【授業のねらい】
小さな動物の飼育や簡単な植物の栽培を実際に体験する中で、生命との関わり方を学ぶ。生き物への接し方や世話の仕方などを学び、小さな生き物からたくさんの学びができることを自分が体験し、意欲的に指導できるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。キャンパス内の有明農園で夏野菜を栽培したり、収穫した野菜を使った料理を行ったりする。ヤゴを育てる体験や水族園での水棲生物の観察などを行い、報告をまとめたりする。汚れてもよい服装にする。

【到達目標】
・栽培活動の実際を体験する中で、植物に関する知識を進んで調べようとする態度を身に付けることができる。
・小さな生き物とのふれあい体験を通して、生き物に進んでふれあおうとする意欲を持つことができる。

【授業時間外学習】
授業終了時に出されたレポートの課題を作成し、次時の始めに提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	飼育と栽培・採集活動の教育的な意義
第2回	季節と生き物①春　有明の植物調べ
第3回	春の自然料理　野草を使った料理
第4回	有明農園づくり　種まきと苗植え
第5回	生き物ランド① オタマジャクシやザリガニなどの飼育
第6回	生き物ランド② ヤゴがトンボになる瞬間
第7回	有明農園づくり　畑の観察や植物の世話
第8回	野菜料理の計画
第9回	有明農園で育てた野菜料理に挑戦！
第10回	学校飼育動物の現状と問題
第11回	生き物とのふれあい　葛西臨海水族園の見学
第12回	見学のまとめ
第13回	季節と生き物②夏　身近な自然発見の実践例『「のはらたんけんたい」の活動
第14回	飼育栽培活動をまとめた実践例『生き物を育てた喜びと悲しみを心に刻む』
第15回	まとめ

【評価方法・基準】
授業への参加態度（3割）・授業内での活動状況（3割）・学期末試験（4割）に基づき、総合的に判断する。

【テキスト】
『小学校学習指導要領解説　生活編』日本文教出版　2008

【参考書・参考資料等】
調理費300円（100円×3回)、水族園入場料570円（団体料金：受講者20名以上）が別途必要

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 社会	担当教員名	山本 直樹
開設学期：2年前期	履修形態： 小免・選択	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

小学校社会科の基本である「調べて考える」学習の方法を用いながら、小学校教諭として必要な社会科の基礎的・基本的学習内容について理解を深め、与えられた課題について、それを再構成し、分かりやすく論述できることを目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

地域社会、産業、国土、歴史、国際社会等に関する人文的・社会的問題の中からテーマを選び、その調査報告を行って学習を深め、教材研究に対しての姿勢を身につけていく。授業は講義形式であるが、適宜プレゼンテーションやディベート、グループワークなどの形態を取り入れていく。なお、交通費や入場料を自己負担する学外授業を行う場合がある。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的・基本的学習内容について説明することができる。
教材研究の成果について説明することができる。

【授業時間外学習】

毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 教科としての社会科とは何か
第2回	地域社会から考えるⅠ 課題の探求と調査
第3回	地域社会から考えるⅡ 課題の発表
第4回	産業から考えるⅠ 課題の探求と調査
第5回	産業から考えるⅡ 課題の発表
第6回	国土から考えるⅠ 課題の探求と調査
第7回	国土から考えるⅡ 課題の発表
第8回	歴史から考えるⅠ 課題の探求と調査
第9回	歴史から考えるⅡ 課題の発表
第10回	国際理解から考えるⅠ 課題の探求と調査
第11回	国際理解から考えるⅡ 課題の発表
第12回	政治・経済・倫理から考えるⅠ 課題の探求と調査
第13回	政治・経済・倫理から考えるⅡ 課題についてのディベート
第14回	これからの「社会科」とは 社会科の新動向
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（30%）・授業内の小テスト（30%）・学期末レポート（40%）

【テキスト】

特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

『小学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版社

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	専門教育科目 理　科	担当教員名	藤田　剛志
開設学期：2年後期	履修形態：　小免・選択	授業形態:講義	単位数：2単位

【授業のねらい】

小学校理科の授業を担当するにあたって必要な科学的知識や概念についての理解を深めることを目的とする。科学的知識や概念を理解することなしに，児童の興味・関心を高め，科学的なものの見方や考え方を育成するための授業を計画し，実践することは難しい。基礎的な科学概念を理解することが授業の主たるねらいである。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

学校理科で学習する内容をテーマごとに取り上げ，子どもたちの発達段階を踏まえながら，科学的知識や概念について学習する。科学的知識や概念がどのように形成されたかを学ぶことを通して，自然の事物・現象に対する不思議さや探究の楽しさに気づく機会としたい。授業は主として講義形式で進めるが，できる限り観察や実験も取り入れる。

【到達目標】

- 小学校理科で取り上げられている科学的知識や概念について，説明することができる。
- エネルギー，粒子，生命，地球の観点から，科学的知識や概念を構造化することができる。
- 科学的知識や概念を実社会・実生活における事物・現象と関連づけることができる。

【授業時間外学習】

指定したテキストを事前に読んでおくとともに，専門用語の意味をインターネット等で調べておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス・小学校理科の目標と内容 授業計画，関連法規，学習指導要領（理科），学習内容の概要について理解する。
第2回	植物の体とつくり 身近な植物の体とつくりについて，周辺の環境とのかかわりの観点から，理解する。
第3回	動物の体とつくり 身近な動物，特に昆虫の体とつくりについて理解するとともに，脊椎動物についての理解を深める。
第4回	人の体とつくり 人の体とつくりについて，呼吸，消化・吸収，血液循環などの観点から，理解する。
第5回	物質と温度 物質とは何か，金属，水，空気の温度変化による体積変化，熱伝導の仕方について理解する。
第6回	物質の三態変化と物質の溶解 水の三態変化について理解するとともに，物の溶け方について学習する。
第7回	燃焼の仕組み 燃焼に伴う物質の変化を通して，燃焼の仕組みについて理解する。
第8回	電気の性質 乾電池，豆電球，モーター，光電池などを通して，電気の性質について理解する。
第9回	磁石の性質と電流の働き 磁石・電磁石の基本的性質の学習を通して，電流の働きについて理解する。
第10回	力のつり合い てこの規則性，てこのつり合い，おもりによる変化など物体の力学的性質を理解する。
第11回	太陽・地球・月 太陽，地球，月の学習を通して，月の満ち欠けについての理解を深める。
第12回	気象変化 日，季節による天気の変化，気象情報の活用法についての理解を深める。
第13回	科学技術の発展と人の暮らし 電気の利用を中心に，発電と蓄電，電気の変換について理解する。
第14回	自然の保全と地球環境問題 地球規模での環境問題を考えることによって，自然保全の在り方を理解する。
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（2割）・授業内の小テスト・課題提出（3割）・学期末試験（5割）に基づき，総合的に評価

【テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』，大日本図書，2008.

【参考書・参考資料等】

授業内に，適宜，プリントや資料を配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 家庭	担当教員名	伊藤 野里子
開設学期：2年前期	履修形態： 小免・必修	授業形態：演習	単位：2単位

【授業のねらい】

小学校教諭の免許取得のための科目である。小学校家庭科の授業づくりに必要な「学習内容」について、その構成を把握し、学習項目の科学的、専門的な立場に拠りながら基礎的・基本的な知識・技能を得ることをめざす。現代の家庭生活をめぐる課題に着目し、学習内容に関連付けて考える力を身につけられるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である（調理、被服製作の基礎的な技能の実習を含む)。
小学校家庭科の学習内容の基礎・基本を把握できるよう解説し、専門的な知識を提供する。学習内容に関する技能の基礎について実習する。子どもの家庭生活をめぐる課題と学習内容との関連について検討する。

【到達目標】

小学校家庭科の指導内容の構成を理解する。
学習内容に関する各分野の基礎的な事項について理解し、説明できる。
子どもの家庭生活をめぐる課題を見出し、学習内容の題材や教材に関連付けて考えることができる。

【授業時期間外学習】

指定した資料を読んでくること。授業終了時に出すテーマについてレポートを作成すること。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス　小学校家庭科で何を学ぶか――家庭生活を総合的に捉える視点から 「家庭生活と家族」　家族・家庭生活の意義と子どものかかわり
第2回	「家庭生活と家族」　家庭の仕事と生活時間
第3回	「家庭生活と家族」　家族・家庭生活をとりまく問題と学習内容
第4回	「食生活」　食べることの意義と食物の機能
第5回	「食生活」　栄養素の働きと栄養的な食品摂取
第6回	「食生活」　食品の特性と調理の基礎的な知識・技能
第7回	「食生活」　食生活の現状から見出される課題と学習内容
第8回	「衣生活・住生活」　衣服の機能と快適な着用の仕方
第9回	「衣生活・住生活」　被服材料の性質と衣服の手入れ・管理
第10回	「衣生活・住生活」　布を用いた製作の基礎的な知識・技能
第11回	「衣生活・住生活」　住居の機能と快適な住まい方
第12回	「衣生活・住生活」　衣生活や住生活の現状から見出される課題と学習内容
第13回	「消費生活と環境」　消費社会の仕組みと物・サービスの購入
第14回	「消費生活と環境」　持続可能な消費と家庭生活 消費生活の現状から見出される課題と学習内容
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業の取組状況20%、レポート・製作物40%、定期試験40%に基づき、総合的に評価する。

【テキスト 】文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』東洋館出版社　2008　（90円＋税）
授業時の配布プリント

【参考書・参考資料等】

堀内かおる『家庭科教育を学ぶ人のために』世界思想社　2013　（2000円＋税）
池﨑喜美恵『教科指導法シリーズ　小学校指導法　家庭』玉川大学出版部　2013　（2000円＋税）

【連絡方法】授業時に伝えます。

科目名	専門教育科目 プレ実習	担当教員名	杵鞭広美・深澤瑞穂 橘 和代
開設学期：1年前期	履修形態： 必修	授業形態：実習	単位数：1単位

【授業のねらい】

教育実習・保育実習の事前指導の一環として「事前の学習と準備」、「保育への参加」、「事後の省察と課題のまとめ」を体験的に学習し、実習の心構えや態度、記録の取り方や課題のまとめ方を学ぶ。幼稚園・保育所の保育に参加し、乳幼児や保育者との関わりを通して保育の理解を深めることを目的とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

事前指導では実習に関する基本的学習として、「書類の書き方」、「心構え・マナー」、「乳幼児との関わり方」、「記録のとり方」などを学び、幼稚園・保育所において実際に保育に参加する。事後指導では、実習体験についてレポートを作成し、省察して教育実習・保育実習に向けた目標や課題をまとめる。

【到達目標】

・幼稚園や保育所の実習に必要な心構えや準備を理解し、実践することができる。
・幼稚園や保育所の１日の流れ、子どもの姿、保育者の職務について体験的に理解を深めることができる。
・実習記録の取り方と省察の基本を修得し、各自の課題を明確にすることができる。

【授業時間外学習】

実習体験園への電話連絡と事前訪問、提出書類の作成、細菌検査提出等の実習スケジュールの管理

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス 履修方法、ボランティア実施園の決め方、事前訪問、提出書類、細菌検査等について
第2回	事前指導１ プレ実習の目的、実施上の規則、心構え・マナー、個人プロフィールの書き方
第3回	事前指導２ 子育て支援活動への参加
第4回	事前指導３ 幼稚園・保育所の違い－それぞれの保育の流れ
第5回	事前指導４ 保育の教材について
第6回	保育所または幼稚園における観察学習① 一日の流れを知る
第7回	保育所または幼稚園における観察学習② 乳幼児の様子を捉える
第8回	保育所または幼稚園における観察学習③ 乳幼児と保育者の関わりを捉える
第9回	保育所または幼稚園における観察学習④ 集団保育に参加する
第10回	保育所または幼稚園における観察学習⑤ 保育者の職務内容を理解する
第11回	保育所または幼稚園における観察学習⑥ 保育の事前準備、室内の清掃について
第12回	保育所または幼稚園における観察学習⑦ 教材の作成について
第13回	保育所または幼稚園における観察学習⑧ 保育記録について
第14回	保育所または幼稚園における観察学習⑨ 総括
第15回	事後指導　　レポート作成、省察と実習に向けた課題のまとめ

【評価方法・基準】

授業内に作成するレポートと課題の提出状況（30%）、その内容(70%)に基づき評価する。

【テキスト】

特に定めない

【参考書・参考資料等】

授業の中で適宜、紹介する。

【連絡方法】　各自、掲示を確認のこと

科目名	専門教育科目 事前事後の指導（保育所・施設）Ⅰ	担当教員名	杵鞭広美・木庭みち子 橘　和代
開設学期：2年後期	履修形態：保育士・必修	授業形態：実習	単位数：2単位

【授業のねらい】

保育実習の目的と意義を理解し、以下の点について学ぶ。 ①保育所および施設の役割、職務内容の理解および実習生としての態度や心構え ②乳幼児の発達、利用者の状況に即した保育技術の習得 ③実習に係る書類、実習日誌の記入、記録の仕方、部分実習責任実習の指導計画作成

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

「授業のねらい」で示した内容について具体的に学べるよう、実践的な指導を行う。事後指導では実習体験についてレポート作成や発表を行い、省察による新たな学習目標や課題を設定する。

【到達目標】

①保育所、児童福祉施設、社会福祉施設における社会的役割と職務内容を理解する。②乳幼児の発達や利用者の状況に即した具体的な保育技術を知る。③実習日誌記入における具体的内容を理解する。④部分指導計画を考案・作成する。⑤実習前に設定した目標について実習後に省察し、新たな学習課題を明確にする。

【授業時期間外学習】

①個人調書の清書　　②実習先への連絡とオリエンテーション
③事前・事後の巡回指導担当教員とのミーティング　④細菌検査等の実習に係るスケジュール管理

回　数	授 業 内 容
第1回	保育実習Ⅰの目的 保育所実習・施設実習の目的、意義、内容を理解する
第2回	保育所実習での実習実践方法　1 3歳未満児の生活と保育
第3回	保育所実習での実習実践方法　2 3歳以上の幼児の生活と保育　　保育所訪問による課外学習　（交通費1000円程度）
第4回	保育所実習の日誌と研究目的　1 日誌の記述の仕方
第5回	保育所実習の日誌と研究目的　2 実習生の研究目的・着眼点
第6回	施設実習での実習実践方法　1 児童福祉施設の種類　子どもとの関わり方と援助方法
第7回	施設実習での実習実践方法　2 社会福祉施設の種類　利用者との関わり方と援助方法
第8回	施設実習の日誌と研究目的 日誌の記述の仕方・実習生の研究目的・着眼点
第9回	保育実習の指導案の理解と作成　1 保育所における部分指導案の作成方法
第10回	保育実習の指導案の理解と作成　2 施設における部分指導案の作成方法
第11回	保育実習の指導案の実践　1 保育所実習における指導案にもとづくロールプレイとディスカッション
第12回	保育実習の指導案の実践　2 施設実習における指導案にもとづくロールプレイとディスカッション
第13回	実習後の振り返り 実習後の成果と課題を省察して自己評価を行い、レポートを作成する。
第14回	実習成果の課題の発表　1 保育所実習における成果の発表とディスカッション
第15回	実習の成果と課題の発表　2 施設実習における成果の発表とディスカッション

【評価方法・基準】

課題レポートの提出状況、実習日誌、実習成果の発表内容を評価の対象とする。

【テキスト 】

平成28年度 実習ガイド．有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編），2016.
子どもに人気のふれあいあそび年齢別ベストテン．NPO法人東京都公立保育園研究会（編），2005．1296円
施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習．駒井・小林・松本著，萌文書林，2014．2160円

【参考書・参考資料等】授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 事前事後の指導（保育所）Ⅱ	担当教員名	木庭みち子 橘　　和代
開設学期：3年前期	履修形態：保育士・選択必修	授業形態：演習	単位数：1単位

【授業のねらい】

保育実習（保育所）Ⅱの目的や意義、これまで修得してきた実習や科目との関連性を踏まえながら、より良い保育実践力の習得と、保育士の職務を理解することを目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

上記の点について具体的に学べるよう、実践的な指導を行う。事後指導では実習体験についてレポート作成や発表の機会を設け、反省・評価とそれぞれの新たな学習目標や課題を明確にできるようにする。

【到達目標】

・乳児・幼児の個々の発達に対応し、子どもの状況に即した保育技術を習得する。
・実習日誌の意義と記入方法・記入内容を理解する。
・責任実習、部分実習の指導計画を作成する。
・保育所及び施設の役割、職務内容を理解する。

【授業時間外学習】

以上の内容を理解するために、関係文献から事前に自ら学習に取り組む。

回　数	授 業 内 容
第1回	保育実習のⅡの目的実施上の規則の確認
第2回	子どもの発達に応じた養護の方法とそのかかわり方
第3回	子どもの発達に応じた教育の内容
第4回	保育所実習の日誌　①　日誌の記述の仕方
第5回	保育所実習の日誌　②　保育のねらいとその視点
第6回	保育所実習の日誌　③　保育の視点とその考察のとらえ方
第7回	指導計画の作成　①　作成上の留意点
第8回	指導計画の作成　②　指導計画の立案
第9回	指導計画の実践　①　計画に基ずく模擬保育の実践とそのふり返り
第10回	指導計画の実践　②　計画に基ずく模擬保育の実践とそのふり返り
第11回	指導計画の実践　③　計画に基ずく模擬保育の実践とそのふり返り
第12回	自己評価、実習で得た成果と課題
第13回	実習日誌を振り返り、成果と課題を確認する。
第14回	実習の成果と課題の共有をグループワークで確認する。
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業態度、課題・書類提出期限の順守も評価の対象となる（30%）。課題（指導計画の作成等）（70%）

【テキスト】

有明教育芸術短期大学　実習委員会作成　「実習ガイド」

【参考書・参考資料等】

保育実習に関する、参考文献・資料を授業の中で適時紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 事前事後の指導（施設）Ⅲ	担当教員名	杵鞭広美 橘　和代
開設学期：3年前期	履修形態：保育士・選択必修	授業形態：演習	単位数：1単位

【授業のねらい】
児童厚生施設、社会福祉施設において、実習を行う意義と目的を理解する。
施設での実習に向けて具体的な目標を定め、保育士として必要な資質・能力の･技術を習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実習前は、施設での実習への心構えと目標を明確にし、実習記録・指導案の記述方法について学ぶ。
事後指導では、実習体験についてレポート作成と発表を行い、さらに高度な保育実践への目標と課題を明らかにするためのスーパービジョンを行う。

【到達目標】
①児童厚生施設、社会福祉施設における社会的役割と職務内容を理解する。②利用者の個別的ニーズを理解する。③保育士として必要な資質・能力の･技術を習得する。④実習での具体的な目標設定と実践を振り返り、自己省察する。⑤施設実習Ⅲを総括し、今後の課題を明確にする。

【授業時間外学習】①個人調書の清書　②実習先への連絡・オリエンテーション
③事前・事後の巡回指導担当教員とのミーティング　　④細菌検査等の実習に係るスケジュール管理

回　数	授 業 内 容
第1回	保育実習Ⅲの意義と目的の理解 施設での実習を行うことの意義と目的、実習に臨む態度と心構えを知る。
第2回	保育実習Ⅲの内容の理解 保育実習Ⅲにおける実習の流れと具体的な実習の内容を理解する。
第3回	施設の役割と保育者の責務、職業倫理の理解 各施設の設置目的と役割、保育者の職務内容を理解する。児童福祉と社会福祉の法規に基づき、利用者の人権とプライバシーの保護について理解を深める。
第4回	児童厚生施設における援助方法 児童厚生施設のデイリープログラムから，利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。
第5回	社会福祉施設における援助方法 社会福祉施設のデイリープログラムから，利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。
第6回	施設実習日誌の作成方法　1 実習目的と12日間の研究課題を定める。
第7回	施設実習日誌の作成方法　2 12日間における日誌の記入方法とそのポイントを理解する。
第8回	実習指導案の理解と作成方法　1 実習指導案作成の目的について学ぶ。
第9回	実習指導案の理解と作成方法　2 実習指導案作成における具体的な手続きを学ぶ。
第10回	実習指導案に基づく実践方法　1 作成した実習指導案に基づき、ロールプレイを試みる。
第11回	実習指導案に基づく実践方法　2 作成した実習指導案に基づくロールプレイをとおして、具体的な実践方法について考察する。
第12回	施設でのオリエンテーションを受け、実習への心構えと目標設定について、最終確認をする。
第13回	実習後の振り返り 実習後の成果と課題を省察して自己評価を行い、レポートを作成する。
第14回	実習成果の発表と課題の共有　1 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行う。
第15回	まとめ　実習成果の発表と課題の共有　2 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行い、今後の課題を明確にする。

【評価方法・基準】
課題レポートの提出状況、実習日誌、実習成果の発表内容を評価の対象とする。

【テキスト】平成28年度 実習ガイド．有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編），2016.
小野澤・田中・大塚（編著）保育の基礎を学ぶ 社会福祉施設実習．ミネルヴァ書房，2014.

【参考書・参考資料等】授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育実習（保育所）Ⅰ	担当教員名	木庭みち子 橘　　和代
開設学期：3年前期	履修形態：保育士・必修	授業形態：実習	単位数：2単位

【授業のねらい】

学習した理論、知識、技術を総合的に実践する応用力を養う。
保育所の保育実践に触れながら、保育観察の視点をもって子どもを理解、保育の仕事を理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

保育実習実施基準に定められた基準に従って、保育所において原則12日間（90時間）の体験学習を行う。実習日誌に毎日の記録を作成し、実習先保育所において指導を受ける。

【到達目標】

・定められた事項を守り、基本的な実習態度を身につける。
・保育所での基本的な生活の流れ、保育士の職務を観察し記録を取り理解する。
・乳幼児とのかかわりを持ちながら、この時期の子どもの発達特性を理解する。
・子どもの実態に沿ったねらいを持ち、保育の一部分の計画を作成し実践する。
・保育のねらい、子どもの体験（エピソード）をとらえた実習日誌を作成し、保育についての考察を深める。

【授業時間外学習】

保育実習についてのテキストを事前学習し保育実習がより充実するようにする。

実　習　内　容

≪観察実習（4日間）≫

・実習施設全体の環境を理解する。

・実習するクラスの保育室の環境や生活の流れを学び、保育士の仕事を理解する。

・乳児・幼児のあそびや生活を観察し、かかわりを通して、発達の特性を理解する。

≪参加実習≫

・積極的に保育士の職務の補助をし、保育の仕事を体験する。

・生活やあそびの中での乳児・幼児とのかかわりを深める。

・養護的配慮にかかわる支援や環境構成を理解し、実践する。

・保育士の専門性、職員間の連携の実際、職業倫理について理解する。

・保育士の姿をとして、保護者とのコミュニケーションの実践の仕方を学ぶ。

≪部分実習≫
・保育活動の一分野の指導計画を作成して実践する。

【評価方法・基準】

実習先保育所から受ける実習評価、実習日誌等から評価を行う。実習の概要や実施上の規則については、「実習ガイド」を参照すること。

【テキスト】

有明教育芸術短期大学　実習委員会作成「実習ガイド」

【参考書・参考資料等】

新　保育士養成講座第9巻　保育実習・「学び続ける保育者をめざす実習の本」

【連絡方法】

科目名	専門教育科目	保育実習（施設）Ⅰ	担当教員名	杵鞭広美 橘　和代
開設学期：3 年前期	履修形態：保育士・必修		授業形態：実習	単位数：2 単位

【授業のねらい】

1．児童福祉施設、社会福祉施設の機能と社会的役割を理解する。

2．実習施設での生活に参加しながら、利用者とのかかわり方、具体的な援助の方法を学び、実践力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

「保育実習実施基準」に定められた基準に従い、児童福祉施設等において 12 日間の実習を行う。

【到達目標】

児童福祉施設、社会福祉施設での実習をとおして、保育士の職務内容を理解する。

施設で生活する利用者の姿を知り、継続的に支援することの意義を理解する。

【授業時間外学習】

①個人調書の清書　　②実習先への連絡とオリエンテーション

③事前・事後の巡回指導担当教員とのミーティング　④細菌検査等の実習に係るスケジュール管理

実　習　内　容

1．実習初期：参加観察・補助実習　(3～4 日間)

利用者や職員との関わりをとおして、保育士の職務内容を理解する。

・1 日の生活に参加しながら、利用者の生活プログラムを理解する。

・他の施設職員の仕事の内容と職務体制を理解する。

・施設で生活している利用者のニーズを知り、関係づくりに努める。

2．実習中期：補助実習・部分担当　(6～7 日間)

利用者一人ひとりの発達や課題を理解して関わりを深める

・利用者の個別のニーズを理解し、利用者との関わりを部分的に担当する。

・施設職員の仕事を部分的に補助し、利用者の健康・安全への配慮などに努める。

・地域社会との連携について学び、実習施設の社会的役割を理解する。

3．実習後期：全体実習・総括　(1～2 日間)

保育士の専門性を理解し，施設の社会的役割や保育士の役割と位置づけについて総括する。

・これまでの実習体験をいかして、具体的な援助・養護技術を総括する。

・利用者への理解、利用者とのかかわり方の工夫など、保育士の役割について総括する。

・実習記録、指導案に基づき省察を行う。

・実習施設の社会的な役割と使命について総括する。

【評価方法・基準】

実習施設の評価と実習日誌の記述内容から、総合的に評価する。

【テキスト】

平成 28 年度　実習ガイド．有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編），2016.

小野澤・田中・大塚（編著）保育の基礎を学ぶ　社会福祉施設実習．ミネルヴァ書房，2014.

【参考書・参考資料等】

授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育実習(保育所) Ⅱ	担当教員名	木庭みち子 橘　　和代
開設学期：3年前期	履修形態： 保育士・選択必修	授業形態：実習	単位：2単位

【授業のねらい】

これまで修得してきた実習や科目との関連性を踏まえながら、(保育所) Ⅱの実習の目的や意義を理解し、保育実践力の習得と、保育士の職務を理解することを目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

上記の点について具体的に学べるように、実践的な指導を行うとともに、保育計画の作り方責任実習の指導案の作り方などについても課題について学び、グループワークの中で発表する。事後指導では実習体験についてレポート作成や発表の機会を設け、反省・評価に基図いてそれぞれの課題を明確にする。

【到達目標】

・乳児・幼児の個々の発達に対応し、子どもの状況に即した保育技能を習得する。
・責任実習と部分十種の指導計画を作成する。
・実習日誌の記入方法・記入内容を理解する。

【授業時期間外学習】

実習ガイドと教科書の予習とみなおしをする。課外授業として〈おもちゃ美術館〉見学し、体験的に学ぶ。

回　数	授 業 内 容
第1回	実習ガイドをとして保育実習Ⅱの目的、実施上の規則の確認
第2回	子どもの発達に応じた養護の方法とそのかかわり方（乳児クラス）
第3回	子どもの発達に応じた幼児教育の内容
第4回	指導計画の作成　①作成上の留意点
第5回	指導計画の作成　②指導計画の立案
第6回	指導計画立案の発表　①音楽に基づく立案の実践発表
第7回	指導計画立案の発表　②造形に基づく立案の実践発表
第8回	指導計画立案の発表　③集団遊びに基づく立案の実践発表
第9回	実習日誌の記述の仕方について
第10回	実習日誌に記述する保育のねらいについて
第11回	実習日誌の実習生の気づき・活動の記述について
第12回	実習で得た成果と課題・自己評価について
第13回	実習日誌を振り返り、成果と課題を確認する。
第14回	実習の成果と課題の共有をグループワークで確認する。
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

授業態度、課題提出・実習関係書類の提出期限の順守も評価の対象となる。(40%) 指導計画の作成(60%)

【テキスト 】

有明教育芸術短期大学　実習委員会作成「実習ガイド」

【参考書・参考資料等】

学びつづける保育者をめざす実習の本その他資料を授業の中で適時紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 保育実習（施設）Ⅲ	担当教員名	杵鞭広美 橘　和代
開設学期：3 年前期	履修形態：保育士・選択必修	授業形態：実習	単位数：2 単位

【授業のねらい】

１．児童厚生施設、社会福祉施設の機能と社会的役割を理解する。

２．実習施設での生活に参加しながら、利用者とのかかわり方、具体的な援助の方法を学び、実践力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

「保育実習実施基準」に定められた基準に従い、児童福祉施設等において 12 日間の実習を行う。

【到達目標】

児童福祉施設、社会福祉施設での実習をとおして、保育士の職務内容を理解する。

施設で生活する利用者の姿を知り、一時的、継続的に支援することの意義を理解する。

【授業時間外学習】　①個人調書の清書　②実習先への連絡とオリエンテーション

③事前・事後の巡回指導担当教員とのミーティング　④細菌検査等の実習に係るスケジュール管理

実　習　内　容

１．実習初期：参加観察・補助実習　(3～4 日間)

利用者や職員との関わりをとおして、保育士の職務内容を理解する。

・施設の 1 日の流れを知り、利用者が参加・実施しているプログラムを理解する。

・他の施設職員の仕事の内容と職務体制を理解する。

・利用者のニーズを知り、関係づくりに努める。

２．実習中期：補助実習・部分担当　(6～7 日間)

利用者のニーズを理解して関わりを深める。

・利用者の個別的ニーズを理解し、利用者との関わりを部分的に担当する。

・施設職員の仕事を部分的に補助し、利用者の健康・安全への配慮などに努める。

・地域社会との連携について学び、実習施設の社会的役割を理解する。

３．実習後期：全体実習・総括　(1～2 日間)

保育士の専門性を理解し，施設の社会的役割や保育士の役割と位置づけについて総括する。

・これまでの実習体験をいかして、具体的な援助・養護技術を総括する。

・利用者への理解、利用者とのかかわり方の工夫など、保育士の役割について総括する。

・実習記録、指導案に基づき省察を行う。

・実習施設の社会的な役割と使命について総括する。

【評価方法・基準】

実習施設の評価と実習日誌の記述内容から、総合的に評価する。

【テキスト】

平成 28 年度　実習ガイド．有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編），2016.

小野澤・田中・大塚（編著）保育の基礎を学ぶ　社会福祉施設実習．ミネルヴァ書房，2014.

【参考書・参考資料等】

授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目	事前事後の指導（幼稚園）	担当教員名	深澤 瑞穂 橘　和代
開設学期：2年通年	履修形態：幼免・必修		授業形態:実習	単位数：1単位

【授業のねらい】
本講義では、幼稚園における教育実習の目的や意義、教育実習に必要な知識、技術を学び、自分の課題を見つけ、自ら研究し関わっていく実習態度を身につけることを目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義形式である。実習に先立って、その心構えや実習の進め方、幼児理解および保育内容の理解、実習日誌の書き方、指導案の立案等について、現場の事例を通して事前指導を行う。さらに実習終了後、実習での学習成果や課題をまとめ、反省評価を促し、新たな学習目標をもつよう事後指導を行う。

【到達目標】
・社会人としての挨拶や礼儀また、幼稚園教諭としてのマナーや心構えを身に付ける。
・現場の事例を通して幼児理解や保育内容の理解をする。
・実習日誌の書き方、指導案の立て方を学び、評価反省することで、自分の課題解決の糸口を見出す。

【授業時間外学習】・名札作成・模擬保育の準備及び練習
・夏季休業中に一日実習の指導案を作成し、後期初めの第９回の授業の際、提出する。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス（幼稚園教育を理解する・実習の意義や目的・心構え）
第2回	保育の考え方の基本・幼児理解
第3回	観察参加実習の事前指導 実習日誌の書き方Ⅰ－観察の視点について－
第4回	観察参加実習の事前指導 実習日誌の書き方Ⅱ－着眼点に基づく事例分析－
第5回	観察参加実習の事前指導 実習書類および実習オリエンテーションについての指導
第6回	観察参加実習の事前指導 部分実習指導案の立案
第7回	観察参加実習の事前指導 模擬保育－部分実習の実践
第8回	観察参加実習の事後指導 教育実習の自己評価・相互評価
第9回	本実習の事前指導 着眼点に基づく幼児の行動分析
第10回	本実習の事前指導 責任実習指導案の立案Ⅰ－一日指導案の立案の仕方－
第11回	本実習の事前指導 責任実習指導案の立案Ⅱ－主活動の意義と指導法の理解－
第12回	本実習の事前指導 模擬保育Ⅰ－主活動の指導案の実践①　－（運動的な遊び）
第13回	本実習の事前指導 模擬保育Ⅱ－主活動の指導案の実践②　－（絵画製作的な遊び）
第14回	本実習の事前指導 模擬保育Ⅲ－主活動の指導案の実践③　－（身近な自然物を使った遊び）
第15回	まとめ　　本実習の事後指導　　教育実習の学習成果及び課題についてのディスカッション

【評価方法・基準】　授業への参加態度重視（遅延による遅刻は認めない・授業で規定した回数をクリアすること、欠席は３回まで)。授業で出された課題・実習日誌・一日実習指導案・授業ノートの提出状況・内容で評価を行う（未提出の場合、単位修得不可）

【テキスト】実習ガイド　幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説　　萌文書林
教育・保育課程論－書いて学べる指導計画－

【参考書・参考資料等】
光生館/小田豊監修　教育・保育実習と実習指導　ひかりのくに/指導と評価に生かす記録　チャイルド本社/大竹節子監修　０～５歳児の発達と保育と環境がわかる本　その他、適宜、授業で配布する。

【連絡方法】

科目名	専門教育科目	教育実習（幼稚園）	担当教員名	深澤 瑞穂 橘　和代
開設学期：2年前後期	履修形態：幼免・必修		授業形態：実習	単位数：4単位

【授業のねらい】

観察参加実習では、前半1週間を観察実習として、幼児の様子や保育者の援助、環境設定などを観察し、実習日誌に記録することを通し、幼稚園全般の様子や幼児の様子、保育の展開について理解することを目標とする。また、後半1週間を参加実習として、保育活動の一部を担当する部分実習指導案を立案し、幼児への関わり方を実践することを目標とする。本実習では、実習の総仕上げとして一日を担任として担当する責任実習を行う。幼児の発達や実態、園や担当教員の教育方針の理解したうえで責任実習指導案を立案し、一日担任として行動するための保育技術・技能を習得することを目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

課程認定基準に基づき、本学では幼稚園における2週間の実習を2単位としている。幼稚園教諭2種免許状取得希望者は、2年次6月に2週間行う観察参加実習2単位、2年次11月に2週間行う本実習2単位、事前事後指導1単位の5単位が必修となる。

【到達目標】

・観察参加実習を通して、幼稚園教育の一日の流れや保育の展開を知るとともに、実習日誌の書き方を学ぶ。
・本実習を通して、主体的に幼児理解及び教師の援助について把握し、環境の構成の仕方や一人一人の幼児に応じた関わり方や一斉指導のポイントなどの保育技術・技能を身に付ける。

【授業時間外学習】

・個人調書の清書　・実習先への連絡・オリエンテーション　・事前及び事後の担当指導教諭とのミーティング

実　習　内 容

【観察参加実習】
1．観察実習（1週間）
・幼稚園の一日の流れを知り、実習園の教育方針や幼稚園教員の仕事内容を理解する
・幼児の生活や遊びの観察を通し、３～５歳児の各年齢における発達理解や幼児理解をする
・幼稚園教員の保育の様子や幼児一人一人に応じた指導を観察し、幼児への関わり方や環境の構成の仕方及び保護者との関わり方を知る

2．参加実習（1週間）
・幼稚園教員の保育内容を補助しながら、幼児への関わり方や環境設定のあり方を学ぶ
［部分実習］
・手遊びや絵本の読み聞かせなどの部分実習指導案を立案・実践する

【本実習】
1．参加責任実習（2週間）
・幼児の発達の特性や環境・安全を踏まえながら、主体的に保育に参加し、保育技術や保育技能の経験を積む
・幼児一人一人に応じた指導のあり方を学ぶとともに、クラス全体の把握に努めながら保育に参加する

［部分実習］
・クラス全体の幼児を把握し、部分実習を通して活動への期待がもてるような導入、幼児が楽しめる活動の選択、展開、活動のまとめ方を学ぶ

［責任実習］
・一日の流れを把握し、担任としての言動を意識した上で、クラス運営を行う。主活動においては、クラス全体の幼児を把握し、活動への取り組みに意欲がもてるような導入、幼児の発達に適した活動の選択、展開、活動のまとめ方を学ぶ。

【評価方法・基準】

実習園による実習評価および実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する

【テキスト】

有明教育芸術短期大学　実習委員会作成　実習ガイド　／　幼稚園教育要領　　幼稚園教育要領解説書

【参考書・参考資料等】

小田豊監修　教育・保育実習と実習指導　光生館／相馬和子・中田カヨ子　編（2012）幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう　萌文書林　その他、適宜、授業で配布する

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 事前事後の指導(小学校)	担当教員名	有福　一昭
開設学期：3年通年	履修形態：小免・必修	授業形態：実習	単位：1単位

【授業のねらい】

・小学校教育実習の目的や内容を把握し、実習生の心得、具体的準備内容や方法を確かめる。
・新聞、教育関係機関や実習校HP等から教育現場の実際を読み取り、教育実習への課題付けに生かす。
・実習における活動内容やその反省事項、成果等をまとめ、大学での研究等に生かす。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

実習生としての心構えや教育現場の実際を、近隣の小学校の授業参観やVTR等を通して具体的に把握し、実習へ関心と意欲を高める。実習の進め方、日誌の書き方等を先輩の記録等を参考にしながら、必要な準備内容を確かめ、推し進める。実習終了後は、実習体験のレポートを作成し発表する等、課題を明確にして研究等に生かす。

【到達目標】

教育実習成績評価表や、自己評価表、教育実習日誌の記述された内容をもとに、獲得した知識や経験を「教職実践演習」の講義とも関連して教職と事故に対する認識を深め、教職希望者としての今後努力すべき資質能力形成のための計画を明確にする。

【授業時期間外学習】

新聞等の教育関連記事、行政機関のHPにおける教育関連情報等に目を通しておくこと。

回　数	授 業 内 容
第1回	小学校教育現場の把握　･･･　実習校HPから 教育実習生の一日　･･･　先輩の教育実習日誌から
第2回	近隣の小学校での授業参観準備 授業の実際と授業参観の方法
第3回	授業参観方法・授業記録について
第4回	近隣の小学校での授業参観
第5回	授業参観からわかる児童理解、指導技術、学級経営
第6回	教育実習校オリエンテーション準備と確認事項
第7回	授業の組み立て・学習指導案の作成
第8回	授業のねらい・指導資料の作成・授業評価
第9回	教育実習の整理と評価分析
第10回	評価項目(教師のあり方)の内容と理解
第11回	評価項目(コミュニケーション能力と対人関係)の内容と理解
第12回	評価項目(学習指導要領の理解と指導方法・指導技術)の内容と理解
第13回	評価事項(児童の学習状況の把握と授業改善)の内容と理解
第14回	評価項目(学級経営と集団の把握)の内容と理解
第15回	教育実習レポート作成

【評価方法・基準】

実習前に出席率が不十分な場合は、事前準備失格とみなし実習を中止する。
レポート提出及びレポート内容で評価する。

【テキスト 】

実習ガイド

【参考書・参考資料等】

「教育実習まるわかり」実習生・受入れ校必携マニュアル　：小学館
小学校学習指導要領解説

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 教育実習（小学校）	担当教員名	有福　一昭
開設学期：3 年前	履修形態：小免・必修	授業形態：実習	単位：2 単位

【授業のねらい】

・小学校教育の実際を教育現場で経験することによって、大学における教育についての理論的・技術的な学習成果の適用と検証を行い、その深化をはかる。

・教育に対する心構えや、児童に対する理解と愛情を深め、実践的な学習体験を通して教育現場への課題意識と解決への洞察力を得て今後の研究の方向を明確にする。

・教職と自己に対する認識を深め、教職希望者としての今後努力すべき資質能力形成のための計画を明確にする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

・教育実習の目標に向けて事前に設定した自己課題や、小学校教育現場における学級及び学校経営の視点からの児童への理解、学習指導、生活指導に関する多様な課題等に関して実践的に探求する。

・所属学級に関する観察・参加、活動補助等は、指導教員の許可及び指導のもと、積極的に行うこと。また、参観中は授業の妨げにならないよう留意しながら必ず授業記録をとること。参観後は授業担当教員に謝意を述べ、疑問点等があれば積極的に質問し指導を受けること。

【到達目標】

・実際の子どもたちと接しながら、教育上の処々の問題を肌で感じ取り、また、教育内容を計画した教育課程の実際に触れて、教員に求められる資質能力の有様をつかむことができる。

【授業時期間外学習】

各実習校における指導に従うこと。

	実 習 内 容
	各実習校の教育実習生指導要領等の内容に従って授業を行う。

【評価方法・基準】

実習先による実習評価及び実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する。

【テキスト 】

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

科目名	専門教育科目 ボランティア活動とキャリア教育	担当教員名	山本　直樹 菊地　大介
開設学期：3年前期	履修形態：選択	授業形態：実習	単位：1単位

【授業のねらい】

ボランティア活動を通して、ボランティア精神を身につけるとともに、将来のキャリアについて考えさせる機会を提供する。また、教育・保育現場で求められる実践的指導力の基礎を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

本科目は、教育・保育機関や団体等においてボランティア活動又はインターンシップに学生が自ら主体的に参加した体験を、単位として認定するものである。認定の手順は下記に記している。1、2年次におけるボランティア活動も、担当教員への事前相談の上、授業の受講、報告、実施証明書の提出を前提に認める場合がある。

【到達目標】

自分で計画を立て、進んで活動に取り組む。
ボランティア先で創意工夫をしながら、活動に従事する。
キャリア形成におけるボランティアの重要性を意識しながら、活動に従事する。

【授業時期間外学習】

毎回のボランティア活動後に実施報告書の活動内容に記入を行う。

回　数	授 業 内 容
第1回	ガイダンス1　キャリア形成におけるボランティア活動の意義と重要性
第2回	ガイダンス2　TPOに合わせたボランティアの先での対応、実施報告書の記入方法
第3回	授業時間外におけるボランティア活動（20時間以上） ＜単位認定までの手順＞ ガイダンスの受講→ ボランティア活動先を探す・決定する→ 担当教員に報告→ 活動の実践（実施証明を活動先からいただくことを含む） → 実施報告書の作成→ 実施報告書および実施証明書の提出→ 委員会等での最終確認→ 単位認定 ＜単位として認められるボランティアの条件＞ ・内容が保育や教育、福祉、子ども、表現活動等の本学の教育理念に適していること ・原則として無償ボランティアであること ・授業時間外であること ・延べ20時間以上の活動証明がされていること
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	体験報告会1（ボランティア体験から得たこと、保育者としての学びの意義）
第14回	体験報告会2（ボランティア体験から得たこと、保育者としての学びの意義）
第15回	まとめ

【評価方法・基準】

上記の単位認定の手順に従って単位を認定する。実施報告書および実施証明書（80%）・授業への参加態度（20%）

【テキスト 】

特に指定しない。

【参考書・参考資料等】

適宜紹介します。

【連絡方法】メール。授業で伝えます。

科目名	基礎教育科目 卒業研究	担当教員名	子ども教育学科 全教員
開設学期：3 年通年	履修形態：必修	授業形態：演習	単位数：2 単位

【授業のねらい】

学生は自分の興味・関心に基づいて研究テーマを決め、そのテーマに関連する研究領域の教員の指導を受けながら主体的に研究を進め、その成果をまとめる。その過程で、学生が専門職としての教育・保育に誇りをもつとともに、学問的得意分野に対する自信を得て、行動する保育者として成長していくことを期待する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

卒業研究の指導教員の選定は、学生の希望を参考にしながら、学科で調整して行う。随時個別的あるいは集団的に面接指導を行う。研究テーマに関する質問紙調査やインタビュー調査などの調査研究活動や、「総合表現」の授業における創作舞台発表活動などで得られた結果や考察を論文にまとめ、最終的に発表会にて発表する。

【到達目標】

・自らの興味・関心に基づき研究テーマを決め、計画を立て、主体的に課題に取り組むことができる。
・卒業論文等として研究成果を取りまとめ、発表することができる。
・卒業研究を通して、保育者として必要な専門的知識を深めることができる。

【授業時間外学習】

・先行研究や文献、質問紙等の調査に必要な資料を収集してよく読み、調査・研究を自主的に進めること。

段　階	授 業 内 容
第 1 段階（4～5 月）	指導教員との顔合わせ（指導教員は学科内で調整し伝達される）
	課題の相談
	仮題目提出
第 2 段階（6～7 月）	問題の整理、先行研究の調査、文献表（仮）の作成
	研究室内発表
	課題の再検討、研究計画の見直し
第 3 段階（8～9 月）	学科中間発表会
	研究調査
	題目の決定
第 4 段階（10～11 月）	題目の届け（学科長あて）
	再検討、研究調査
	研究室内発表
第 5 段階（12～2 月）	研究の仕上げ
	提出、研究成果発表会

【評価方法・基準】

評価は、学科の合議で行う。

【テキスト 】特に指定しない。各指導教員から必要に応じて提示される。

【参考書・参考資料等】

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』、講談社、2009
石井 一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』、ナツメ社、2011
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』、慶應義塾大学出版会、2002
戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』、日本放送出版協会、2002
松本茂・河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』、玉川大学出版部、2007

【連絡方法】

科目名	自由科目／ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格関連科目	レクリエーション（理論）	担当教員名	丸山　正
開設学期：3 年前期	履修形態：ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格・必修		授業形態:演習	単位数：2 単位

【授業のねらい】

公益財団法人日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得を目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

レクリエーション・インストラクター資格を取得するための理論の講習を実施する。

【到達目標】

レクリエーション・インストラクターに必要な知識を身につける。

【授業時間外学習】

授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	導入 レクリエーション・インストラクターとは
第 2 回	レクリエーションの意義（レクリエーションの基礎理論）
第 3 回	レクリエーションと東京オリンピック・パラリンピック
第 4 回	レクリエーション運動を支える制度（組織経営論）
第 5 回	レクリエーション・インストラクターの役割
第 6 回	レクリエーション支援論（指導論）
第 7 回	ライフスタイルとレクリエーション
第 8 回	高齢社会の課題とレクリエーション
第 9 回	幼児教育の課題とレクリエーション
第 10 回	社会参加活動（地域）とレクリエーション
第 11 回	レクリエーション事業とは（事業論）
第 12 回	事業計画Ⅰ
第 13 回	事業計画Ⅱ
第 14 回	レクリエーション活動の安全管理（安全確保の基礎・身体管理の基礎）
第 15 回	期末テスト（まとめ）

【評価方法・基準】

授業への参加態度（4 割）、期末テスト（3 割）、レポートの提出と内容（3 割）

【テキスト】

レクリエーション支援の基礎（日本レクリエーション協会編）

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

科目名	自由科目／ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格関連科目	レクリエーション（実技）	担当教員名	丸山　正
開設学期：3 年前期	履修形態：ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格・必修		授業形態:演習	単位数：1 単位

【授業のねらい】

公益財団法人日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得を目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

レクリエーション・インストラクター資格を取得するための実技の講習を実施する。

【到達目標】

レクリエーション・インストラクターに必要な知識・技能を身につける。

【授業時間外学習】

資格取得の必修である学外での現場実習を実施し、レポートにまとめる。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	コミュニケーション・ワークⅠ（ホスピタリティとは）
第 2 回	コミュニケーション・ワークⅡ（ホスピタリティの示し方とは）
第 3 回	コミュニケーション・ワークⅢ（アイスブレーキングとは）
第 4 回	コミュニケーション・ワークⅣ（アイスブレーキングの方法）
第 5 回	目的にあわせたレクリエーション・ワークとは
第 6 回	素材・アクティビティの選択
第 7 回	素材・アクティビティの提供
第 8 回	対象者の間の相互作用の活用方法
第 9 回	指導実習 1-1（コミュニケーション・ゲーム）
第 10 回	指導実習 1-2（コミュニケーション・ゲーム
第 11 回	対象にあわせたレクリエーション・ワークとは
第 12 回	対象にあわせたアレンジ方法の応用
第 13 回	ゲーム・ソング・ダンスの良さを活かすレクリエーション・ワークの応用Ⅰ
第 14 回	ゲーム・ソング・ダンスの良さを活かすレクリエーション・ワークの応用Ⅱ
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（4 割）　指導実習（4 割）　現場実習（2 割）

現場実習は、①東京みんなのスポーツ塾　②東京レクリエーション研究大会等から選択

【テキスト】

レクリエーション支援の基礎（日本レクリエーション協会編）

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

科目名	自由科目／ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格関連科目	レクリエーション（実技）	担当教員名	丸山　正
開設学期：3 年後期	履修形態：ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格・必修		授業形態:演習	単位数：1 単位

【授業のねらい】

公益財団法人日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得を目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

レクリエーション・インストラクター資格を取得するための実技の講習を実施する。

【到達目標】

レクリエーション・インストラクターに必要な知識・技能を身につける。

【授業時間外学習】

資格取得の必修である学外での現場実習を実施し、レポートにまとめる。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	指導実習 2-1　レクリエーション・ダンスの体験と指導法
第 2 回	指導実習 2-2　レクリエーション・ダンスの体験と指導法
第 3 回	演習 1-1　ラダーゲッター、にちれくボール（室内ペタンク）
第 4 回	演習 1-2　インディアカ
第 5 回	演習 1-3　インディアカ
第 6 回	演習 1-4　表現法（レクリエーション演劇）
第 7 回	演習 1-5　表現法（レクリエーション演劇）
第 8 回	演習 1-6　コミュニケーション・ゲーム
第 9 回	演習 1-7　コミュニケーション・ゲーム
第 10 回	演習 2-1　コミュニケーション・ゲーム
第 11 回	演習 2-2　マジック・ゲームの体験と指導法
第 12 回	演習 2-3　ロールプレイングによる総合活動（子ども）
第 13 回	演習 2-4　総合演習(1)　（幼児・児童）
第 14 回	演習 2-5　総合演習(2)　（高齢者・障がい者）
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】

授業への参加態度（4 割）　指導実習（4 割）　現場実習（2 割）

現場実習は、①東京みんなのスポーツ塾　②東京レクリエーション研究大会等から選択

【テキスト】

レクリエーション支援の基礎（日本レクリエーション協会編）

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

科目名	自由科目／ ﾍﾞﾋﾞｰｼｯﾀｰ資格関連科目	在宅保育論	担当教員名	諸井　杵鞭　木庭 日暮　岩本
開設学期：3 年後期	履修形態：選択		授業形態：講義	単位：2 単位

【授業のねらい】
在宅保育（家庭訪問保育）者の社会的役割について学び、在宅保育者としての知識と技術を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
主に講義形式で行う。「在宅保育」の概念や歴史を紹介し、在宅保育者の社会的役割について考えさせる。在宅保育における保育技術などを学びながら、多様な保育ニーズに対応してきた在宅保育サービスの特徴と現状についての理解を深めていく。なお、授業は教科書の内容に沿って行うため、受講者は毎回教科書を持参すること。

【到達目標】
「在宅保育」の概念や歴史、在宅保育者の社会的役割を理解できる。
子どもとの接し方、家庭とのコミュニケーションなど、在宅保育サービスにおける具体的方法を理解できる。

【授業時期間外学習】
各自シラバスを参照し、次回の授業内容に該当する教科書の内容を事前に読んでおくこと。

回　数	授 業 内 容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	家庭での子育て支援
第 3 回	在宅保育における保育マインド
第 4 回	家族とのコミュニケーション・カウンセリングマインド
第 5 回	児童家庭福祉における在宅保育の役割
第 6 回	在宅保育者の基本姿勢
第 7 回	在宅保育者の仕事の実際
第 8 回	在宅保育サービスの特徴と現状
第 9 回	在宅での事故の予防と対応
第 10 回	在宅保育における子どもの健康支援
第 11 回	さまざまな在宅保育　その１ 産後、送迎・同行保育、 多胎児（双生児）保育
第 12 回	さまざまな在宅保育　その２ 病後児保育、障害児保育、外国の子どもの保育、グループ保育、学童保育
第 13 回	在宅保育における保育技術　その１ 年齢別の特徴に応じたかかわりとあそび
第 14 回	在宅保育における保育技術　その２ 生活の援助
第 15 回	まとめ

【評価方法・基準】
学期末に実施する試験の成績（100 %）をもって評価する。

【テキスト 】巷野悟郎 監修、公益社団法人 全国ベビーシッター協会 編
『在宅保育論　家庭訪問保育の理論と実際』第２版.　中央法規出版、2013 年.¥2,800（税別）

【参考書・参考資料等】
担当教員より適宜紹介する。

【連絡方法】授業内での指示および掲示を確認する。

成績評価コメント
〈基礎教育科目〉

科目名	担当教員名		成績コメント
憲法	小林　康一	S	到達目標を十分に達成し、かつ十分な応用力を示した。
		A	到達目標を十分に達成し、基本的知識を十分に身につけている。
		B	到達目標を達成し、さらに基本的知識を充実すべきである。
		C	到達目標を最低限達成しているが、基本的知識に不十分なところあり。
		F	到達目標に達していない、さらに努力する必要あり。
教育人間学	日暮　トモ子	S	人間にとっての教育の意味や教育の必要性を適切に理解している。人間の発達や成長の過程におけるつまずきや逸脱の意味を適切に理解し、その意味について論理的に説明できる。
		A	人間にとっての教育の意味や教育の必要性を理解している。人間の発達や成長の過程におけるつまずきや逸脱の意味を理解し、その意味を説明することができる。
		B	人間にとっての教育の意味や教育の必要性を理解している。人間の発達や成長の過程におけるつまずきや逸脱の意味を理解している。
		C	人間にとっての教育の意味や教育の必要性に対する理解が最低限の水準を満たしている。
		F	人間にとっての教育の意味や教育の必要性に対する理解が最低限の水準を満たしていない。
児童文学	三澤　裕見子	S	積極的な受講態度と児童文学に対する知識と理解を十分に深めた。
		A	積極的な受講態度と児童文学に対する知識と理解を深めた。
		B	児童文学に対する知識を身につける努力をした。
		C	児童文学に対する知識を身につける努力がもう少し必要だった。
		F	児童文学に対する知識を身につける努力が不十分であった。
地域社会概論	山本　直樹	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	フィールドワークにおける調査研究の基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	フィールドワークにおける調査研究の基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	フィールドワークにおける調査研究の基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	フィールドワークにおける調査研究の知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
芸術文化論	杵鞭　広美 有福　一昭	S	授業で取り上げた内容について、主体的に学び十分成果を上げた。
		A	授業で取り上げた内容について、主体的に学び成果を上げた。
		B	授業で取り上げた内容について、主体的に学び努力をした。
		C	授業で取り上げた内容について学んだが、もっと努力が必要であった。
		F	授業で取り上げた内容について、学ぶ努力が不十分であった。
英語Ⅰ	出口　友香理	S	主体的に授業に参加し、到達目標を十分に達成し、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を十分に身に付け実践することができた。
		A	主体的に授業に参加し、到達目標を十分に達成し、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を十分に身に付けた。
		B	主体的に授業に参加し、到達目標を十分に達成し、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を十分に身に付けた。
		C	到達目標に最低限度到達したが、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を身に付けるにはもう少し努力が必要である。
		F	到達目標に達しておらず、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を身に付けることができなかった。
英語Ⅱ	出口　友香理	S	主体的に授業に参加し、到達目標を十分に達成し、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を十分に身に付け実践することができた。
		A	主体的に授業に参加し、到達目標を十分に達成し、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を十分に身に付けた。
		B	主体的に授業に参加し、到達目標を十分に達成し、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を十分に身に付けた。
		C	到達目標を最低限度到達したが、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を身に付けるにはもう少し努力が必要である。
		F	到達目標に達しておらず、コミュニケーションツールとして使える基礎的な英語力を身に付けることができなかった。

科目名	担当教員名		成績コメント
運動と健康Ⅰ	菊地　大介	S	主体的に授業し参加し、周囲に良い影響を与える活動をしていた。
		A	主体的に授業に参加し、学習内容を理解し深めることができている。
		B	授業に積極的に参加し、基本的な内容を理解し活用している。
		C	授業への参加はできたが、活動への積極的な姿勢に努力を要する。
		F	授業への参加が不十分で、学習内容と活動目的の理解が不足している。
運動と健康Ⅱ	菊地　大介	S	主体的に授業し参加し、周囲に良い影響を与える活動していた。
		A	主体的に授業に参加し、学習内容を理解し深めることができている。
		B	授業に積極的に参加し、基本的な内容を理解し活用している。
		C	授業への参加はできたが、活動への積極的な姿勢に努力を要する。
		F	授業への参加が不十分で、学習内容と活動目的の理解が不足している。
学習と表現の技法 1～3年共通	子ども教育学科教員	S	学習課題について、主体的に学び十分成果を上げた。
		A	学習課題について、主体的に学び成果を上げた。
		B	学習課題について、主体的に学び努力をした。
		C	学習課題について学んだが、さらに努力が必要だった。
		F	学習課題について、学ぶ努力が不十分だった。

〈専門教育科目〉

科目名	担当教員名		成績コメント
子ども理解の方法	赤坂　澄香	S	子ども理解の方法を学び、子どもの成長に携わる者の持つべき実践的態度を身につけるという到達目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめている。
		A	子ども理解の方法を学び、子どもの成長に携わる者の持つべき実践的態度を身につけるという到達目標を十分に達成している。
		B	子ども理解の方法を学び、子どもの成長に携わる者の持つべき実践的態度を身につけるという到達目標を達成している。
		C	子ども理解の方法を学び、子どもの成長に携わる者の持つべき実践的態度を身につけるという到達目標を最低限度達成している。
		F	子ども理解の方法を学び、子どもの成長に携わる者の持つべき実践的態度を身につけるという到達目標を達成していない。
保育の心理学Ⅰ	赤坂　澄香	S	基礎的な発達理論や生涯発達の様相を理解するという到達目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめている。
		A	基礎的な発達理論や生涯発達の様相を理解するという到達目標を十分に達成している。
		B	基礎的な発達理論や生涯発達の様相を理解するという到達目標を達成している。
		C	基礎的な発達理論や生涯発達の様相を理解するという到達目標を最低限度達成している。
		F	基礎的な発達理論や生涯発達の様相を理解するという到達目標を達成していない。
保育の心理学Ⅱ	赤坂　澄香	S	さまざまな発達理解の方法を理解し、保育・子育て支援の実践的なスキルを身につけるという到達目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめている。
		A	さまざまな発達理解の方法を理解し、保育・子育て支援の実践的なスキルを身につけるという到達目標を十分に達成している。
		B	さまざまな発達理解の方法を理解し、保育・子育て支援の実践的なスキルを身につけるという到達目標を達成している。
		C	さまざまな発達理解の方法を理解し、保育・子育て支援の実践的なスキルを身につけるという到達目標を最低限度達成している。
		F	さまざまな発達理解の方法を理解し、保育・子育て支援の実践的なスキルを身につけるという到達目標を達成していない。

科目名	担当教員名		成績コメント
子どもの保健Ⅰ前期	岩本　圭子	S	子どもの健康増進を図るための保健活動の意義と子どもの心身の発達、発育及び疾病に関して十分な知識があり、極めて優秀な成果をおさめている。
		A	子どもの健康増進を図るための保健活動の意義と子どもの心身の発達、発育及び疾病に関して十分な知識がある。
		B	子どもの健康増進を図るための保健活動の意義と子どもの心身の発達、発育及び疾病に関する知識がある。
		C	子どもの健康増進を図るための保健活動の意義と子どもの心身の発達、発育及び疾病に関する最低限の知識がある。
		F	子どもの健康増進を図るための保健活動の意義と子どもの心身の発達、発育及び疾病に関する知識が身についていないので、再履修が必要である
子どもの保健Ⅰ後期	岩本　圭子	S	子どもの健康に関する個別対応と集団全体の対応及び安全・衛生管理と地域保健活動について十分な知識があり、極めて優秀な成果をおさめている。
		A	子どもの健康に関する個別対応と集団全体の対応及び安全・衛生管理と地域保健活動について十分な知識がある。
		B	子どもの健康に関する個別対応と集団全体の対応及び安全・衛生管理と地域保健活動について、知識がある。
		C	子どもの健康に関する個別対応と集団全体の対応及び安全・衛生管理と地域保健活動について、最低限の知識がある。
		F	子どもの健康に関する個別対応と集団全体の対応及び安全・衛生管理と地域保健活動について知識が身についていないので、再履修が必要である
子どもの食と栄養	奥島　美智子	S	積極的に授業に参加し、習得すべき学習内容を十分理解し、実践に活用できる。
		A	積極的に授業に参加し、習得すべき学習内容を十分理解し、実践に活用できる能力がある。
		B	保育者になるために習得すべき学習内容を理十分解できている。
		C	保育者になるために習得すべき学習内容に到達している。
		F	授業への参加が不十分で、習得すべき学習内容に到達していない。
子どもの生活習慣	赤坂　澄香	S	子どもの生活習慣について、どのような援助や環境が必要であるかを理解するという到達目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめている。
		A	子どもの生活習慣について、どのような援助や環境が必要であるかを理解するという到達目標を十分に達成している。
		B	子どもの生活習慣について、どのような援助や環境が必要であるかを理解するという到達目標を達成している。
		C	子どもの生活習慣について、どのような援助や環境が必要であるかを理解するという到達目標を最低限度達成している。
		F	子どもの生活習慣について、どのような援助や環境が必要であるかを理解するという到達目標を達成していない。
人権と子ども	日暮　トモ子	S	人権の歴史、差別の問題について十分に理解している。さらに、子どもの権利が侵害されている状況を論理的に説明し、それへの対応について考察することができる。
		A	人権の歴史、差別の問題について十分に理解している。さらに、子どもの権利が侵害されている状況を論理的に説明することができる。
		B	人権の歴史、差別の問題について理解している。さらに、子どもの権利が侵害されている状況について一応の説明ができる。
		C	人権の歴史、差別の問題についての理解が最低限の水準を満たしている。
		F	人権の歴史、差別の問題についての理解が最低限の水準を満たしていない。
発達と障害	杵鞭　広美	S	積極的に質問や発言をするなど、毎回の課題に意欲的に取り組み、他の学生の模範となるべく学習成果を示した。
		A	授業内課題および授業外課題ともに意欲的に取り組み、本科目の到達目標に相応する学習成果を示した。
		B	授業中の受講態度と課題への取り組みはおおむね良好で、本科目の到達目標に向けて努力した様子が示された。
		C	本科目を受講する基本的態度が示され、習得すべき最低限の内容は理解できていた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
教職入門	山本　直樹	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	保育者・教育者になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	保育者・教育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	保育者・教育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	保育者・教育者になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。

科目名	担当教員名		成績コメント
保育実践演習	木庭　みち子	S	授業に積極的に取り組み、協力してグループワークに取り組む姿勢がある、また課題に取り組むことや、提出資料においても期限を守ることができる。
		A	授業に良く取り組み、協力してグループワークに取り組もうとする、また課題にとり組むことや、提出資料においても期限を守ろうとする。
		B	授業に取り組む姿勢がみられ、協力してグループワークに取り組むことにやや消極的である、また課題に取り組むことや、提出資料においても期限を守ることができないことがある。
		C	授業に取り組む姿勢が消極的で、協力してグループワークに取り組む姿勢も消極的である、また課題や資料提出についても消極的である。
		F	授業のねらいや目的を理解することが難しく、授業に対して消極的である。
教職実践演習（幼・小）	有福　一昭 山本　直樹 橘　　和代	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	教育者になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	教育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	教育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	教育者になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
教育の理念と歴史	日暮　トモ子	S	日本の教育システムを成り立たせている基本的論理と歴史を適切に理解している。教育の役割、機能、教育課程の理論、教育法体系について適切に理解し、今日の教育上の問題について論理的に考え、指摘することができる。
		A	日本の教育システムを成り立たせている基本的論理と歴史を適切に理解している。教育の役割、機能、教育課程の理論、教育法体系を理解し、その内容を論理的に説明することができる。
		B	日本の教育システムを成り立たせている基本的論理と歴史を理解している。教育の役割、機能、教育課程の理論、教育法体系を基本的に理解し、その内容について一応の説明をすることができ
		C	日本の教育の歴史的変遷、教育課程の理論及び教育法体系に対する理解が最低限の水準を満たしている。
		F	日本の教育の歴史的変遷、教育課程の理論及び教育法体系に対する理解が最低限の水準を満たしていない。
教育の心理	高橋　由利子	S	積極的な受講により、基礎知識の理解が到達目標に達し、他の学生の手本となった。
		A	積極的な受講により、基礎知識の理解が到達目標に達した。
		B	主体的な受講と基礎知識を理解する努力が認められた。
		C	主体的な受講と基礎知識を理解する努力を要する。
		F	授業への取り組みが不十分であった。
教育の組織と運営	日暮　トモ子	S	日本の教育行政、教育法規のしくみについて十分に理解している。その上で、日本の学校制度が抱える課題を適切に指摘し、それへの対応について論理的に考察することができる。
		A	日本の教育行政、教育法規のしくみについて十分に理解している。日本の学校制度が抱える課題を適切に指摘することができる。
		B	日本の教育行政、教育法規のしくみについて基本的に理解し、日本の学校制度がもつ課題について一応の説明ができる。
		C	日本の教育行政、教育法規のしくみに対する理解が最低限の水準を満たしている。
		F	日本の教育行政、教育法規のしくみに対する理解が最低限の水準を満たしていない。
保育原理Ⅰ （理念）	日暮　トモ子	S	保育に関する基本的な原理や実践の基礎を適切に理解している。また、保育の仕事及びその重要性を理解し、今日の保育現場の課題への対応を考察し、保育者としての将来像を明確に描くこ
		A	保育に関する基本的な原理や実践の基礎を適切に理解している。また、保育の仕事及びその重要性について理解し、今日の保育現場における課題を指摘することができる。
		B	保育に関する基本的な原理や実践の基礎を理解している。また、保育の仕事及びその重要性について一応の説明ができる。
		C	保育に関する基本的な原理や実践の基礎に対する理解が最低限の水準を満たしている。
		F	保育に関する基本的な原理や実践の基礎に対する理解が最低限の水準を満たしていない。
保育原理Ⅱ （課程と方法）	諸井　泰子	S	授業や課題に積極的に取り組み、保育者に必要な基本的知識を十分に理解できた。
		A	授業や課題に積極的に取り組み、保育者に必要な基本的知識を概ね理解していた。
		B	授業や課題に積極的に取り組み、保育者に必要な基本的知識の理解に努めた。
		C	授業や課題への取り組み、授業内容を理解するための努力が必要である。
		F	授業や課題への取り組み、授業内容の理解が不十分であった。

科目名	担当教員名		成績コメント
社会福祉	岡村　英雄	S	社会福祉の制度や現状に関する基本的知識と姿勢を身につけており、実践できるようこのままの取り組みを続けられたい。
		A	社会福祉の制度や現状に関する基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	社会福祉の制度や現状に関する基本的知識と姿勢を身につける努力を継続していくよう望まれる。
		C	社会福祉の制度や現状に関する基礎的知識と姿勢を身につけるための一層の努力を要する。
		F	授業への参加が不十分で、知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
子どもと家庭の福祉	宮脇　文恵	S	授業の内容に対する深い理解と、積極的な授業参加態度がすばらしい。
		A	授業にまじめに参加し、さらに学習の到達度が高い点が評価できる。
		B	おおむね理解できているが、まだ努力が必要である。積極的な授業参加が望まれる。
		C	子どもと養育者を支える保育士として、このままでは任せられない。より一層の努力を要する。
		F	授業への参加が不十分で、残念。子どもと養育者を支える保育士としての、一層の努力を望む。
社会的養護	佐藤　東	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	保育者になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	保育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	保育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	保育者になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
子どもの保健Ⅱ	岩本　圭子	S	子どもの健康増進を図るための保健活動の必要性を理解し、その場に応じた判断のもと、基本的な援助技術を正しく習得し、極めて優れて実施できている。
		A	子どもの健康増進を図るための保健活動の必要性を理解し、基本的な援助技術を正しく習得し、実施できている。
		B	子どもの健康増進を図るための保健活動の必要性を理解し、基本的な援助技術を習得している。
		C	子どもの健康増進を図るための保健活動の必要性についての知識を学び、最低限の基本的な援助技術を習得している。
		F	子どもの健康増進を図るための保健活動への理解が不十分で、最低限の基本的な援助技術を習得していないので、再履修が必要である。
家庭支援論	木庭　みちこ	S	授業に取り組む姿勢が積極的で、講義の内容や目的を十分に理解し、課題に対しても適確に理解している。
		A	授業に取り組む姿勢が良く、講義の内容や目的を良く理解し、課題に対してもよく取り組んでいる。
		B	授業をよく聞き、その内容や目的を理解し、課題に対しても取り組んでいる。
		C	授業に取り組む姿勢がやや消極的であり、その内容や目的に対してもやや理解ができていない。
		F	授業に取り組む姿勢が消極的であり、その内容や目的も理解していないことが多い。
相談援助	井岡　由美子	S	基礎的知識を生かし，実践につながる意欲的な授業への取り組みが見られた。
		A	基礎的知識を生かし，積極的に授業に取り組む姿勢が見られた。
		B	基礎的知識を学習しようとする意欲と，授業へ取り組む積極性が必要である。
		C	基礎的知識を再確認することと，授業へ参加する努力が必要である。
		F	基本的な知識の習得と，授業への参加や取り組みが不十分であった。
乳児保育	岩本　圭子 木庭みち子	S	3才未満児の子どもの姿を理解し、乳児保育を担当する保育者として必要な知識・技能を十分に身につけ、極めて優秀な成果をおさめている。
		A	3才未満児の子どもの姿を理解し、乳児保育を担当する保育者として必要な知識・技能を十分に身につけている。
		B	3才未満児の子どもの姿を理解し、乳児保育を担当する保育者として必要な知識・技能を身につけている。
		C	3才未満児の子どもの姿について学び、乳児保育を担当する保育者として必要な最低限の知識・技能を身につけている。
		F	3才未満児の子どもの姿への理解が不十分で、乳児保育を担当する保育者として必要な知識・技能が身についていないので、再履修が必要である。

科目名	担当教員名		成績コメント
障害児保育	杵鞭　広美	S	積極的に質問や発言をするなど、毎回の課題に意欲的に取り組み、他の学生の模範となるべく学習成果を示した。
		A	授業内課題および授業外課題ともに意欲的に取り組み、本科目の到達目標に相応する学習成果を示した。
		B	授業中の受講態度と課題への取り組みはおおむね良好で、本科目の到達目標に向けて努力した様子が示された。
		C	本科目を受講する基本的態度が示され、習得すべき最低限の内容は理解できていた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
社会的養護内容	佐藤　東	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	保育者になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	保育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	保育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	保育者になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
教育方法Ⅰ （情報機器の操作）	滝沢　清	S	情報処理の基本的知識が十分身に付き、かつ受講態度が積極的である。
		A	情報処理の基本的知識と姿勢が到達目標に達している。
		B	情報処理の基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	情報処理の基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	情報処理の知識習得や学習への取り組みが不十分である。
教育方法Ⅱ （理論と実践）	山本　直樹	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	教育方法学の基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	教育方法学の基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	教育方法学の基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	教育方法学の知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
保育教材研究A （うたと手遊び）	木庭　みち子 松田　扶美子	S	授業に取り組む姿勢が積極的で、、課題や提出物に対してもルールを守りよく取り組んでいる。
		A	授業に取り組む姿勢が良く、課題や提出物に対しても良く取り組んでいる。
		B	授業に取り組む姿勢がやや消極的であり、課題や提出物も決められた期限ですることが、やや遅れることがある。
		C	授業に取り組む姿勢が消極的であり、課題や提出物もほとんど遅れることがみ受けられる。
		F	授業を休みがちであり、課題や提出物の提出期限も守らずださないこともある。
保育教材研究B （語りと人形）	三澤　裕見子 深澤　瑞穂	S	積極的な受講態度と「語りと人形」に対する知識と実践力を十分に深めることができた。
		A	積極的な受講態度と「語りと人形」に対する知識と実践力を深めることができた。
		B	「語りと人形」に対する知識と実践力を身につける努力をした。
		C	「語りと人形」に対する知識と実践力を身につける努力がもう少し必要だった。
		F	「語りと人形」に対する知識と実践力を身につける努力が不十分であった。
保育内容総論	木庭　みち子 橘　和代	S	授業に取り組む姿勢が積極的で、講義の内容や目的を十分に理解し、課題に対しても適確に理解している
		A	授業に取り組む姿勢が良く、講義の内容や目的を良く理解し、課題に対してもよく取り組んでいる
		B	授業をよく聞き、その内容や目的を理解し、課題に対しても取り組んでいる
		C	授業に取り組む姿勢がやや消極的であり、その内容や目的に対してもやや理解ができていない
		F	授業に取り組む姿勢が消極的であり、その内容や目的に対しても理解していないことが多い

科目名	担当教員名		成績コメント
保育内容 （言葉）	三澤　裕見子	S	積極的な受講態度と言葉に対する知識と理解を十分に深めた。
		A	積極的な受講態度と言葉に対する知識と理解を深めた。
		B	言葉に対する知識を身につける努力をした。
		C	言葉に対する知識を身につける努力がもう少し必要だった。
		F	言葉に対する知識を身につける努力が不十分であった。
保育内容 （環境）	深澤　瑞穂	S	積極的な受講により、保育者になるための多様な演習についての理解と取り組みの姿勢は他の学生の模範となった。
		A	積極的な受講により、保育者になるための多様な演習についての理解と姿勢が概ね習得できた。
		B	保育者になるための多様な演習についての理解と姿勢を身に付ける努力ができた。
		C	保育者になるための多様な演習についての理解と姿勢を身に付ける努力をする必要がある。
		F	授業への参加が不十分であり、求められる演習の積み重ねができなかった。
保育内容 （人間関係）	赤坂　澄香	S	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得するという到達目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめている。
		A	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得するという到達目標を十分に達成している。
		B	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得するという到達目標を達成している。
		C	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得するという到達目標を最低限度達成している。
		F	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得するという到達目標を達成していない。
保育内容 （健康）	鈴木　琴子	S	積極的に授業に参加し、授業内容をしっかりと理解し、十分に自分自身の知識としている。
		A	積極的に授業に参加し、授業内容をしっかりと理解し、自分自身の知識としている。
		B	授業に主体的に参加することで授業内容を理解し、自分自身の知識となるように努力している。
		C	授業内容について最低限の理解はしているが、自分自身の知識となるよう今後も努力する必要がある。
		F	授業への取り組み、および内容理解への努力が不十分であった。
保育内容 （音楽表現）	山田　麻美子	S	積極的な受講により保育者になるための多様な表現活動体験の理解と取り組みの姿勢は他の学生の模範となった。
		A	保育者になるための多様な表現活動体験の理解と取り組みの姿勢が到達目標に達した。
		B	保育者になるための多様な表現活動体験の理解と取り組みの姿勢を身につける努力が出来た。
		C	保育者になるための多様な表現活動体験の理解と取り組みの姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	授業への参加が不十分で求められる体験の積み重ねが出来なかった。
保育内容 （身体表現）	久保　景子	S	積極的な受講態度で、多様な表現活動の体験と理解が十分でき、自分自身との関連付け及び応用ができた。
		A	積極的に受講し、多様な表現活動の体験と理解ができ、自分自身との関連付けができた。
		B	授業に参加することで多様な表現活動の体験を認識し、体験の意味が理解できた。
		C	授業に参加し、表現活動を体験できた。
		F	授業への参加が不十分で求められる体験の積み重ねができなかった。
保育内容 （ドラマ表現）	山本　直樹	S	積極的な受講により多様な表現活動の体験の理解と自分自身との関連づけおよび応用ができる。
		A	積極的な受講により多様な表現活動の体験の理解と自分自身との関連づけができる。
		B	授業に主体的に参加することで多様な表現活動の体験を認識し、体験の意味を理解できる。
		C	授業に参加することで多様な表現活動の体験を認識できる。
		F	授業への参加が不十分で求められる体験の積み重ねができていない。

科目名	担当教員名		成績コメント
保育内容 （造形表現）	深澤　瑞穂	S	積極的な受講により、保育者になるための多様な造形表現の理解と取り組みの姿勢は、他の学生の模範となった。
		A	保育者になるための多様な造形表現の理解と取り組みの努力が到達目標に達した。
		B	保育者になるための多様な造形表現の理解と取り組みの姿勢を身に付ける努力ができた。
		C	保育者になるための多様な造形表現の理解と取り組みの努力をする必要があった。
		F	授業への参加が不十分であり、求められる体験の積み重ねができなかった。
保育相談支援	杵鞭　広美	S	積極的に質問や発言をするなど、毎回の課題に意欲的に取り組み、他の学生の模範となるべく学習成果を示した。
		A	授業内課題および授業外課題ともに意欲的に取り組み、本科目の到達目標に相応する学習成果を示した。
		B	授業中の受講態度と課題への取り組みはおおむね良好で、本科目の到達目標に向けて努力した様子が示された。
		C	本科目を受講する基本的態度が示され、習得すべき最低限の内容は理解できていた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
総合表現	山田　麻美子　他	S	積極的な受講により総合的な表現活動の理解と自分自身との関連づけおよび応用ができる。
		A	積極的な受講により総合的な表現活動の理解と自分自身との関連づけができる。
		B	授業に主体的に参加することで総合的な表現活動を認識し、体験の意味を理解できる。
		C	授業に参加することで総合的な表現活動を認識できる。
		F	授業への参加が不十分で求められる体験の積み重ねができていない。
特別支援教育演習	杵鞭　広美	S	授業で取り上げた内容について、主体的に学び十分成果を上げた。
		A	授業で取り上げた内容について、主体的に学び成果を上げた。
		B	授業で取り上げた内容について、主体的に学び努力をした。
		C	授業で取り上げた内容について学んだが、もっと努力が必要であった。
		F	授業で取り上げた内容について、学ぶ努力が不十分であった。
道徳性の教育	日暮　トモ子	S	道徳の意義と道徳教育の目的・内容を理解し、自分自身の道徳的実践力を高めることができた。
		A	道徳の意義と道徳教育の目的・内容を理解し、自分自身の道徳的実践力を高めようとしている。
		B	道徳の意義と道徳教育の目的・内容を理解し、実践することの大切さを認識できた。
		C	道徳の意義と道徳教育の目的・内容を理解しようと努めている。
		F	道徳の意義と道徳教育の目的・内容の理解が不十分だった。
特別活動の指導	山本　直樹	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	「特別活動」を指導するための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	「特別活動」を指導するための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	「特別活動」を指導するための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	「特別活動」を指導するための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
生活指導	羽田　紘一	S	学校教育における生活指導の意義を理解し、実践する態度が向上した。
		A	学校教育における生活指導の意義を理解し、実践しようとする態度がみられた。
		B	学校教育における生活指導の意義を理解し、実践の大切さを認識した。
		C	学校教育における生活指導の意義を理解することはできた。
		F	学校教育における生活指導の意義の理解が不十分だった。

科目名	担当教員名		成績コメント
国語科指導法	三澤　裕見子	S	積極的な受講態度と国語科指導法に対する知識と理解を十分に深めた。
		A	積極的な受講態度と国語科指導法に対する知識と理解を深めた。
		B	国語科指導法に対する知識を身につける努力をした。
		C	国語科指導法に対する知識を身につける努力がもう少し必要だった。
		F	国語科指導法に対する知識を身につける努力が不十分であった。
社会科指導法	山本　直樹	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	「社会科」を指導するための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	「社会科」を指導するための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	「社会科」を指導するための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	「社会科」を指導するための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
算数科指導法	滝沢　清	S	算数指導の基本的知識が十分身に付き、かつ受講態度が積極的である。
		A	算数指導の基本的知識と姿勢が到達目標に達している。
		B	算数指導の基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	算数指導の基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	算数指導の知識習得や学習への取り組みが不十分である。
理科指導法	鶴岡　義彦	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	教師になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	教師になるための基本的知識と姿勢を身に付ける努力をしている。
		C	教師になるための基本的知識と姿勢を身に付ける努力をする必要がある。
		F	教師になるための知識習得や学習への取組みが不十分であった。
生活科指導法	山嵜　早苗	S	積極的な受講態度により生活科についての十分な知識理解は他学生への手本となった。
		A	積極的な受講により生活科についての知識理解が到達目標に達した。
		B	小学校教諭になるための基本的な知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	小学校教諭になるための基本的な知識と姿勢を身につける努力を今少し要する。
		F	小学校教諭になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
家庭科指導法	伊藤野里子	S	小学校家庭科について、家庭科教育の意義を踏まえた上で、指導法の理解や説明および指導計画の作成などの基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果が認められた。
		A	小学校家庭科について、家庭科教育の意義を踏まえた上で、指導法の理解や説明および指導計画の作成などの基本的な目標を十分に達成した。
		B	小学校家庭科について、指導法の理解や説明および指導計画の作成などの基本的な目標を概ね達成した。
		C	小学校家庭科について、指導法の理解や説明および指導計画の作成などの基本的な目標を最低限度達成した。
		F	小学校家庭科について、指導法の理解や説明および指導計画の作成などの基本的な目標を達成していない。
音楽科指導法	三小田美稲子	S	積極的に発言したり、グループでの活動を促進する役目を果たしたりと、授業に積極的に取り組み、教員に必要な知識や姿勢を身に付けることができた。
		A	取り組むべき課題はきちんとやりとげ、教員に必要な知識や姿勢を身に付けることができた。
		B	教員に必要な知識や姿勢を身に付けるよう努力していた
		C	教員に必要な知識や姿勢を身に付けるように努力する必要がある。
		F	授業への参加が不足し、教員に必要な知識や姿勢を身に付けることができなかった。

科目名	担当教員名		成績コメント
図画工作科指導法	有福　一昭	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	教員になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	教員になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	教員になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	教員になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
体育科指導法	菊地　大介	S	主体的に授業し参加し、指導者としての自覚を持って演習の展開ができた。
		A	主体的に授業に参加し、学習内容を理解し周囲に示すことができている。
		B	授業に積極的に参加し、基本的な内容を理解し習得している。
		C	授業への参加はできたが、基礎的な知識と理解に努力を要する。
		F	授業への参加が不十分で、学習内容の理解が不足している。
音楽Ⅰ (理論と基礎実技) 前後期共通	山田　麻美子 松田　扶美子	S	授業や課題に積極的に取り組み、音楽の基礎理論について十分に理解し技術を習得した。
		A	授業や課題に積極的に取り組み、音楽の基礎理論の理解と技術を概ね習得出来た。
		B	授業や課題に積極的に取り組み、音楽の基礎理論の理解と技術の習得に努めた。
		C	授業や課題の取り組み、音楽の基礎理論の理解、技術習得のための努力が必要である。
		F	授業や課題への取り組みが不十分であり、音楽の基礎理論の理解と技術習得のための努力が目標に達しなかった。
音楽Ⅱ (うたと楽器) 前後期共通	山田　麻美子 松田　扶美子　他	S	積極的な受講態度と十分な音楽知識・技能で他の学生の模範となった。
		A	積極的な受講により音楽知識・技能が到達目標に達した。
		B	保育者になるための音楽知識・技能を身につける努力が出来た。
		C	保育者になるための音楽知識・技能を身につける努力をする必要がある。
		F	授業への参加が不十分で求められる体験の積み重ねが出来なかった。
ピアノⅠ (ピアノの基礎) 前後期共通	山田　麻美子 諸井　泰子 中目　ますみ	S	授業や課題に積極的に取り組み、ピアノ奏法について十分に理解し技術を習得した。
		A	積極的な受講によりピアノ演奏能力が到達目標に達した。
		B	保育者になるためのピアノ演奏力を身につける努力が出来た。
		C	保育者になるためのピアノ演奏力を身につける努力をする必要がある。
		F	授業への参加が不十分で求められる体験の積み重ねが出来なかった。
ピアノⅡ (弾き歌いと伴奏) 前後期共通	諸井　泰子 角田　玲奈 西脇　千花 福田　久美	S	授業や課題に積極的に取り組み、歌唱伴奏・弾き歌い演奏・即興演奏力について十分に理解し技術を習得した。
		A	積極的な受講により歌唱伴奏・弾き歌い演奏能力が到達目標に達した。
		B	保育者になるための歌唱伴奏・弾き歌い演奏力を身につける努力が出来た。
		C	保育者になるための歌唱伴奏・弾き歌い演奏力を身につける努力をする必要がある。
		F	授業への参加が不十分で求められる体験の積み重ねが出来なかった。

科目名	担当教員名		成績コメント
図画工作 前後期共通	有福　一昭	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	保育者になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	保育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	保育者になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	保育者になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
体育	菊地　大介	S	主体的に授業し参加し、周囲の手本となる活動を展開していた。
		A	主体的に授業に参加し、学習内容を理解し深めることができている。
		B	授業に積極的に参加し、基本的な内容を理解し習得している。
		C	授業への参加はできたが、基礎的な知識と理解に努力を要する。
		F	授業への参加が不十分で、学習内容の理解が不足している。
国語 （書写を含む）	三澤　裕見子	S	積極的な受講態度と国語に対する知識と理解を十分に深めた。
		A	積極的な受講態度と国語に対する知識と理解を深めた。
		B	国語に対する知識を身につける努力をした。
		C	国語に対する知識を身につける努力がもう少し必要だった。
		F	国語に対する知識を身につける努力が不十分であった。
算数	滝沢　清	S	算数についての基本的知識が十分身に付き、かつ受講態度が積極的である。
		A	算数についての基本的知識と姿勢が到達目標に達している。
		B	算数についての基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	算数についての基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	算数についての知識習得や学習への取り組みが不十分である。
生活	山嵜　早苗	S	積極的な受講により生活についての知識理解が歴史的な連続性の中で達成できた。
		A	積極的な受講により生活についての知識理解が広く関連的に達成できた。
		B	授業に主体的に参加する中で生活についての理解が深まった。
		C	授業に参加することで生活についての理解が一定程度進んだ。
		F	授業への参加が主体的でなく生活についての理解が不十分であった。
飼育栽培	山嵜　早苗	S	積極的な受講により飼育栽培活動の体験と理解が他学生への手本となった。
		A	積極的な受講により飼育栽培活動の体験と理解が深まり表現活動が高まった。
		B	授業に主体的に参加する中で飼育栽培についての知識理解が深まった。
		C	授業に主体的に参加することで飼育栽培についての関心が一定程度高まった。
		F	授業への参加が主体的でなく飼育栽培活動についての理解が不十分であった。
社会	山本　直樹	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	社会科教育の基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	社会科教育の基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	社会科教育の基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	社会科教育の知識習得や学習への取り組みが不十分であった。

科目名	担当教員名		成績コメント
理科	藤田　剛志	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	小学校教師になるための基本的知識と態度が到達目標に達した。
		B	小学校教師になるための基本的知識と態度を身につける努力をしている。
		C	小学校教師になるための基本的知識と態度を身につける努力をする必要がある。
		F	小学校教師になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
家庭	伊藤　野里子	S	小学校家庭科について、内容の理解や説明および課題発見と考察などの基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果が認められた。
		A	小学校家庭科について、内容の理解や説明および課題発見と考察などの基本的な目標を十分に達成した。
		B	小学校家庭科について、内容の理解や説明および課題発見と考察などの基本的な目標を概ね達成した。
		C	小学校家庭科について、内容の理解や説明および課題発見と考察などの基本的な目標を最低限度達成した。
		F	小学校家庭科について、内容の理解や説明および課題発見と考察などの基本的な目標を達成していない。
プレ実習	杵鞭　広美 深澤　瑞穂 橘　和代	S	実習生として相応しい基本的態度を身につけ、3日間の観察実習をとおして、今後の実習に必要な課題を自ら明確に示すことができた。
		A	実習生として相応しい基本的態度を身につけ、3日間の観察実習をとおして、今後の実習に必要な課題を自ら見出すことができた。
		B	実習生としてふさわしい基本的態度を学び、3日間の観察実習に参加し、今後の実習に必要な課題を見出すことができた。
		C	実習生としてふさわしい基本的態度を学び、3日間の観察実習に参加することができた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
事前事後の指導 （保育所・施設）Ⅰ	杵鞭　広美 木庭　みち子 橘　和代	S	実習に臨むまでの基本的事項を十分に理解し、実習終了後は、自己評価を含めて、今後の課題を明確にすることができた。
		A	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、実習終了後は、自己評価を含めて、今後の課題を見出すことができた。
		B	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、実習終了後に、今後の課題を考察することができた。
		C	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、12日間の実習を終了することができた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
事前事後の指導 （保育所）Ⅱ	木庭　みち子 橘　和代	S	事前事後の授業を休まず出席し、取り組む姿勢も積極的で課題提出も守り内容も適確である
		A	事前事後の授業も休まず出席し、実習の事前提出書類や課題提出も、決められた期限を守り、的確に対処することができる
		B	事前事後の授業に出席し、実習の事前提出書類や課題提出も、やや遅れるが対処することができる
		C	事前事後の授業に出席し、実習の事前提出書類や課題提出も、遅れるが対処することができる
		F	事前事後の授業が休みがちになり、実習のねらいや目的をよく理解しないで、辞退となってしまう
事前事後の指導 （施設）Ⅲ	杵鞭　広美 橘　和代	S	実習に臨むまでの基本的事項を十分に理解し、実習終了後は、自己評価を含めて、今後の課題を明確にすることができた
		A	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、実習終了後は、自己評価を含めて、今後の課題を見出すことができた。
		B	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、実習終了後に、今後の課題を考察することができた。
		C	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、12日間の実習を終了することができた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
保育実習(保育所) Ⅰ	木庭　みち子 橘　和代	S	実習のねらいや目的を十分に理解し、自己管理もしっかり対応し実習を終えることができる、また実習園の指導に対しても理解している。
		A	実習うのねらいや目的を良く理解し、自己管理に気を付け実習を終えることができる、また実習園の指導に対して改善する姿勢がみられる。
		B	実習の目的やねらいを理解し、体調管理もしながら実習を終えることができる、実習園の指導に対しては、理解し改善しようとする。
		C	実習のねらいや目的をあまり理解できず、また実習園の指導に対しても理解することが乏しく改善もあまり見られない。
		F	実習のねらいや目的を理解できず、実習園の指導に対しても改善が見られなく実習を続けることが困難である。

科目名	担当教員名		成績コメント
保育実習（施設）Ⅰ	杵鞭　広美 橘　和代	S	実習生として相応しい基本的態度をもって実習に取り組み、今後の保育実践に必要な課題を明確にすることができた。
		A	実習生として相応しい基本的態度をもって実習に取り組み、今後の保育実践に必要な課題を見出すことができた。
		B	実習生として相応しい基本的態度をもって実習に取り組み、実習終了後に、今後の課題を考察することができた。
		C	実習生に必要な最低限の事項を理解し、12日間の実習を終了することができた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
保育実習（保育所）Ⅱ	木庭　みち子 橘　和代	S	実習のねらいや目的を十分に理解し、自己管理もしっかり対応し実習を終えることができる、また実習園の指導に対しても理解し責任実習の課題も評価が良い。
		A	実習のねらいや目的をよく理解し、体調管理もでき実習を終えることができる、実習園の指導にもよく応え、責任実習においてよく課題を実践することができる。
		B	実習の目的や課題を理解し、体調管理もほぼできている、実習園の指導に対し責任実習の課題実践を終えることができる。
		C	実習の目的や課題の理解が弱く、体調管理にも不安を覚える、実習園の指導に対し責任実習の実践課題に困難さがある。
		F	実習のねらいや目的の理解がなく、体調管理にも不安があり、実習園の指導に対して責任実習の実践課題に困難があり、中断に至る。
保育実習（施設）Ⅲ	杵鞭　広美 橘　和代	S	実習の目的を明確にしたうえで、保育実習Ⅰよりも発展づけた実習を行うことができた。
		A	実習の目的を明確にしたうえで、発展づけた実習を行うことができた。
		B	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、実習終了後に、今後の課題を見つけるすることができた。
		C	実習に臨むまでの基本的事項を理解し、12日間の実習を終了することができた。
		F	本科目に対する受講態度が十分に示されなかった。
事前事後の指導 （幼稚園）	深澤　瑞穂 橘　和代	S	一日実習指導案や提出物及び模擬保育等、与えられた課題に向かって、積極的に取り組み、保育者としての知識や態度について十分学びを深めることができた。
		A	積極的に受講し、保育者になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	保育者になるための基本知識と姿勢を身に付ける努力ができた。
		C	保育者になるための基本知識と姿勢を身に付ける努力をする必要がある。
		F	授業への参加が不十分であり、保育者になるための知識習得や学習への積み重ねができなかった。
教育実習（幼稚園）	深澤　瑞穂 橘　和代	S	実習への心構えや準備に積極的にあたり、実習先で、幼児理解や指導案及び日誌記入など、保育者になるための十分な成果をあげ、高い評価を受けた。
		A	実習に積極的に参加し、保育者になるための知識や態度が十分身に付いた。
		B	実習に参加し、保育者になるための知識や態度が身に付いた。
		C	実習に参加したが、保育者になるための知識や態度をが身にける努力が乏しかった。
		F	実習への参加が不十分であり、求められる体験の積み重ねができなかった。
事前事後の指導 （小学校）	有福　一昭	S	積極的な受講態度と十分な知識理解は、他の学生の手本となった。
		A	教員になるための基本的知識と姿勢が到達目標に達した。
		B	教員になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をしている。
		C	教員になるための基本的知識と姿勢を身につける努力をする必要がある。
		F	教員になるための知識習得や学習への取り組みが不十分であった。
教育実習（小学校）	有福　一昭	S	実習校での評価も高く、他の学生の手本となった。
		A	実習校での実習内容が到達目標に達した。
		B	実習校で実習内容をさらに身につけるべく努力をしている。
		C	教員になるための実習努力をする必要がある。
		F	教員になるための実習態度や実習への取り組みが不十分であった。

科目名	担当教員名		成績コメント
ボランティア活動と キャリア教育	山本　直樹 菊地　大介	S	積極的な受講態度と、基準となるボランティア体験の時間数を超えた。
		A	授業への積極的な取り組みは見られなかったが、基準となるボランティア体験の時間数を超えた。
		B	授業への取り組みは見られ、基準となるボランティア体験の時間数を超えた。
		C	基準となるボランティア体験の時間数を超えた。
		F	基準となるボランティア体験の時間数を超えることができなかった。
卒業研究	子ども教育学科教員	S	自らの研究課題に主体的に取り組み、必要な知識や態度を十分に身につけて研究成果をあげ、卒業研究を通して保育者としての専門的知識を十分に深めることができた。
		A	自らの研究課題に主体的に取り組み、必要な知識や態度を身につけて研究成果をあげ、卒業研究を通して保育者としての専門的知識を深めることができた。
		B	自らの研究課題に主体的に取り組んで研究に必要な基本的知識や態度を学び、平均的な水準で研究成果をまとめることができた。
		C	自らの研究課題に取り組むために必要な知識や態度を身につけ、最低限の水準で研究成果をまとめることができた。
		F	研究課題に取り組むために必要な最低限の知識や態度が身についておらず、研究成果をまとめることができなかった。

〈自由科目〉

科目名	担当教員名		成績コメント
レクリエーション（理論）	丸山　正	S	レクリエーション学習に積極的に取り組み基礎的知識が修得できた。
		A	レクリエーションの基礎的知識を習得することができた。
		B	レクリエーションの基礎的知識をしっかり学ぶことができた。
		C	レクリエーションの基礎的知識をさらに学んでほしい。
		F	レクリエーション理論の授業に参加が不十分であった。
レクリエーション（実技） 前期	丸山　正	S	レクリエーション学習に主体的に取り組み実技の展開法を身につけた。
		A	レクリエーション学習に取り組み基礎的な実技の修得ができた。
		B	レクリエーション学習に取り組み基礎的な実技を習得するよう努力した。
		C	レクリエーションの基礎的実技の修得に更なる努力を期待したい。
		F	レクリエーションの基礎実技の授業への参加が不十分であった。
レクリエーション（実技） 後期	丸山　正	S	レクリエーション学習に主体的に取り組み楽しい実技の展開ができる。
		A	レクリエーション学習に取り組み実技を習得することができた。
		B	レクリエーション学習に取り組み実技を習得するよう努力した。
		C	レクリエーション実技の習得に更なる努力が必要である。
		F	レクリエーション実技の授業への参加が不十分であった。
在宅保育論	岩本　圭子 杵鞭　広美 日暮　トモ子 諸井　泰子 木庭　みち子	S	在宅保育者の社会的役割や在宅保育サービスにおける具体的方法を十分に理解し、極めて優秀な成果をおさめている。
		A	在宅保育者の社会的役割や在宅保育サービスにおける具体的方法を十分理解している。
		B	授在宅保育者の社会的役割や在宅保育サービスにおける具体的方法を基本的に理解している。
		C	在宅保育者の社会的役割や在宅保育サービスにおける具体的方法に対する理解が最低限の水準を満たしている。
		F	在宅保育者の社会的役割や在宅保育サービスにおける具体的方法に対する理解が最低限の水準を満たしておらず、再履修が必要である。